

青森県埋蔵文化財調査報告書 第245集

# 水吉遺跡

— 八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）に伴う発掘調査報告 —

1998年3月

青森県教育委員会



## 序

南郷村には、三内丸山遺跡にも匹敵する畑内遺跡をはじめとして多くの遺跡が分布しています。

この報告書は、八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）の実施に先立ち、事業地内に所在する南郷村水吉遺跡を発掘調査した結果をまとめたものです。調査では、縄文土器、石器をはじめとして、弥生・平安時代の土器、縄文時代の竪穴住居跡やフラスコ状ピットなどが検出されました。

この度の調査によって、眼下に新井田川や小盆地を臨む尾根状の地に生活していた人々の貴重な資料を得ることができました。

今後、この調査によって得られた成果が、地域社会の文化財として広く活用されることを願っております。

おわりに、調査の実施及び報告書の刊行にあたって種々御指導、御協力をいただいた調査指導員をはじめ、関係各位に対して厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

青森県教育委員会

教育長 松森 永祐





## 例 言

- 1 本報告書は、平成8年度に実施した南郷村水吉遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、平成4年3月に青森県教育委員会が編集発行した『青森県遺跡地図』に遺跡番号65229として登録されている。
- 3 本報告書の執筆者は、依頼原稿については文頭に記載し、その他は文末に記してある。
- 4 試料の分析、鑑定については、次の方々に依頼した（順不同、敬称略）。

遺跡周辺の地形と地質及び石器の石質鑑定	八戸市文化財審議委員	松山 力
火山灰の蛍光X線分析	奈良教育大学教授	三辻 利一
放射性炭素年代測定	学習院大学教授	木越 邦彦
- 5 本書に掲載した地形図（遺跡位置図）は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1の地形図「市野沢・階上」を複写したものである。
- 6 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、写真の縮尺は統一していない。
- 7 遺構・遺物の文・図中での表現は、原則として次の様式・基準によった。

- (1) 遺構内外堆積土の注記には、「新版標準土色帖」（小山、竹原；1994）を用いた。
- (2) 平安時代竪穴住居跡の主軸方向は、カマドの主軸方向による。
- (3) 竪穴住居跡においてピット番号脇又は直下に－（マイナス）で記した数値は、床面からの深さを示す。
- (4) 遺構関係のスクリーントーンは、炬などに用いた。
- (5) 白頭山苫小牧火山灰の略称はB-Tmで表した。
- (6) 遺物には観察表・計測値を付し、計測値の単位は石器類はcm、重量はgである。
- (7) 図中で使用したスクリーントーンの表示は次のとおりである。



ミガキ②



焼土及びスリ①



敲打痕



クボミ



スリ②（石器）

- 8 引用・参考文献については本文末に納めた。
- 9 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 10 発掘調査及び本報告書作成にあたって、下記の諸氏から御協力・御助言を得た（順不同、敬称略）。  
飯島伸一、金子昭彦、木幡成雄、小谷地肇、新岡 巖、村木 淳、矢島敬之。



# 本文目次

## 序 例言 目次

第Ⅰ章 調査に至る経過と調査要項 .....	2
第1節 調査に至る経過 .....	2
第2節 調査要項 .....	2
第Ⅱ章 調査方法と調査の経過 .....	5
第1節 調査方法 .....	5
第2節 調査の経過 .....	5
第Ⅲ章 遺跡の環境 .....	6
第1節 遺跡と周辺地域の地形・地質 .....	6
第2節 周辺の遺跡 .....	14
第Ⅳ章 検出遺構と出土遺物 .....	17
第1節 縄文時代の検出遺構と出土遺物 .....	17
1 竪穴住居跡 .....	17
2 土坑 .....	38
3 溝状土坑 .....	64
4 土器埋設遺構 .....	66
5 竪穴状遺構 .....	66
6 配石遺構 .....	72
7 屋外炉 .....	72
第2節 平安時代及びその他の時代の検出遺構と出土遺物 .....	74
1 竪穴住居跡 .....	74
2 炭窯 .....	74
第3節 出土遺物 .....	79
1 土器・土製品 .....	79
2 石器・石製品 .....	94
第Ⅴ章 分析と考察 .....	126
第1節 検出された遺構について .....	126
第2節 遺物について .....	128

第VI章 自然科学的分析 .....	130
第1節 水吉遺跡出土火山灰の蛍光X線分析 (奈良教育大学 三辻 利一) .....	130
第2節 水吉遺跡出土炭化材の放射性炭素年代測定 (学習院大学 木越 邦彦) .....	132
第VII章 まとめ .....	133
写真図版 .....	137
報告書抄録 .....	184

## 挿 図 目 次

図1 遺跡位置図 .....	1	図27 第16・17号土坑 .....	46
図2 地形図と調査区域 .....	4	図28 第18・19号土坑 .....	48
図3 地形区分図 .....	7	図29 第20・21号土坑 .....	49
図4 地形断面図 .....	9	図30 第23・24号土坑 .....	51
図5 土層対比図 .....	12	図31 第25・33号土坑 .....	53
図6 断層断面図 .....	13	図32 第26号土坑 .....	56
図7 遺構配置図 .....	15	図33 第27・29号土坑 .....	57
図8 第1号竪穴住居跡 .....	19	図34 第28・30・32号土坑 .....	59
図9 第1号竪穴住居跡遺物出土位置図 ..	20	図35 第34・35号土坑 .....	61
図10 第1号竪穴住居跡遺物(1) .....	21	図36 土坑内出土遺物 .....	62
図11 第1号竪穴住居跡遺物(2) .....	22	図37 第37・38・39号土坑 .....	63
図12 第1号竪穴住居跡遺物(3) .....	23	図38 第1・2号溝状土坑 .....	65
図13 第1号竪穴住居跡遺物(4) .....	24	図39 第1号土器埋設遺構 .....	67
図14 第1号竪穴住居跡遺物(5) .....	25	図40 第1号埋設土器 .....	68
図15 第1号竪穴住居跡遺物(6) .....	26	図41 第2・3号土器埋設遺構 .....	69
図16 第1号竪穴住居跡遺物(7) .....	27	図42 第3号埋設土器 .....	70
図17 第1号竪穴住居跡遺物(8) .....	28	図43 第1号竪穴状遺構 .....	71
図18 第1号竪穴住居跡遺物(9) .....	29	図44 第1・2号配石遺構・第1号屋外炉 .....	73
図19 第3号竪穴住居跡 .....	34	図45 第2号竪穴住居跡出土遺物(1) .....	75
図20 第4号竪穴住居跡 .....	35	図46 第2号竪穴住居跡出土遺物(2) .....	76
図21 第4号竪穴住居跡遺物(1) .....	36	図47 第1号炭窯 .....	78
図22 第4号竪穴住居跡遺物(2) .....	37	図48 遺構外出土遺物・土器(1) .....	80
図23 第3・4号土坑 .....	39	図49 遺構外出土遺物・土器(2) .....	81
図24 第6・7・8号土坑 .....	40	図50 遺構外出土遺物・土器(3) .....	82
図25 第9・10・11号土坑 .....	42	図51 遺構外出土遺物・土器(4) .....	83
図26 第12・14・15号土坑 .....	44	図52 構外出土遺物・土器(5) .....	84

图53 遺構外出土遺物・土器(6) .....	85	图69 遺構外出土遺物・石器(10) .....	107
图54 遺構外出土遺物・土器(7) .....	86	图70 遺構外出土遺物・石器(11) .....	108
图55 遺構外出土遺物・土器(8) .....	87	图71 遺構外出土遺物・石器(12) .....	109
图56 遺構外出土遺物・土器(9) .....	88	图72 遺構外出土遺物・石器(13) .....	110
图57 遺構外出土遺物・土器(10) .....	89	图73 遺構外出土遺物・石器(14) .....	111
图58 遺構外出土遺物・土器(11) .....	90	图74 遺構外出土遺物・石器(15) .....	112
图59 遺構外出土遺物・土器(12) .....	91	图75 遺構外出土遺物・石器(16) .....	113
图60 遺構外出土遺物・石器(1) .....	98	图76 遺構外出土遺物・石器(17) .....	114
图61 遺構外出土遺物・石器(2) .....	99	图77 遺構外出土遺物・石器(18) .....	115
图62 遺構外出土遺物・石器(3) .....	100	图78 遺構外出土遺物・石器(19) .....	116
图63 遺構外出土遺物・石器(4) .....	101	图79 遺構外出土遺物・石器(20) .....	117
图64 遺構外出土遺物・石器(5) .....	102	图80 遺構外出土遺物・石器(21) .....	118
图65 遺構外出土遺物・石器(6) .....	103	图81 遺構外出土遺物・石器(22) .....	119
图66 遺構外出土遺物・石器(7) .....	104	图82 遺構外出土石器分布区(制片石器・磨製石器) ·	120
图67 遺構外出土遺物・石器(8) .....	105	图83 遺構外出土石器分布区(礫石器) ·	121
图68 遺構外出土遺物・石器(9) .....	106	图84 遺構間遺物接合区 .....	129

## 图 版 目 次

图版 1 調査区遠景 .....	137	图版18 第3号土坑土層堆積状況 .....	141
图版 2 A区調査風景 .....	137	图版19 第3号土坑完掘 .....	141
图版 3 B区調査風景 .....	137	图版20 第4号土坑完掘 .....	141
图版 4 A区土層堆積状況(I O-17付近) ···	137	图版21 第6号土坑土層堆積状況 .....	142
图版 5 第1号竪穴住居跡調査風景 .....	138	图版22 第6号土坑完掘 .....	142
图版 6 第1号竪穴住居跡遺物出土状況 .....	138	图版23 第7号土坑完掘 .....	142
图版 7 第1号竪穴住居跡土層堆積状況 .....	138	图版24 第8号土坑完掘 .....	142
图版 8 第1号竪穴住居跡遺物出土状況 .....	138	图版25 第9号土坑完掘 .....	143
图版 9 第1号竪穴住居跡内粘土 Pit① ···	139	图版26 第10号土坑完掘 .....	143
图版10 第1号竪穴住居跡内地床炉完掘 .....	139	图版27 第11号土坑土層堆積状況 .....	143
图版11 第1号竪穴住居跡内粘土 Pit②堆積状況 .....	139	图版28 第12号土坑完掘 .....	143
图版12 第1号竪穴住居跡完掘 .....	139	图版29 第14号土坑土層堆積状況 .....	144
图版13 第3号竪穴住居跡完掘 .....	140	图版30 第15号土坑完掘 .....	144
图版14 第4号竪穴住居跡遺物出土状況 .....	140	图版31 第17号土坑完掘 .....	144
图版15 第4号竪穴住居跡遺物出土状況 .....	140	图版32 第18号土坑土層堆積状況 .....	144
图版16 第4号竪穴住居跡完掘 .....	140	图版33 第16号土坑完掘 .....	145
图版17 第4号竪穴住居跡出入口部 .....	141	图版34 第19号土坑完掘 .....	145

図版35	第20号土坑完掘	145	図版70	遺物出土状況	154
図版36	第21号土坑土層堆積状況	145	図版71	遺物出土状況	154
図版37	第21号土坑完掘	146	図版72	遺物出土状況	154
図版38	第22号土坑完掘	146	図版73	遺物出土状況	155
図版39	第23号土坑完掘	146	図版74	遺物出土状況	155
図版40	第24号土坑完掘	146	図版75	遺物出土状況	155
図版41	第25号土坑土層堆積状況	147	図版76	遺物出土状況	155
図版42	第25号土坑完掘	147	図版77	第1号竪穴住居跡出土遺物	156
図版43	第33号土坑土層堆積状況	147	図版78	第1号竪穴住居跡出土遺物	157
図版44	第25・33号土坑完掘	147	図版79	第1号竪穴住居跡出土遺物	158
図版45	第26号土坑完掘	148	図版80	第1号竪穴住居跡出土遺物	159
図版46	第27号土坑土層堆積状況	148	図版81	第1号・2号竪穴住居跡出土遺物	160
図版47	第29号土坑土層堆積状況	148	図版82	第2号竪穴住居跡出土遺物	161
図版48	第27・29号土坑完掘	148	図版83	第4号竪穴住居跡出土遺物	162
図版49	第28号土坑完掘	149	図版84	第4号竪穴住居跡出土遺物	163
図版50	第30号土坑完掘	149	図版85	土坑内出土遺物・遺跡外出土製品・ミニチュア土器	164
図版51	第34号土坑完掘	149	図版86	第1・3号埋設土器	165
図版52	第35号土坑土層堆積状況	149	図版87	遺構外出土遺物	166
図版53	第35号土坑完掘	150	図版88	遺構外出土遺物	167
図版54	第37号土坑完掘	150	図版89	遺構外出土遺物	168
図版55	第38号土坑完掘	150	図版90	遺構外出土遺物	169
図版56	第39号土坑完掘	150	図版91	遺構外出土遺物	170
図版57	第1号溝状土坑	151	図版92	遺構外出土遺物	171
図版58	第2号溝状土坑	151	図版93	遺構外出土遺物	172
図版59	第1号埋設	151	図版94	遺構外出土遺物	173
図版60	第1号埋設土層堆積状況	151	図版95	遺構外出土遺物	174
図版61	第2号埋設土層堆積状況	152	図版96	遺構外出土遺物	175
図版62	第3号埋設土層堆積状況	152	図版97	遺構外出土遺物	176
図版63	第1号竪穴状遺構	152	図版98	遺構外出土遺物石器(1)	177
図版64	第1号配石	152	図版99	遺構外出土遺物石器(2)	178
図版65	第2号配石	153	図版100	遺構外出土遺物石器(3)	179
図版66	第1号屋外炉	153	図版101	遺構外出土遺物石器(4)	180
図版67	第2号竪穴住居跡完掘	153	図版102	遺構外出土遺物石器(5)	181
図版68	第2号竪穴住居跡カマド	153	図版103	遺構外出土遺物石器(6)	182
図版69	炭窯完掘	154	図版104	遺構外出土遺物石器(7)	183

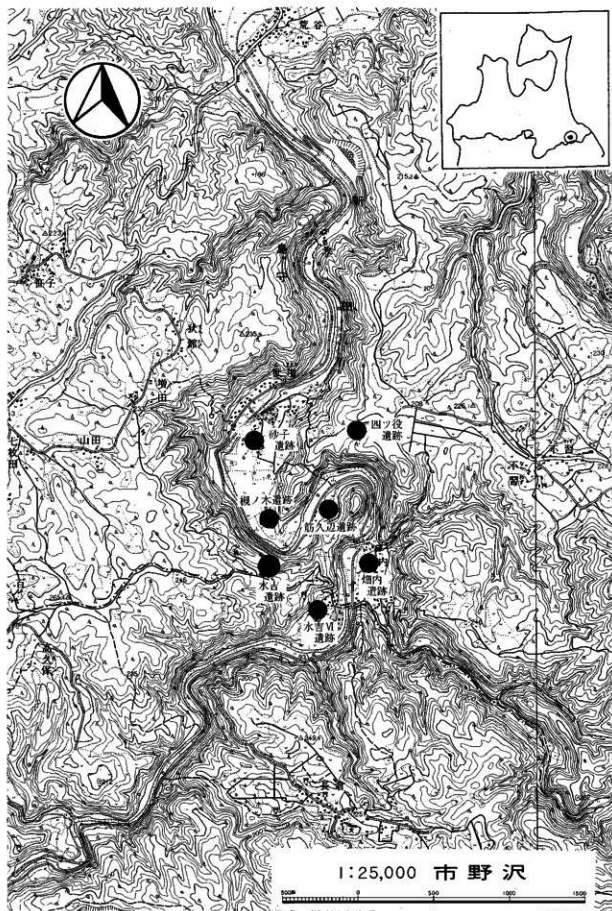


図1 遺跡位置図

# 第 I 章 調査に至る経過と調査要項

## 第 1 節 調査に至る経過

水吉遺跡は、昭和48年に青森県教育委員会が三戸郡南郷村に所在する遺跡として台帳登録した遺跡(65229)である。当時の調査によると、本遺跡は縄文時代前・中・後・晩期の遺跡とされている。

平成6年度に八戸平原開拓建設事業所からの依頼により、世増ダム建設に伴う道路付け替え工事予定地を県教育庁文化課と青森県埋蔵文化財調査センターの職員が踏査したところ、水吉遺跡の隣接地の工事予定地から遺物の散布が見られ、水吉遺跡の範囲が工事予定地まで拡大することが判明した。そこで急遽八戸平原開拓建設事業所と協議をし、平成7年度に発掘調査の必要性の有無を確認するための試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は平成7年11月8日から同年11月24日まで行われた。試掘調査区域から遺物・遺構が検出されたため、試掘調査区域の全域について本調査を実施する必要があると判断され、再度、文化課と八戸平原開拓建設事業所との協議の結果、平成8年度に本調査を実施することとなった。

本調査に先立って、調査区の現況や経路及びプレハブ等の設置場所の確認をするための現地踏査を実施し、具体的な発掘調査費用の見積の準備に入った。また、南郷村教育委員会とも発掘作業員の雇用状況等を協議し、発掘作業員募集要項を示して南郷村教育委員会にその募集を依頼した。

平成8年4月17日には南郷村中央公民館で雇用説明会を開催し、平成8年4月23日に発掘調査を開始した。

## 第 2 節 調査要項

### 1 調査目的

八戸平原開拓建設事業(世増ダム建設)の実施に先立ち、当該地区に所在する南郷村水吉遺跡の埋蔵文化財の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

### 2 発掘調査期間

平成8年4月23日から同年11月1日まで

### 3 遺跡名及び所在地

水吉遺跡 三戸郡南郷村大字島守字水吉6-1番地、外

### 4 調査対象面積

11,500平方メートル



## 5 調査委託者

東北農政局八戸平原開拓建設事業所

## 6 調査受託者

青森県教育委員会

## 7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

## 8 調査協力機関

南郷村教育委員会、三八教育事務所

## 9 調査参加者

調査指導員	市川 金丸	青森県考古学会会長（考古学）
調査協力員	高畑 繁昭	南郷村教育委員会教育長
調査員	松山 力	八戸市文化財審議委員（地質学）
	上村 四郎	南郷村歴史民俗資料館研究員（考古学）
	小林 和彦	八戸市縄文学習館主任主査兼学芸員（動物考古学）

## 10 調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

調査第四課	課 長	木村 鐵次郎
	主 事	笹森 一朗
	主 事	茅野 嘉雄
調査補助員	村越 英二郎	
	柿崎 悟	
	田村 富貴子	
	西方 敏子	

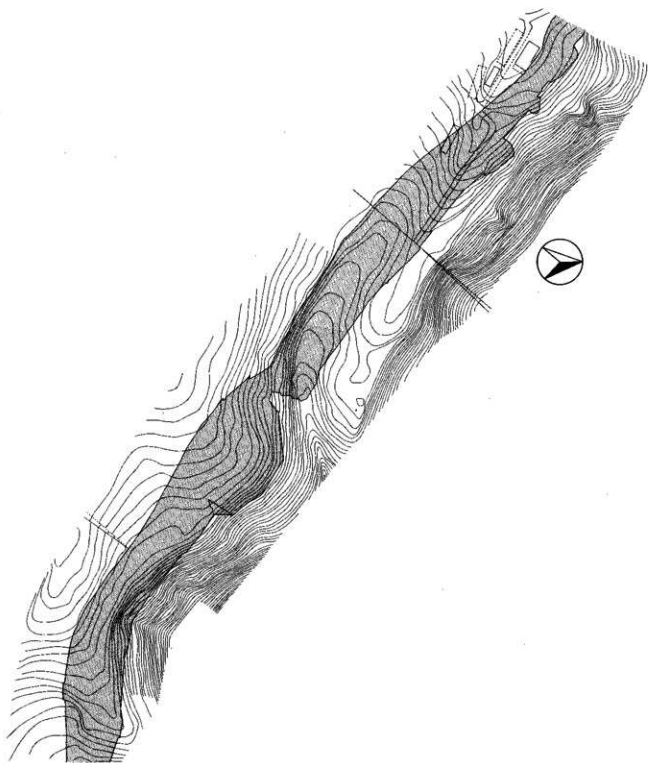


図2 地形図と調査区域

## 第Ⅱ章 調査方法と調査の経過

### 第1節 調査方法

調査区域のグリッドの設定は、樹木の伐採作業により道路工用のセンター杭等が確認できなかったため、遺跡内に任意の杭を打ちⅡT-25と称し、この点を基準に磁北方向に南北方向の基準線を設定し、調査区全体に4×4メートルのメッシュを組んだ。グリッド番号は南北ラインを北から南へローマ数字とアルファベットを組み合わせて、東西ラインは東から西へ算用数字の1から95までを付しグリッドは北西の隅を呼称することとした。

調査区は谷を挟んで西側をA区、東側をB区と呼称し、樹木の伐採が終了しているA区の方から調査を開始した。A区は尾根部と谷部からなっており、東西方向のトレンチを設定し、土層観察用のベルトを残しながら数地点を掘り下げ、順次拡幅していった。また、A調査区中央部のⅡA-35グリッドに深掘りのグリッドを設定し、土層の堆積状況を観察した。

自然堆積土層については、上位から下位に向かってローマ数字とアルファベット小文字の組み合わせを、遺構内の覆土については同じく上位から下位に向かって算用数字を付すこととした。

遺構の精査は、確認順に番号を付した後、原則として四分法を用い、規模の小さいものは二分法を用いた。遺構内出土遺物は必要に応じてポイント・レベル・出土層位を記載し、場合によっては微細図を作成した。

実測は遺り方測量を用い縮尺は20分の1を原則とし、土器埋設遺構・炉は10分の1とした。包含層出土遺物については、グリッド・層位を確認しながら取り上げた。写真撮影は、35ミリのモノクロームとカラーリバーサルの2種類のフィルムを使用して、作業の進展にともない必要に応じて行った。

### 第2節 調査の経過

4月23日、発掘調査器材を現地に搬入し、調査区内の環境整備を行うとともに、グリッド設定の杭打ちを行い、A調査区南側から東西トレンチを設定し掘り下げを開始した。

5月中旬、尾根部の調査区から縄文時代前期から晩期にかけての遺物が出土するようになり、それとともに竪穴住居跡、フラスコ状ピットなどの遺構が検出されはじめたが排土置き場を調査区域内にしか確保できなかったため、排土を移動させながらの調査となった。

7月下旬、B調査区の伐採の終了に伴い、グリッドを設定し掘り下げを開始し、A調査区と並行した調査を行った。

8月下旬、B調査区西側からはフラスコ状土坑や溝状土坑が検出され、土器や石器の出土もみられた。また、調査区東側に行くにしたがって遺構・遺物量が少なくなる傾向がみうけられ、小さな谷を挟んだ東の調査区からは、溝状土坑が1基が検出されたに過ぎず、遺物量もかなり少なかった。

天候にも恵まれ10月下旬までに検出された遺構の精査を終了し、10月末には調査区全体の地形測量を行った。また、危険防止のため深掘りを行った地点やフラスコ状ピット等の埋め戻しを行い、11月1日、調査の全日程を終了した。

## 第三章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡と周辺地域の地形・地質

松山 力

#### 1. 遺跡と周辺地域の地形

調査地域は、岩手県軽米町と青森県南郷村とにまたがる水吉遺跡群のうちの青森県側、新井田川が県境を越える地点から西北西方、およそ、600～1000mの区間である。この区間の中心は、ほぼ北緯40°22'28"、東経141°28'41"の地点である。調査は、幅数十m以内で細長く北西から南東へ続く、約400mの区域で実施された。

軽米町北部から南郷村南部にかけての新井田川流域には、頂部標高200～290mの平頂丘陵地（洪積台地）が広がり、つづらおりに屈曲して流れる新井田川とその支流によって深く刻み込まれている。平頂丘陵地は蒼前平段丘面と天狗岱段丘面とに区分できる。

新井田川（岩手県側では瀬月内川という）は、北上山地北部の平庭岳付近に源流を発生し、南西方約2km地点で主支流の雪谷川を合して県境を越え、島守盆地（遺跡の北方約4km）を通り抜けて八戸湾（北方約17km）に注ぐ、流路延長約84kmの2級河川である。

南方6km付近を中心とする軽米盆地（雪谷川）あるいは南西方4km付近を中心とする高家の小盆地（瀬月内川）と、北方の島守盆地との間の新井田川の河岸は切り立つような急傾斜面に挟まれた峡谷（溪流）が大部分を占めるが、途中の駒木（雪谷川沿い）や上尾田（瀬月内川沿い）、水吉、世増などに小盆地が開けている。

遺跡周辺の丘陵縁と新井田川の谷底平坦面との標高差は100～200mで、谷壁の傾斜角は25～40°にもなっている。

第2図は、調査区域をほぼ中央に置いた、東西2.8km、南北2.0kmの範囲の地形を、国土地理院の2万5千分の1の地形図をもとに、大まかに区分したものである。丘陵面を蒼前平面と天狗岱面とに分け、谷底部は洪積世の最低位段丘と沖積世とに区分した。急傾斜面とした部分は、地表面の傾斜角が、おおよそ20～22°よりも大きい斜面である。

調査地西方には起伏に富む広い丘陵地が広がり、その東縁から東南東方に細長く分岐する幅100～300mの丘陵地に調査区域がある。この東南東に延びる分岐丘陵は、途中でほぼ直角に折れ曲がってL字型に北北東に突き出している（以下L字型丘陵と呼ぶ）。

調査地中央の南方650mを東流する新井田川は、南東方で向きを回して北に流れ、東方750m付近から北北東方に遠ざかったあと、L字型丘陵の先端部急傾斜面下を回って南下し、調査地の北側急傾斜面下から再び逆方向に屈曲して、北方に向かっている。

L字型丘陵の基部から北北東への屈曲部まで縦割りするように、小谷が刻んでいる。小谷と北側の急傾斜面とに挟まれた部分は、調査区域西縁付近からは幅100m未満の細長い尾根状地となり、東方に突き出している。この尾根状地の平頂部は幅20m以内で、稜線の南側は、南下がりの、やや急な斜面から幅の狭い緩傾斜面に漸移する。緩傾斜面からの谷底部は、水成堆積物や崖錐崩壊物に被覆されているので沖積地とした。尾根状地の北側の新井田川谷壁は高度差90～100m、傾斜角40°前後の急傾斜面となっている。

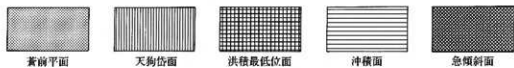
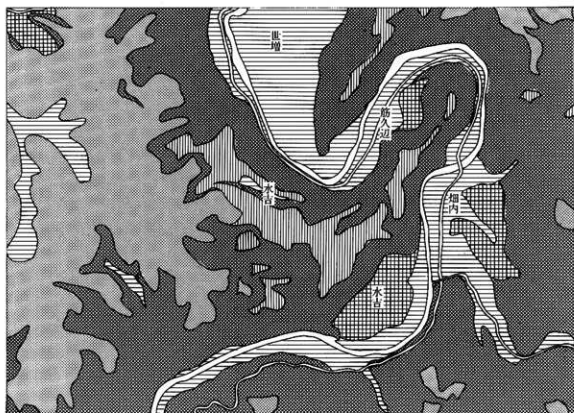


図3 地形区分図

調査地南東方の新井田川左岸（若手県側水吉）と東方の新井田川右岸の畑内とは、谷底に小盆地が開け、双方に遺跡が残され、畑内では現在も発掘調査が継続されている。双方とも、ごくゆるく河岸に傾斜する平坦面の残された洪積世最低位のシラス段丘と、河岸の沖積地で構成されている。一方、調査地北方の新井田川右岸にも、やや広い世増盆地が開け、砂子遺跡があって調査が継続されている。これらの小盆地の東側の地域も、急傾斜面をめぐらす広い丘陵地で、新井田川に下る小河川や小谷に深く刻まれている。

第3図は北38°東の方向に調査地北西端から20m間隔で引いた線下の地形断面を、北西から南東に20mづつ下げて重ねた地形断面図である。

発掘調査は、おもに小谷の北側（調査地の北西部）の尾根状地南斜面（A区）と、南側（調査地の南東部）の丘陵面（B区）とで実施された。

## 2. 地質の概要

周辺地域の基盤は、先第三系の石灰岩・チャート・粘板岩・砂岩・塩基性凝灰岩（従来の輝緑凝灰岩）などである。基盤岩の凹部は、砂礫層などの段丘堆積物で埋められ、基盤岩や段丘堆積物の上には、天狗岱・高館両褐色粘土質火山灰（ローム）層がのり、それらのすべてを八戸火山灰層が覆っている。一連の地層の最上部は地表直下の黒色土類（腐植土、クロボク）に漸移している。黒色土層中には沖積世火山砕屑物が挟まれている。

八戸火山灰層は降下相部と火砕流で構成されるが、降下相部は全域に分布している。火砕流は火山灰流凝灰岩（シラス）で、水吉と畑内両小盆地に、洪積世最低位のシラス段丘を形成している。火山灰流凝灰岩中には、径10cm以上の天然木炭が包含されている。

急傾斜地の裾には崖堆積物が、谷底沖積地には水成の河川堆積物が累積している。

調査地の基盤は粘板岩で、その上面は風化し、無数の粘板岩片に変わっている。その上には、ところによって褐色火山灰層以上の地層や土層が、ところによって直接に黒色土層群がのっている。小谷の底部では、基盤の上に、薄い水成の礫層や、斜面から崩落した崖堆積物がのり、これらを黒色土層群が覆っている。基盤岩とその上位層を切る断層群がA区の西半分とB区の双方で確認されたが、これについては項を改めて述べる。

## 3. 遺跡における層序

遺跡の土層と地層の層序は、A・B両区の丘陵面下の土層がI～IX層の9層に、A区の谷底部の土層が1～9層の9層に分けられ、土層の基盤の八戸火山灰層から高館火山灰層の最上部までが、A区でX層からXX層までの11層に区分された（第4図）。

### (1) 丘陵面下の層序

I層は、厚さ6～26cmの黒褐色（10YR3/1～3/2～2/2）土層で、表層土にあたる。

II層は、厚さ12～28cmの黒色（10YR1.7/1～2/1）～黒褐色（10YR2/2）土層である。灰白色（10YR8/1）、浅黄褐色（10YR8/3）、にぶい黄褐色（10YR6/4）などの色調を帯びた粒径2～4mmの堅い軽石粒を含み、また微細な白色鉱物粒が目立っている。堅い軽石粒は、弥生時代初頭頃に降下した十和田b降下火山灰の軽石が分散したものである。

III層は、厚さ10～40cmで黒褐色（10YR3/2～2/3）、暗褐色（10YR3/3～3/4）、明褐色（10YR6/6）

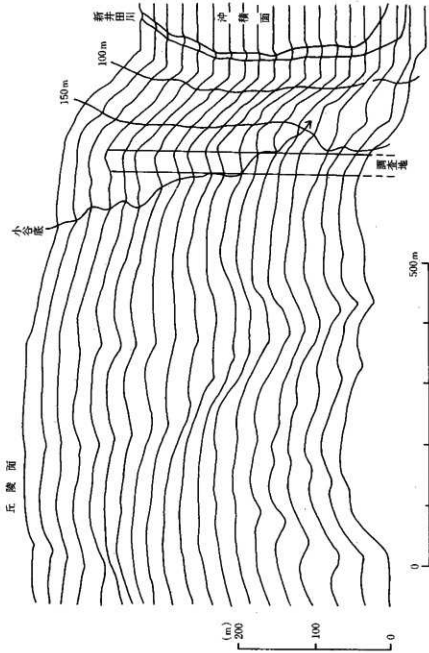


図4 地形断面図

ないし黄橙色 (10YR8/6-7/6) など、多様な色調の砂質土層である。色調の変化は、黄色軽石砂 (火山灰) と黒色土類との混合度によるもので、一般に軽石砂は下部ほど密に混合している。軽石砂は縄文時代前期前半に降下した中礫浮石に由来するもので、Ⅲ層の下半部に、中礫浮石層の一部がそのまま黄褐色 (10YR5/6) 砂塊として断続するところもある。全体に粒径 2-9mm の黄褐色 (10YR8/6) ~ 明黄褐色 (10YR6/6) 軽石粒が散らばり、上半からは縄文時代の遺物が出土している。

Ⅳ層は、厚さ 10-40cm の黒褐色 (10YR2/2-2/3) ~ 暗褐色 (10YR3/4) 土層である。厚いところでは上部 3-5cm が黒色 (10YR2/1) 土層、中・下部が黒褐色 (10YR2/2) 土層、垂れるように下方に厚みを増す部分は黒褐色 (10YR2/3) 土層となり、浅黄褐色 (10YR8/3-8/8) ~ (10YR7/8) 軽石を上部ほどまばらに、下部ほど密に含んでいる。

Ⅴ層は、厚さ 12-45cm の黄褐色 (10YR8/6) ~ 橙色 (7.5YR7/6) 軽石粒が密集した崩れやすい軽石層で、縄文時代早期に降下した南部浮石層である。場所によってはその色調が、上部が色 (10YR7/8)、中部が明黄褐色 (10YR7/6) ~ 橙色 (7.5YR7/6)、下部が黄色 (2.5YR7/8) と変化する。軽石粒の粒径は 2-25mm で、軽石粒の隙間を細礫-砂粒大の黒褐色 (10YR5/1-4/1) 岩片が充填している。軽石粒の粒度は、下部 3-5 分の 1 ほどがやや細くなる。

Ⅵ層は、厚さ 0-30cm の黒褐色 (10YR2/3) ~ 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土層で、粒径 1-5mm の浅黄色 (10YR8/3) 軽石粒が散らばっている。

Ⅶ層は、厚さ 10-24cm の褐色 (10YR4/4) 土層であるが、暗褐色 (10YR3/4) の上部土層と褐色 (10YR4/6) の下部土層とに別れるところがある。全体に粒径 3-8mm の黄褐色 (10YR8/6) あるいは粒径 2-14mm の灰白色 (10YR8/1) 軽石粒が点在するほか、上部には粒径 3-14mm の明黄褐色 (10YR7/6) 軽石粒、下部には粒径 3-8mm の黄褐色 (10YR8/6) 軽石粒が散らばっている。

Ⅷ層は、黒褐色 (10YR3/2) 土塊と褐色 (10YR4/4) 土塊の混合層で、厚さ 10-24cm である。場所によってはにぶい黄褐色 (10YR4/3) ~ 褐色 (上半 10YR4/4、下半 10YR4/6) 砂質土層になる。粒径 3-15mm の灰白色 (10YR8/1) 軽石粒が、ところによりまばらにあるいはやや密に混じり、粒径 2-6mm の褐灰色 (10YR5/1-4/1) 岩片が散在している。

Ⅸ層は、にぶい黄褐色 (10YR5/4) ~ 黄褐色 (10YR5/6)、あるいはにぶい黄褐色 (上半 10YR7/4-6/4、下半 10YR7/3) を帯びた、厚さ 10-26mm の粘土質土層である。粒径 3-20mm の灰白色 (10YR8/1) 軽石粒がやや多量に混じっている。

X層は、厚さ 22-34mm の浅黄褐色 (10YR7/3) ~ にぶい黄褐色 (10YR7/4) 粘土質火山灰 (ローム) 層である。やや砂質で粘性に乏しい。

XⅠ-XⅧ層は降下型の八戸火山灰層で、粘土・シルト砂状火山灰と軽石層の互層である。本来は灰白色 (10YR8/1-8/2、7/1) の地層であるが、風化部分は浅黄褐色 (10YR8/3-8/4) ~ 浅黄色 (2.5YR7/3) の色調を帯びている。大池・松山・七崎(1970)は、八戸火山灰の降下相部を、下から上へⅠ-Ⅷ層の 6 層に分類している。以下の区分の XⅡ層はⅢ層に、XⅢ層はⅡ層に XⅣ-XⅧ層はⅠ層に相当する。

XⅠ層は厚さ 18-22cm の軽石層である。粒径 2-15mm の軽石が密集し、崩れやすい。

XⅡ層は厚さ 3-4cm の火山灰層で、粗砂-粘土相当粒度の火山灰の密集層である。

XⅢ層は厚さ 1-5cm の軽石と火山灰の混合層で、軽石の粒度は 3-25mm である。



XIX層は厚さ4~28cm、色調がわずかに異なるXV層は厚さ2~10cmの粘土質火山灰層で、両層の合計層厚は10~20cmである。XVII層は厚さ3~8cmの軽石混じり粘土質火山灰層で、軽石粒の粒径は3~12mmの軽石粒が多量に含まれている。

XIX層は高館火山灰層の最上部で、上限に薄い炭質物を含んだにぶい黄褐色(10YR6/4)の風化帯を伴う黄褐色(10YR5/8)~明黄褐色(10YR6/6)粘土質火山灰層である。

XX層は基盤の粘板岩で、上部の数10cm~2m程度は折れ曲がり(クリープ)、細かく破砕されている。その上位には、八戸火山灰との間に、ところによって数十cm程度の高館火山灰層、ところによって数m以内の段丘砂層や天狗岱・高館両火山灰層がのっている。

#### (2) 小谷の底部層序

A区南西を限る小谷の底部層序は、1~10層の、10層に区分された。

1層は、厚さ18~38cmの粘性に乏しい砂質黒色(10YR1.7/1~2/1)土層で、中粒砂大の軽石砂(火山灰)が多量に混入している。白色鉱物の微粒子が目立ち、粒径2~5mmの堅い浅黄色(10YR8/4)軽石粒が散在している。

2層は、厚さ12~40cmのやや粘性に富む(10YR1.7/1)土層で、1層同様の堅い軽石粒が散在している。

3層はふつう、厚さ3~12cmの黒色(10YR2/1)~黒褐色(10YR)土層であるが上位の2層へ突き出す部分や、下位の4層へ食い込む部分では、最大32の厚さになる。やや砂質で、2層と同様の堅い軽石粒が散在している。

4層は、粉状火山灰の混合した厚さ4~18cm褐色(10YR5/1~5/2)土層で、土層中に、厚さ数cm以内のにぶい黄褐色(10YR6/4)粉状火山灰層が、レンズ状ないし塊状の形状で断続している。この火山灰は苦小牧火山灰である。

5層は、厚さ3~10cmの黒色(10YR2/1)~黒褐色(10YR3/1)土層で、2層と同様の堅い軽石粒が散在している。

6層は、粘性を欠いて崩れやすい、厚さ6~20cmの暗灰黄色(2.5YR5/2)砂質シルト状火山灰層で、A.D.915年に降下したとされる十和田a降下火山灰にあたる。

7層は、厚さ12~24cmの黒褐色(10YR3/1)土層で、粒径3~5mmの堅い灰白色(10YR8/1)軽石粒が散らばっている。やや粘性に富むが、ところによっては上部、5~9cmほどがやや砂質で、粘性に乏しい黒色(10YR2/1)土層となっている。

8層は、厚さふつう22~26cmのややしまった砂質黒色(10YR2/1)土層で、粒径2~15mmの堅い軽石粒が多量に混じり、粒径3~8mmの浅黄褐色(7.5YR8/6)軽石粒が散在している。堅い軽石粒は十和田b降下火山灰に由来するもので、上位の5~1層中に散在する堅い軽石粒は、この軽石粒が上方に散乱したものである。

9層は、厚さ8~16cmの黒褐色(10YR2/1)土層である。

10層は、隙間を粗粒が充填する厚さ30cm以上の円礫層である。礫の粒径は5~10cmであるが、下方には10~数十cmの礫が存在している。

挟在する火山灰や混合する堅い軽石の状況からみて、以上の土層群は縄文時代末葉以降に堆積したものと考えられる。

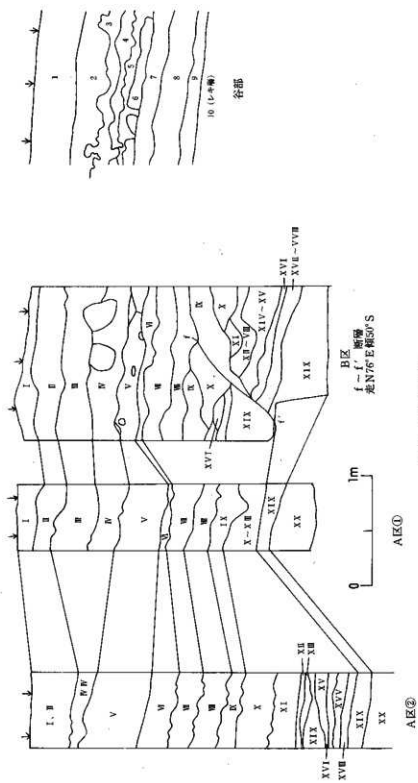


图5 土层对比图

## 4. 調査区域の断層について

A・B両区ともに、基盤の粘板岩でもっとも落差が大きく、上位の土層ほど落差の小くなる断層群が観察された。

第6図は、A区北西端で観察された断層の断面図である。断層面に接する層界面の湾曲部を湾曲させずにそのままのぼして、断層の落差（垂直方向）をみれば、高館火山灰層上面（不整合面）と南部浮石層の下底面では約150cm、中振浮石砂混合層下底では60cm、地表直下の黒色土層では30～40cmになる。各地層や地層面の年代は、高館火山灰層上面が約13,000年前、南部浮石層がおおよそ8,600年前、中振浮石の軽石砂を多量に含む部分がおおよそ5,600～5,000年前、地表直下の黒色土層が2,000～1,000年前である。この断層面の平均の走行・傾斜は、N38°W（偏角修正済み）・60～65°SWである。

A区には、南西側を数m離れて走るもう一つの断層があり、その走向とおよその傾斜角は前者とほぼ同様である。この2列の断層帯は剝土した表層の下で、南東方に70mほどにわたり追跡・確認できた。基盤の粘板岩表面の落差は、3mを越している。

B区で観察された断層はほぼA区の延長方向にあり、並行あるいは斜交する数本以上の断層群で階段状にずれている。逆断層も含まれるが、大部分は正断層である。層位ごとの落差はおおむねA区と同様であるが、断層の中にはその断層面が、南部浮石層と八戸火山灰層との間の土層、あるいは八戸火山灰層で切られているものなどもある。

以上を総合すれば、八戸火山灰降下直前頃から今日まで、この地で、地表に地震断層が出現するような烈・激震規模の大地震が、少なくとも5回は発生したことになる。

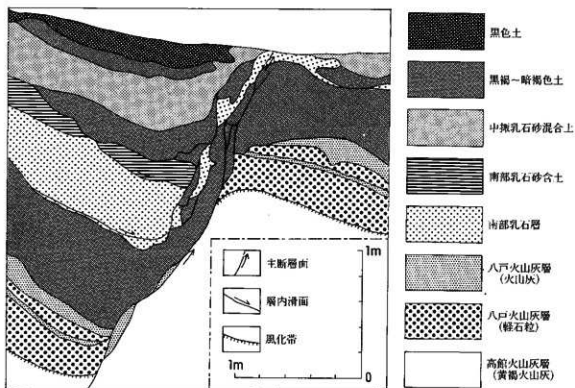


図6 断層断面図

## 第2節 周辺の遺跡

水吉遺跡は岩手県と青森県の県境にあり、その源を岩手県に発する新井田川の左岸の丘陵上に位置し、その周辺には多数の遺跡が存在している。

本遺跡の眼下を流れる新井田川の左岸には筋久辺遺跡、右岸には槻ノ木遺跡・砂子遺跡・四ツ役遺跡、尾根を挟んだ東側の右岸には畑内遺跡、岩手県側の左岸には水吉VI遺跡が所在する。

筋久部遺跡は平成3年度に調査が行われ、多数の土壌や屋外炉が検出されたが、住居跡は確認されず、キャンプ・サイトのな場所であったと推察される。槻ノ木遺跡は平成7年度に試掘調査が行われたが、縄文土器が散漫に検出されるだけで、遺構は検出されなかった。キャンプ・サイト、ハンティング・キャンプ地的な遺跡と推察される。砂子遺跡は、槻ノ木遺跡同様平成7年度に試掘調査が行われ、畠跡が検出されている。平成9年度に本調査が行われ、中世から近世にかけてと思われる畠跡が広範囲に検出された。平成10年度も引き続き調査が行われるため、詳細は不明であるが、畠跡の下に平安時代の集落跡が確認され、一段上位の段丘面からは縄文時代の遺構・遺物も検出されている。畑内遺跡は平成4年度から調査が行われていて、縄文時代前期後半の円筒下層式の拠点集落であったことが明らかになってきた。弥生前期の砂沢式の集落であったことも判明しつつあるが、縄文時代後期の集落が見つかる可能性も、平成9年度の調査で大きくなった。今後の調査に期待するところである。水吉VI遺跡は平成3年度から5年度にかけて発掘調査が行われ、縄文時代・奈良時代・及び中世の集落跡が発見されていて、遺構・遺物に関しても本遺跡との関連が注目されるところである。対岸の同標高の丘陵上には四ツ役遺跡が所在する。平成6年度に発掘調査が行われ、竪穴住居跡、屋外炉、埋設土器などが検出され、縄文時代中期から晩期にかけての集落跡であることが判明している。

南郷村内の遺跡の分布は村内全体に散在してみられるが、ここ新井田川流域にはかなり集中して存在している。ここ数十年、本遺跡を含め新井田川（岩手県側では雪谷川）流域では数多くの遺跡の発掘調査が行われている。今後、これらの遺跡から検出された遺構・遺物を比較・検討することによって、新井田川（雪谷川）流域に住んでいた先史時代の人々の交流を含めた生活の実態が明らかになってくるものと思われる。

（笹森 一朗）

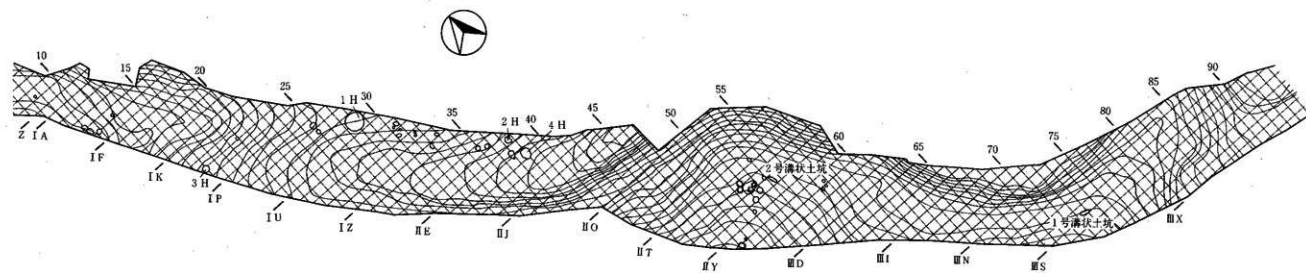


図7 遺構配置図

## 第IV章 検出遺構と出土遺物

本遺跡の発掘調査で検出した遺構は、縄文時代の竪穴住居跡が3軒（第1・3・4号竪穴住居跡）、土坑32基、溝状土坑2基、土器埋設遺構3基、配石2基、屋外炉1基、平安時代の竪穴住居跡1軒（第2号竪穴住居跡）、近代の炭窯1基である。なお、土坑の1・2・5・13・22・31は欠番とした。

以下、遺構毎に記述する。

### 第1節 縄文時代の検出遺構と出土遺物

#### 1 竪穴住居跡

##### 第1号竪穴住居跡（図8-18・図版6-12）

〔位置〕 II S・T-27・28グリッドに位置する。

〔確認〕 III～IV層上面で円形の黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 認められない。

〔平面形・規模〕 長径710cm、短径640cmのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは北側で約80cm、南側で約30cmを計測する。

〔堆積土〕 10層に分層された。概ねレンズ状の堆積状況を呈している。確認面の第1層中には白頭山火山灰と推測される火山灰を含んでいる。また、覆土第3層とした層は3aと3bに分層されているが、これらは十和田a火山灰の可能性が高い。

〔壁〕 北側は概ね垂直に近い感じで立ち上がり、南側はややなだらかに立ち上がる。

〔床面〕 床面は傾斜地に作られていることからV層まで掘り込まれているところとVI層で止まっている部分があるが、概ね平坦である。

〔炉〕 ほぼ中央部に1基検出された。不整な楕円形の地床炉である。

〔柱穴〕 床面には34箇のピットが確認されている。主に北西側に集まっている様子である。床面からの深さは最大で50cm（pit20）、最小で7cmと開きがある。深さの平均は20cmであるが、ある深さにまとまるという傾向はみられない。（各ピットの計測値は表を参照）。配置については住居跡北西側壁面のカーブと同様に配置されるかのようなものも見受けられるが、柱穴配置を推定するには至らない。

〔施設〕 ほぼ中央部に約1mの間隔を置いて粘土状の塊が充填された浅い落ち込みが確認された。用途・性格は不明である。

〔出土遺物〕 覆土及び床面からは段ボール箱にして約10箱の遺物が出土している。全体形状が判断できるほどの復元個体は12個あり、土器片は重量にして13,134g出土している。石器は定形・不定形併せて12点出土している。出土遺物の時期は、縄文時代前期（円筒下層a式）～古代までであるが、ほとんどが縄文時代のものであり、特に縄文時代後期から晩期の遺物が中心である。

##### 縄文時代後期～晩期の土器

先述したとおり本住居跡より出土した遺物はほとんどが縄文時代後期から晩期の土器である。壺、

台付?鉢、浅鉢、注口土器、粗製深鉢などの器種がみられる。しかし、粗製土器に比べると精製土器の比率は少なく感じられる。(精製土器は小さな破片であっても極力掲載した。)精製土器の外表面様には三叉文が主体的にみられることから、ほとんどのものが大洞B式に比定されると考えられる。

また、粗製深鉢に関しては、口唇部の形状に大きく2者がみられた。一つは口唇部端を平らに作るもの。もう一つは口唇部端が内傾するもの(41、42)である。後者の特徴を持つ粗製深鉢は八戸市風張(1)遺跡第5号竪穴住居跡、第8号竪穴住居跡等で出土している。相伴している土器はIV群土器とされており、後期後葉に位置付けられている。前者の特徴を持つ深鉢は同じ八戸市内の八幡遺跡で出土している。同一層から出土する土器は縄文時代晩期前葉(大洞B・BC式)である。

103は粗製深鉢である。胴部上半から口縁部にかけて内側に屈曲するのが特徴的である。104は深鉢形土器である。内外面共にミガキによる器面調整が施されている。これらの土器は、外表面様こそ異なるが、八戸市丹後谷地遺跡のIV群2類に類例をみることができる。本住居跡からはほかに84が同時期にあたると思われる。

#### 縄文時代前期の土器(93~102)

胎土中に繊維を含む土器群である。93は口縁部表裏に縄文が施文される土器である。表面口縁部には複節の縄の巻き付け痕が3条観察される。胴部には単節の斜縄文が施文されている。

#### 石器

石鏃3点、不定形剥片石器5点、磨製石斧2点、敲磨器G群1点、その他1点が出土している。

#### 小結

本住居跡からは縄文時代前期から古代の土器が出土している。出土量の比からいえば、縄文時代晩期前葉(大洞B式)の土器が多い。また、床面近くから出土した遺物はほとんどが縄文時代晩期前葉であることから、本住居跡の構築時期もその時期の可能性が高いものと考えられる。

(茅野 嘉雄)

図No	写No	層位	大分類	細分種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備考
110	99	覆土	石鏃	2	27	18	4.5	1.6	珪質頁岩	
108	97	覆土	石鏃	1c	22.5	13	2.5	0.4	玉髓	
109	98	覆土	石鏃	2	26.5	13	4	0.9	珪質頁岩	
119	107		その他	G	102	91	15	165.5	粘板岩	
118	106	覆土	敲磨器	C	95	65	42	402.5	砂岩	
113	102	覆土	不定形	C	67.4	45.7	70	30.7	珪質頁岩	
115	104		不定形	C	47	46	9.5	18.7	珪質頁岩	
114	103		不定形	C	72	49	12.5	54.9	珪質頁岩	
116	105		磨製石斧	3	125	49.5	26	239.5	安山岩	
112	101		不定形		47.5	34.6	15.6	18.7	珪質頁岩	
111	100	覆土	不定形	b	38	18	6	9.5	珪質頁岩	

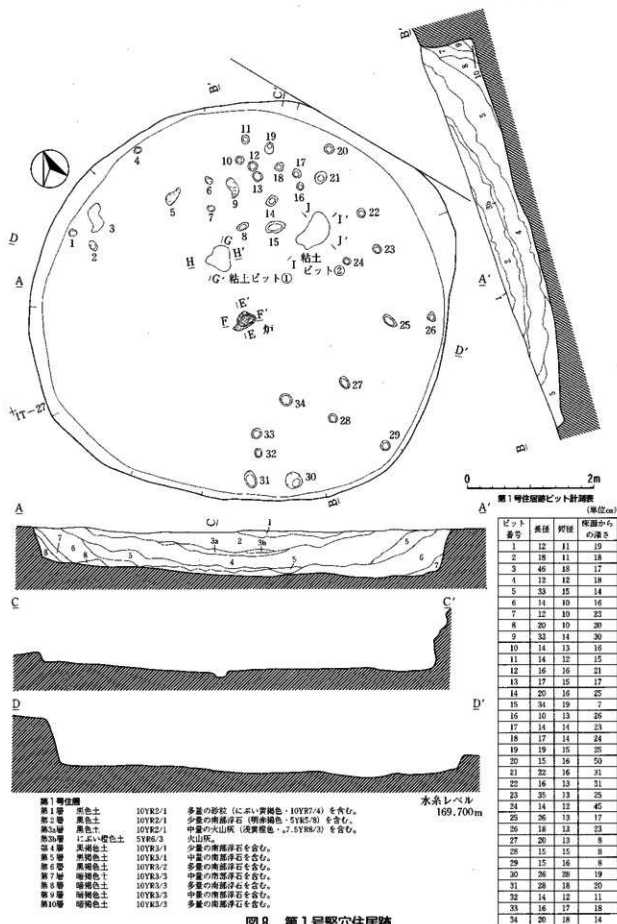


図8 第1号竪穴住居跡



水吉遺跡

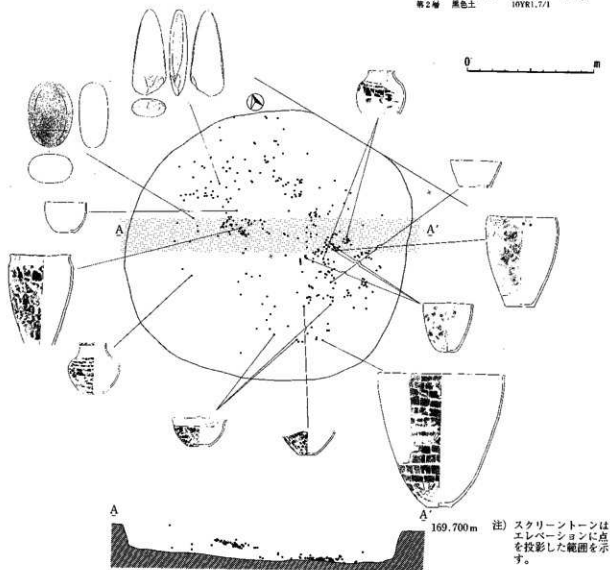
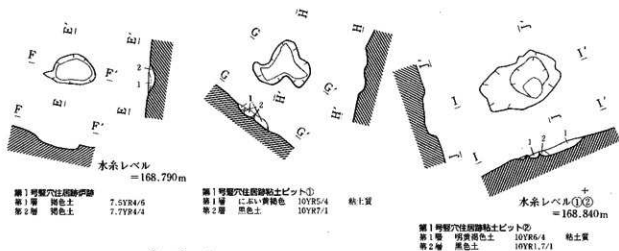


図9 第1号竪穴住居跡遺物出土位置図

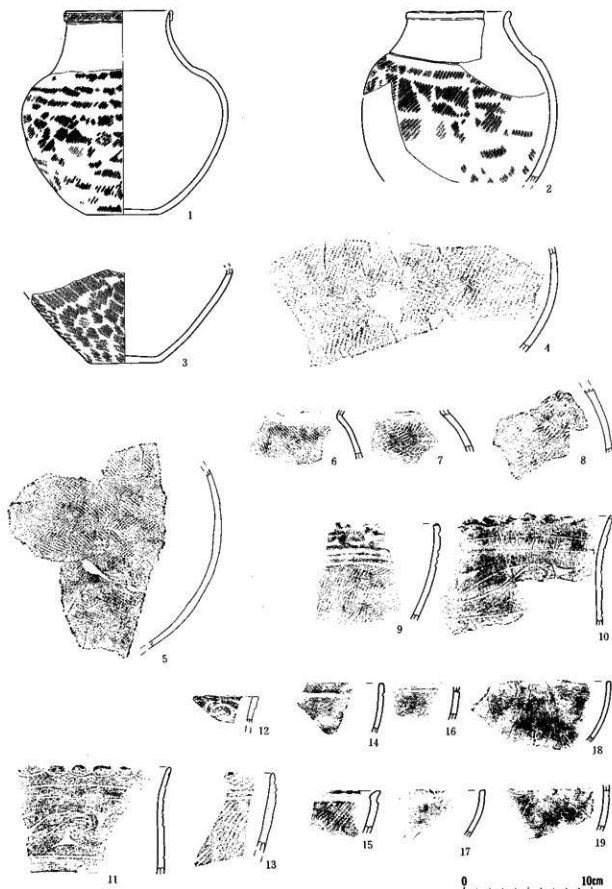


图10 第1号竖穴住居跡出土遺物(1)

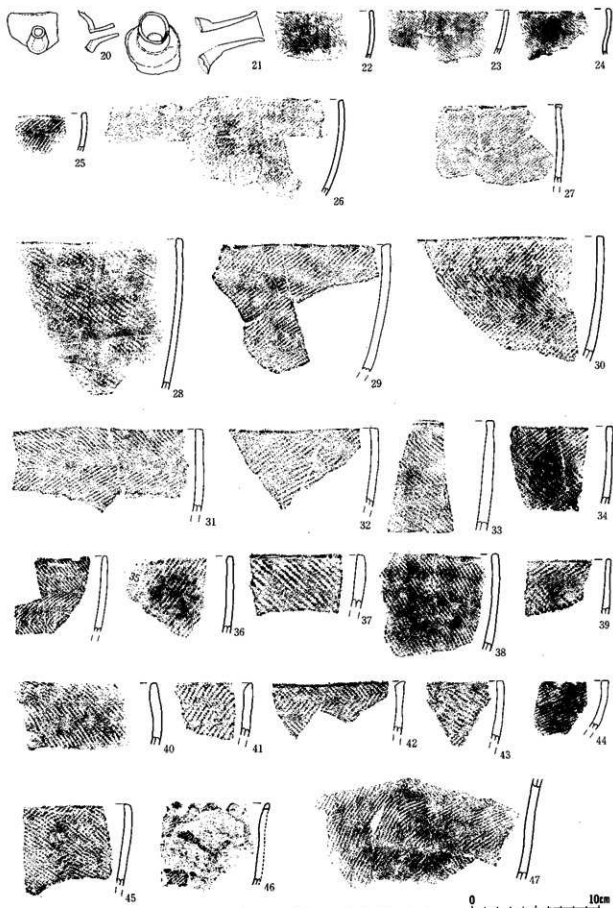


図11 第1号竪穴住居跡出土遺物(2)

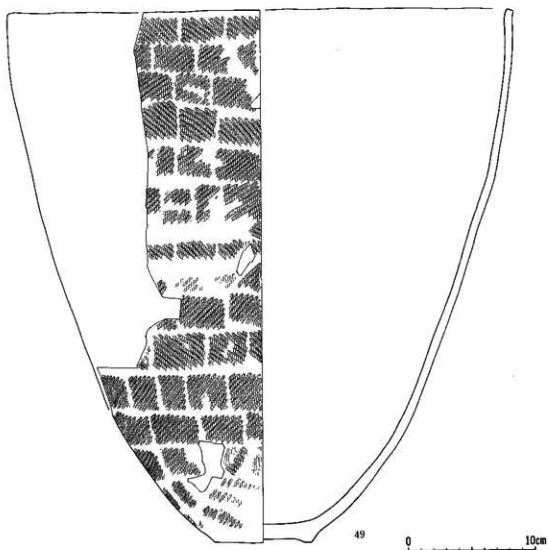
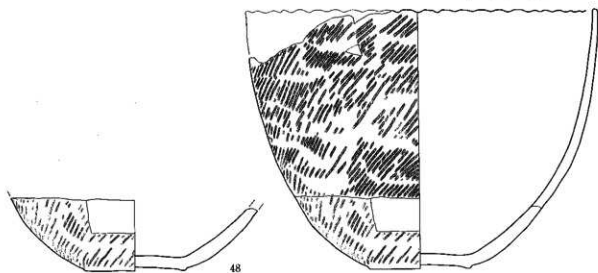
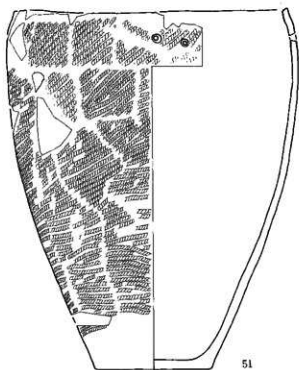
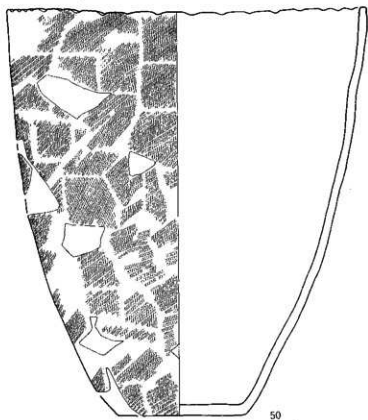


图12 第1号竖穴住居跡出土遺物(3)



0 10cm

图13 第1号整穴住居跡出土遺物(4)

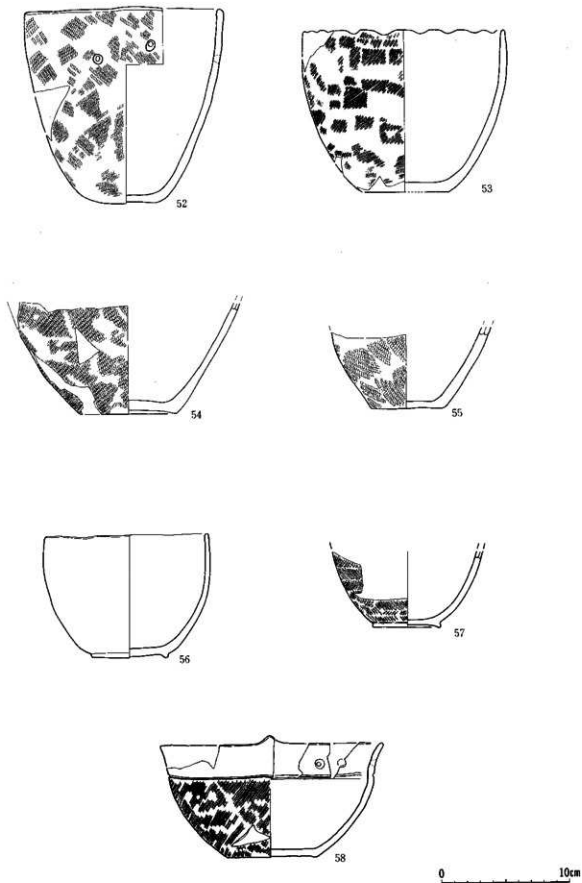


图14 第1号竖穴住居跡出土遺物(5)

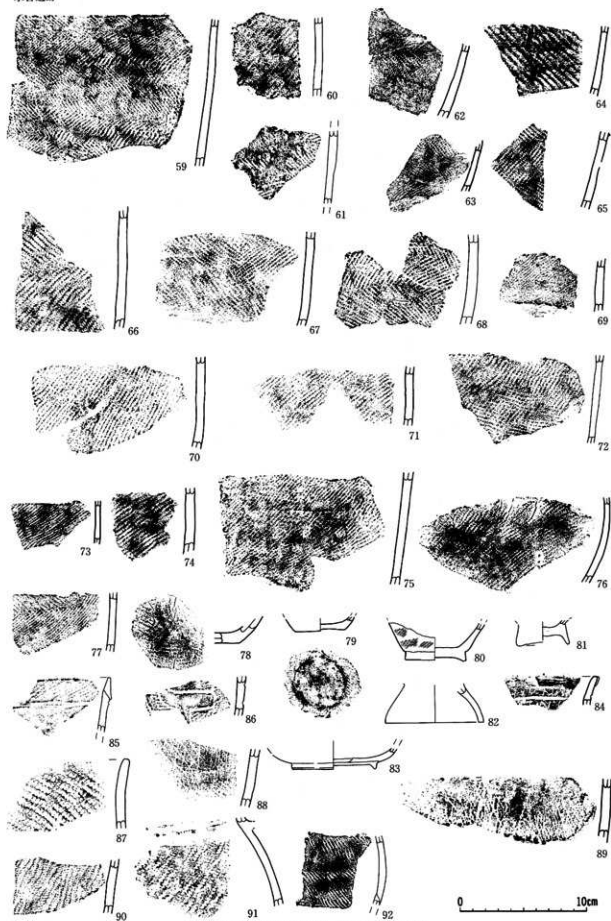


图15 第1号竖穴住居跡出土遺物(6)

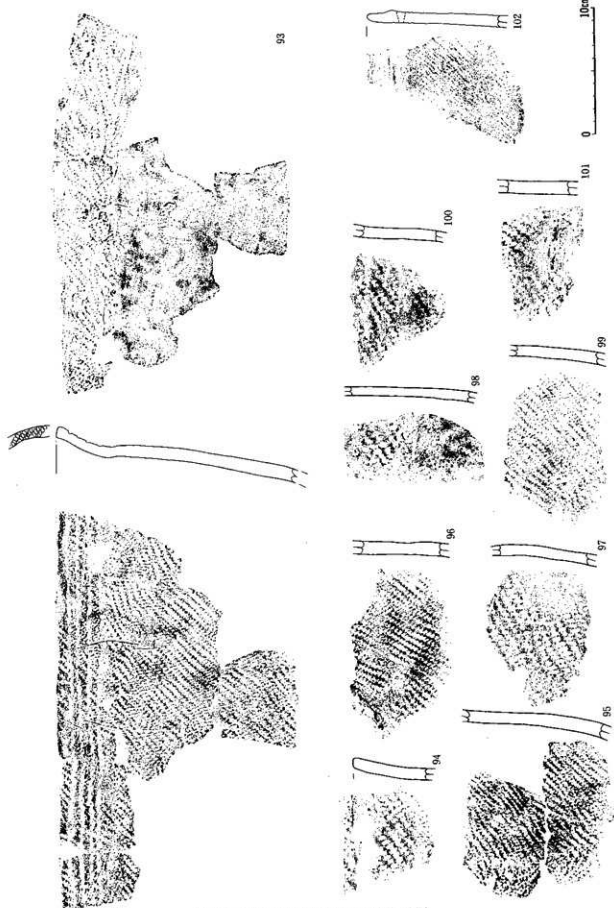


图16 第1号竖穴住居跡出土遺物(7)



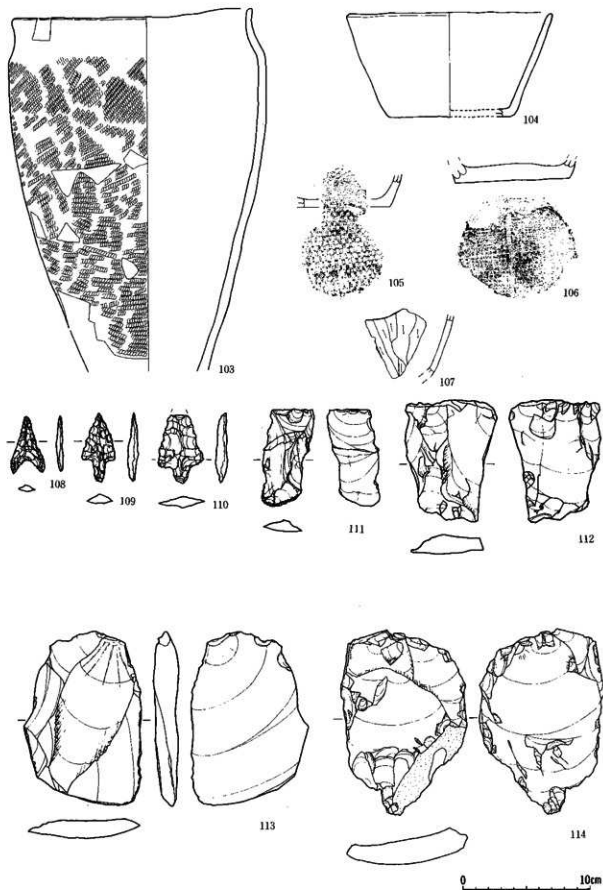


图17 第1号竖穴住居跡出土遺物(8)

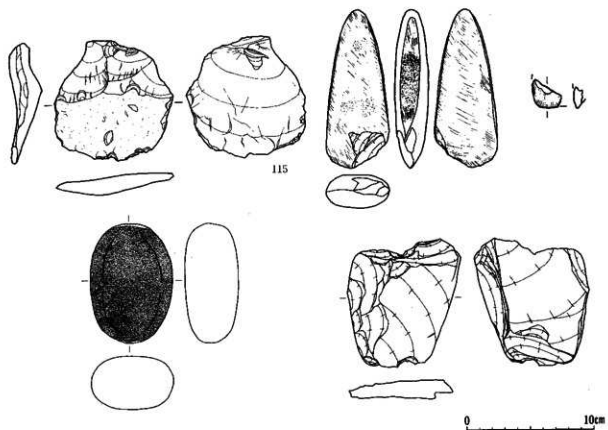


図18 第1号竪穴住居跡出土遺物(9)

## 第1号 竪穴住居跡出土土器

図No	写No	層位	器形	部位	外面文様構成	底部	内面調整	分類	備考
1	1	覆土	壺	略成形	張り付け口縁部上り段R斜位押広、肩部ミガキ、肩部沈線胴部ミガキ後LR横位回転		ミガキ	晩期	内面が赤みを帯びる
2	2	覆土	壺	底部欠損	口縁部～肩部ミガキ、肩部沈線、胴部LR横位回転の後一部ケズリ		ケズリ	晩期	
3	3	覆土	壺	底部一胴部	RL横方向		ミガキ	晩期	内面にケール状の付着物
4	4	覆土	壺	胴部	RL横位回転		ケズリ	晩期	
5	5	覆土	壺	胴部	LR横位回転、RL横位回転による羽状縄文			晩期	
6	6	覆土	壺	肩部	ナデ、RL横位回転			晩期	
7	7	覆土	壺	肩部	ミガキ、LR横位回転			晩期	内縁接合
9	9	覆土	壺	口縁部	口縁部M突起、三叉文、沈線、LR横位回転		横位ミガキ	晩期	
8	8	覆土	壺	胴部	LR縦位回転				
10	10	覆土	鉢	口縁部	口縁部小波状、沈線LR充塞、入り組み三叉文			晩期	
11	11	覆土	鉢	口縁部	口縁部小波状、沈線LR充塞、入り組み三叉文			晩期	
12	12	覆土	?	口縁部	口唇部刻み、三叉文		ミガキ	晩期	
13	12	覆土	鉢	口縁部	LR横位回転後沈線			晩期	
14	13	覆土	鉢	口縁部	口縁部粘土粒張り付け整形後RL縦位回転、胴部ミガキ			晩期	
15	14	覆土	鉢	口縁部	口縁部ミガキと沈線、胴部LR横位回転			晩期	
16	15	覆土	鉢?	胴部	ミガキ、沈線、LR横位回転				
17	16	覆土	鉢?	口縁部	ミガキ		ミガキ	晩期	
18	17	覆土	鉢?	口縁部	ミガキ		ミガキ	晩期	
19	18	覆土	鉢?	胴部	ミガキ		ミガキ	晩期	
20		覆土	注口	注口部	ミガキ			晩期	
21		覆土	注口	注口部	ミガキ			晩期	
22	19	覆土	鉢	口縁部	RL横位回転			晩期	
23	20	覆土	鉢	口縁部	RL横位回転、LR横位回転による羽状縄文			晩期	
24	21	覆土	鉢	口縁部	RL横位回転			晩期	
25	22	覆土	鉢	口縁部	RL横位回転			晩期	
26	23	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転			晩期	内外面に煤状炭化物付着
27		覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転			晩期	
28	24	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転、RL横位回転による羽状縄文			晩期	外面に煤状炭化物
29	25	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転			晩期	外面に煤状炭化物
30	26	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転、LR横位回転による羽状縄文			晩期	
31	27	覆土	深鉢	口縁部	RL横位回転、LR横位回転による羽状縄文			晩期	
32	28	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転			晩期	外面に煤状炭化物
33	29	覆土	深鉢	口縁部	RL横位回転			晩期	
34	30	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転、RL横位回転による羽状縄文			晩期	
35	31	覆土	深鉢	口縁部	RL横位回転、LR横位回転による羽状縄文			晩期	
36	32	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転			晩期	外面に煤状炭化物
37	33	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転			晩期	
38	34	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転			晩期	外面に煤状炭化物

図No	写No	層位	器形	部位	外面文様構成	底部	内面調整	分類	備考
39	35	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転、RL横位回転による羽状縄文				
40	36	覆土	深鉢	口縁部	RL横位回転				外面に煤状炭化物
41	37	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転				
42	38	覆土	深鉢	口縁部	RL縦位回転、横位回転による羽状縄文				外面に煤状炭化物
43	39	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転				
44	40	覆土	深鉢	口縁部	LR横位回転				外面に煤状炭化物
45	41	覆土	深鉢	口縁部	LR縦位、横位回転				胎土中に小石含む
46	42	覆土	深鉢	口縁部	口縁部小波状				表面剥落
47	43	覆土	深鉢	口縁部	RL横位回転、LR横位回転による羽状縄文				内面煤状炭化物
48	44	覆土	深鉢	底部	LR横位回転	高台作出		晩期	内、外面に煤状炭化物
49	45	覆土	深鉢	復元可能	RL、LRによる羽状縄文	高台作出			外面に煤状炭化物
50	46	覆土	深鉢	略完形	口縁部小波状、胴部LR横位～斜位回転			晩期	
51	47	覆土	深鉢	略完形	口縁部直下ミガキ、LR横位～斜位回転、底部付近ケズリ			晩期	内面煤状炭化物、補修孔
52	48	覆土	深鉢	略完形	LR横位、RL横位、斜位回転			晩期	補修孔あり
53	49	覆土	鉢	略完形	口縁部小波状、LR横位回転		ミガキ	晩期	
54		覆土	深鉢	底部～胴部	ケズリの後RL横位回転	上げ底気味		晩期	内面に煤状の付着物
55		覆土	深鉢	底部～胴部	RL横位回転		ミガキ	晩期	内面に煤状付着物
56	50	覆土	鉢	略完形	横方向ミガキ	高台作出	縦ミガキ	晩期	
57	51	覆土	鉢	底部～胴部	LRとRLの横位回転による羽状縄文	高台作出	ミガキ	晩期	
58	52	覆土	深鉢	略完形	口縁部A突起、横ミガキ、沈線、胴部LR横位回転	高台状の段	横ミガキ	晩期	
59	53	覆土	深鉢	胴部	RL横位回転、LR横位回転による羽状縄文				外面煤状炭化物
60	54	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転				
61	55	覆土	深鉢	胴部	RL横位回転、LR横位回転による羽状縄文				粘土付着
62	56	覆土	深鉢	胴部	RL横位回転				外面煤状炭化物、粘土付着
63	57	覆土	深鉢	胴部	RL横位回転、LR横位回転による羽状縄文				
64	58	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転				
65	59	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転、RL横位回転による羽状縄文				
66	60	覆土	深鉢	胴部	RL横位回転、LR横位回転による羽状縄文				外面煤状炭化物
67	61	覆土	深鉢	胴部	RL横位回転、LR横位回転による羽状縄文				外面煤状炭化物
68	62	覆土	深鉢	胴部	LRとRLの横位回転による羽状縄文				
69	63	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転				外面煤状炭化物
70	64	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転				外面煤状炭化物
71	65	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転				
72	66	覆土	深鉢	胴部	RL横位回転、横位回転による羽状縄文				小石多い
73	67	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転				
74	68	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転				
75	69	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転				
76	70	覆土	深鉢	胴部	LR横位回転				
77	71								
78	72	覆土		底部付近	LR横位回転				

図No	写No	層位	器形	部位	外面文様構成	底部	内面調整	分類	備考
79	73	覆土		底部付近	L R横位回転				
80	74	覆土		底部付近	L R横位回転	高台作出			
81		覆土	台階	底部付近	ミガキ				
82		覆土	台階	底部付近	ミガキ				
84	75	覆土	深鉢	口縁部	口縁部張り付け、単軸糸体第5期縦位回転				後期
85		覆土	深鉢	口縁部	口縁部張り付け後L R横位回転、ミガキ、沈線				後期
86	76	覆土	深鉢	胴部	L R回転施文後沈線、ミガキ				後期
87	77	覆土	深鉢	L口縁部	L R縦位回転				中～後期
88	78	覆土	深鉢	胴部	単軸糸体第5期縦位回転				
89	79	覆土	深鉢	胴部	単軸糸体第5期縦位回転				後期
90	80	覆土	深鉢	胴部	0段多条横位回転				
91	81	覆土	深鉢	胴部	隆帯上に沈線、R L縦位回転、刺突				
92	82	覆土	深鉢	胴部	0段多条横位回転				
93	83	覆土	深鉢	L口縁部	L口縁部L R横位回転、L口縁部から胴部L R横位回転後、口縁部にR L R押圧		L R横位回転	前期	胎土中に織維含む
94	84	覆土	深鉢	L口縁部	L口縁部L R横位回転、L口縁部L R横位回転			前期	胎土中に織維含む
95	85	覆土	深鉢	胴部	L R横位回転			前期	胎土中に織維含む
96	86	覆土	深鉢	胴部	L R横位回転			前期	胎土中に織維含む
97	87	覆土	深鉢	胴部	L R横位回転			前期	胎土中に織維含む
98	88	覆土	深鉢	胴部	L R横位回転			前期	胎土中に織維含む
99	89	覆土	深鉢	胴部	L R横位回転			前期	胎土中に織維含む
100		覆土	深鉢	胴部	L R横位回転			前期	胎土中に織維含む
101	90	覆土	深鉢	胴部	L Rナナメ			前期	胎土中に織維含む
102	91	覆土	深鉢	胴部	口縁部R押圧、結節回転文、付加条結束羽状縄文			前期	胎土中に織維、補修孔
103	92	覆土	深鉢	底部欠失	L口縁部ミガキ、胴部L R横位～斜位回転		ミガキ	後期	内、外面に條状炭化物
104	93	覆土	浅鉢	底部欠失	横方向のミガキ			後期	
104	95	覆土	深鉢	底部		編み物圧痕			
105	94	覆土	深鉢	底部	R L横位回転	網代痕		後期?	
107	96	覆土	甕?	胴部	ケズリ		ケズリ	平安	

## 第3号竪穴住居跡 (図19・図版13)

[位置] IN・O-14・15グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で円形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長径294cm、短径265cmの円形を呈し、確認面からの深さは35cmを計測する。

[堆積土] 7層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[壁] 西・北壁で急に立ち上がり、その他では緩やかに立ち上がる。

[床面] 床面はV層まで掘り込まれている部分もみられるがほぼ平坦であり、貼り床の一部に堅緻な部分が認められる。

[炉] 中央やや南寄りに確認できた。地床炉で、掘り込み及び火床面が明確に確認できた。

[柱穴] 確認できなかった。

[施設] なし。

[出土遺物] 床面より礫が数点と接合する土器片が出土している。礫は赤化しており、炉を囲むのに使われていた可能性も考えられる。土器の1は胴部片。捺糸文を縦位に施文し、横位の沈線をも有する。

[小結] 床面からの出土遺物より縄文時代後期の竪穴住居跡と思われる。

## 第4号竪穴住居跡 (図20～22・図版14～17)

[位置] II F・G-37・38グリッドに位置する。

[確認] III層上面で不整の黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長径423cm、短径370cmの隅丸の方形を呈し、南側に張り出し部を有する。確認面からの深さは75～130cmを計測する。

[堆積土] 15層に分層された。概ね自然堆積の様相を呈する。

[壁] 南・西壁はほぼ垂直に立ち上がり、北・東壁はやや急に立ち上がる。

[床面] 床面はほぼ平坦であるが、中央部に向かってやや傾斜している。

[炉] 中央やや南寄りに不整な楕円形の地床炉が検出された。住居内に被熱した礫が数点検出されており、石囲炉の可能性も考えられる。

[柱穴] ビットは13個検出された。全て壁際から検出されている。支柱穴はP3、P5、P10、P11、の4本と思われる。

[施設] 南側の張り出し部は出入口部と思われる。

[出土遺物] 遺物は覆土及び底面より段ボール箱にして1箱分出土している。28を除き覆土中からの出土である。1～5は円筒下層式、6～8は円筒上層式、9～29は縄文時代後期の土器と思われる。

[小結] 底面近くの出土遺物より、縄文時代後期の竪穴住居跡と思われる。

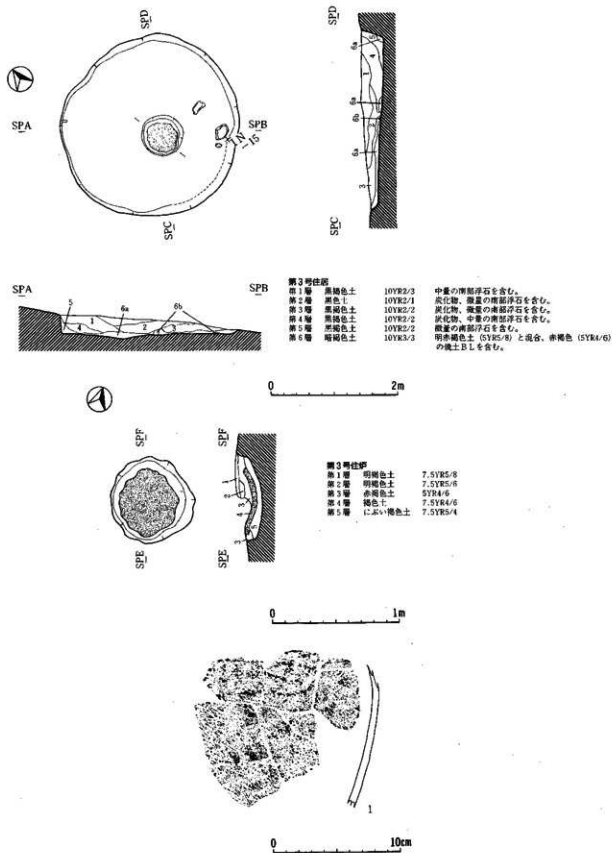
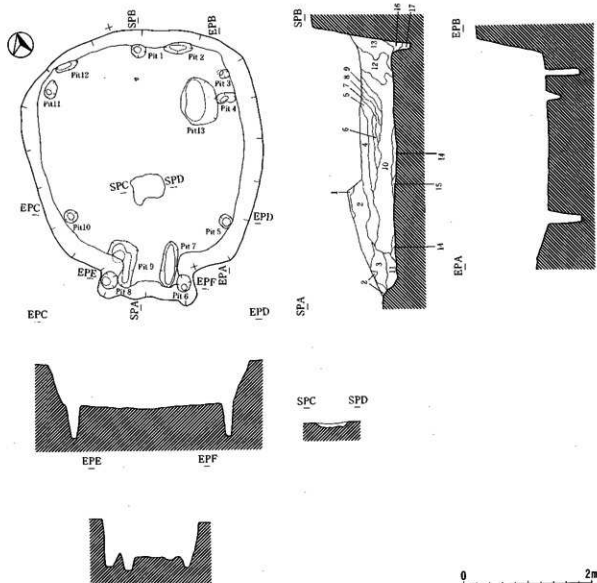


図19 第3号壑穴住居跡



第4号住居

第1層	黒褐色土	10YR2/1	極微量の南部浮石を含む。
第2層	赤褐色土	10YR2/3	少量の砂粒、極微量の南部浮石を含む。
第3層	黄褐色土	10YR5/8	多量の南部浮石を含む。
第4層	灰褐色土	10YR2/2	微量の南部浮石を含む。
第5層	黄褐色土	10YR1.7/1	極微量の南部浮石を含む。
第6層	赤褐色土	10YR2/3	少量の砂粒、極微量の南部浮石を含む。
第7層	黒褐色土	10YR2/3	少量の砂粒、極微量の南部浮石を含む。
第8層	黒褐色土	10YR2/3	中量の南部浮石を含む。
第9層	灰褐色土	10YR2/2	中量の南部浮石を含む。
第10層	黄褐色土	10YR2/2	微量の砂粒を含む。
第11層	赤褐色土	10YR2/3	中量の砂粒、極微量の南部浮石を含む。
第12層	赤褐色土	10YR2/3	少量の砂粒、極微量の南部浮石を含む。
第13層	黒褐色土	10YR2/3	少量の砂粒、極微量の南部浮石を含む。
第14層	灰褐色土	10YR2/2	中量の砂粒、極微量の南部浮石を含む。
第15層	灰褐色土	10YR2/3	中量の砂粒、南部浮石を含む。
第16層	黄褐色土	10YR5/8	多量の南部浮石を含む。
第17層	黒褐色土	10YR2/2	少量の砂粒、極微量の南部浮石を含む。

図20 第4号竪穴住居跡



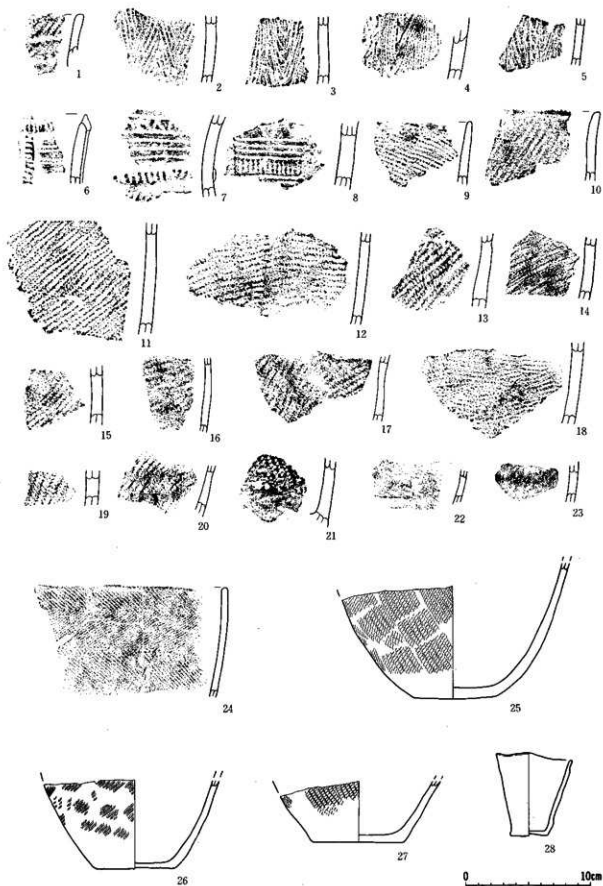


图21 第4号竖穴住居跡出土遺物(1)

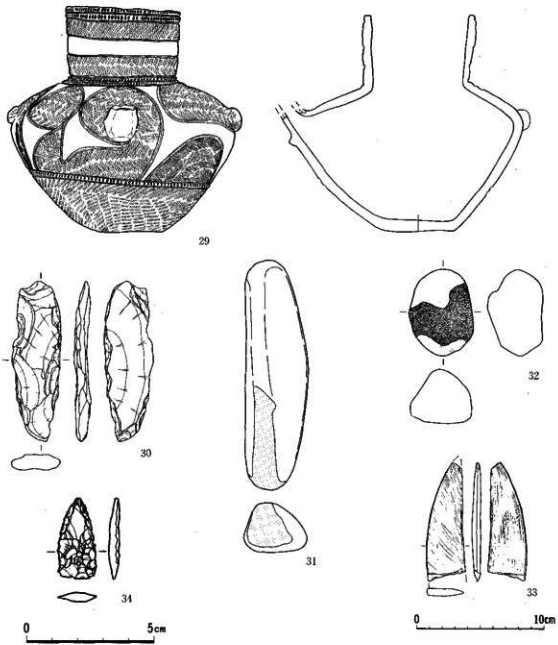


図22 第4号竪穴住居跡出土遺物(2)

## 2 土坑

### 第3号土坑 (図23・図版18・19)

[位置] I Q-24・25グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 確認面で長径258cm、短径224cmのほぼ円形、底面で長軸147cm、短軸108cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは110cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面からやや急に立ち上がり、中間から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 14層に分層された。覆上第1層には中振浮土と思われる粒砂の堆積が多量に認められる。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 形状及び堆積土から縄文時代前期中葉以前に構築された陥し穴と思われる。

### 第4号土坑 (図23・図版20)

[位置] I R-24・25グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長軸142cm、短軸110cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは59cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面からやや急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 詳細な時期は不明。

### 第6号土坑 (図24・図版21・22)

[位置] I M・N-18・19グリッドに位置する。

[確認] 試掘調査によるとV層上面での確認であるが、IV層からの掘り込みが確認されている。

[重複] 認められない。

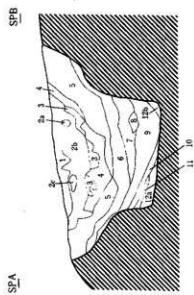
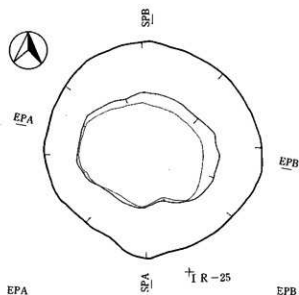
[平面形・規模] 開口部で、長径125cm、短径123cmの円形、底面で長径116cm、短径108cmの円形を呈し確認面からの深さは59cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から内傾気味に立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 3層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

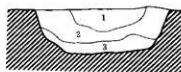
[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 形状から、縄文時代のフラスコ状ピットと思われる。詳細な時期は不明。



- 第3号土坑
- |      |       |           |   |
|------|-------|-----------|---|
| 第1層  | 暗褐色土  | 10YR3/4   | 暗褐色土 (10YR2/3) 混合、砂粒を含む。                  |
| 第2層  | 暗褐色土  | 10YR2/3   | 砂粒を含む。                                    |
| 第3層  | 暗褐色土  | 10YR3/3   | 砂粒を含む。                                    |
| 第4層  | 灰黄褐色土 | 10YR4/2   | 砂粒を含む。                                    |
| 第5層  | 明黄褐色土 | 10YR5/6   | 暗褐色土 (10YR3/4) 混合、灰黄褐色 (10YR5/2) 及び砂粒を含む。 |
| 第6層  | 黒褐色土  | 10YR2/2   |   |
| 第7層  | 黒色土   | 10YR1.7/1 | 陶器片を含む。                                   |
| 第8層  | 黒色土   | 10YR1.7/1 | 多量の陶器片を含む。                                |
| 第9層  | 褐色土   | 10YR4/6   | 陶器片を含む。                                   |
| 第10層 | 暗褐色土  | 10YR2/3   | 多量の陶器片を含む。                                |
| 第11層 | 黄褐色土  | 10YR6/8   | 陶器片を含む。                                   |
| 第12層 | 黒色土   | 10YR1.7/1 | 多量の陶器片を含む。                                |
| 第13層 | 暗褐色土  | 10YR5/8   | 陶器片を含む。                                   |
| 第14層 | 黒色土   | 10YR1.7/1 | 多量の陶器片を含む。                                |

I R-25



- 第4号土坑
- |     |      |           |                     |
|-----|------|-----------|---------------------|
| 第1層 | 黒色土  | 10YR1.7/1 | 極微量の灰化物混入。          |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR2/3   | 褐色土 (10YR1.7/1) 混合。 |
| 第3層 | 黒色土  | 10YR2/1   | 極微量の灰化物を含む。         |

0 2m

図23 第3・4号土坑

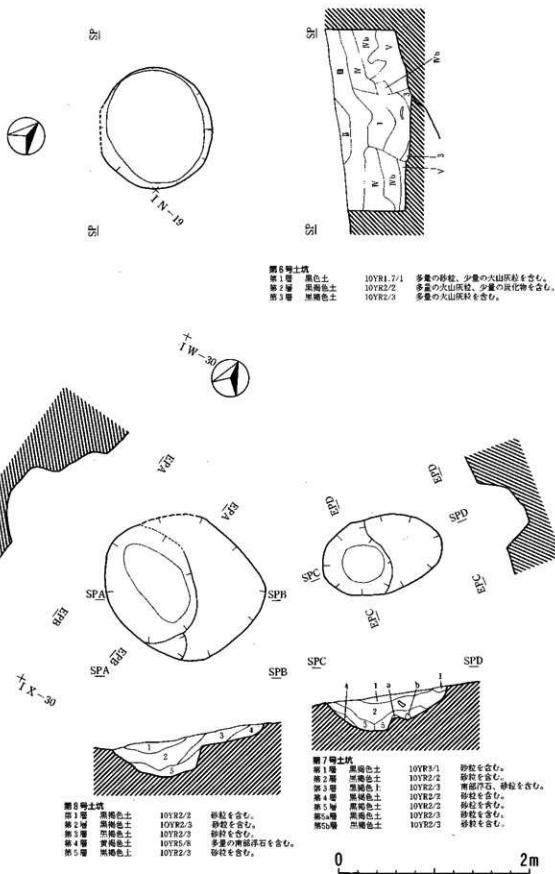


图24 第6・7・8号土坑

## 第7号土坑 (図24・図版23)

- [位置] IW-30グリッドに位置する。
- [確認] IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。
- [重複] 認められない。
- [平面形・規模] 長軸130cm、短軸83cmの楕円形を呈し確認面からの深さは38cmを計測する。
- [壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は丸底を呈する。
- [堆積土] 7層に分層された。自然堆積の様相を呈する。
- [出土遺物] 遺物は出土していない。
- [小結] 詳細な時期は不明。

## 第8号土坑 (図24・図版24)

- [位置] IW-30グリッドに位置する。
- [確認] IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。
- [重複] 認められない
- [平面形・規模] 長軸170cm、短軸145cmの楕円形を呈し確認面からの深さは40cmを計測する。
- [壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は丸底を呈する。
- [堆積土] 5層に分層された。自然堆積の様相を呈する。
- [出土遺物] 遺物は出土していない。
- [小結] 詳細な時期は不明。

## 第9号土坑 (図25・37・図版25)

- [位置] IX-31グリッドに位置する。
- [確認] IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。
- [重複] 認められない。
- [平面形・規模] 長径80cm、短径76cmの円形を呈し確認面からの深さは16cmを計測する。
- [壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は丸底を呈する。
- [堆積土] 1層である。
- [出土遺物] 覆土中より縄文土器片が2点出土している。1は口縁部。斜縄文を施文する。2は胴部片。1同様斜縄文を施文する。
- [小結] 詳細な時期は不明。

## 第10号土坑 (図25・図版26)

- [位置] IY-32・33グリッドに位置する。
- [確認] IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。
- [重複] 認められない。
- [平面形・規模] 長径130cm、短径128cmの円形を呈し確認面からの深さは46cmを計測する。
- [壁・底面] 壁は底面からやや急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

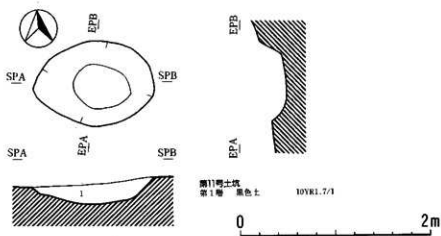
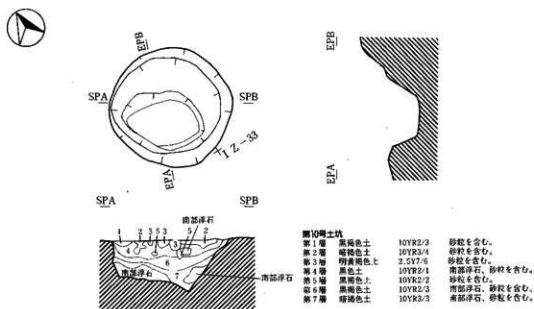
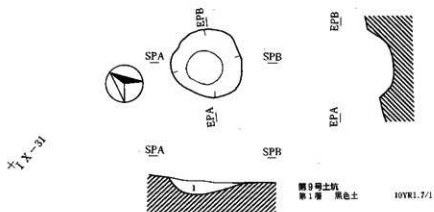


図25 第9・10・11号土坑

[堆積土] 7層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 詳細な時期は不明。

#### 第11号土坑 (図25・37・図版27)

[位置] I X-31グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長軸130cm、短軸72cmの楕円形を呈し確認面からの深さは23cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は丸底を呈する。

[堆積土] I層である。

[出土遺物] 遺物は覆土中より土器片が8点出土している。全て銅部片。1・2は羽状縄文を施文する。3は組み紐、4は横位の圧痕を施文する。5～7は単節縄文を施文する。8は地文斜縄文に沈線及び刺突文を施文する。

[小結] 詳細な時期は不明。

#### 第12号土坑 (図26・図版28)

[位置] I U-29グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長軸133cm、短軸102cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは12cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は丸底を呈し、中央部に深さ26cmのピットを有する。

[堆積土] 4層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 詳細な時期は不明。

#### 第14号土坑 (図26・37・図版29)

[位置] I V-30グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 長軸233cm、短軸147cmの楕円形を呈し確認面からの深さは41cmを計測する。

[壁・底面] 壁はやや急に立ち上がり、底面はやや平坦である。

[堆積土] 2層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 覆土中より敲磨器B群1類が1点出土している。

[小結] 詳細な時期は不明。



〒10-30

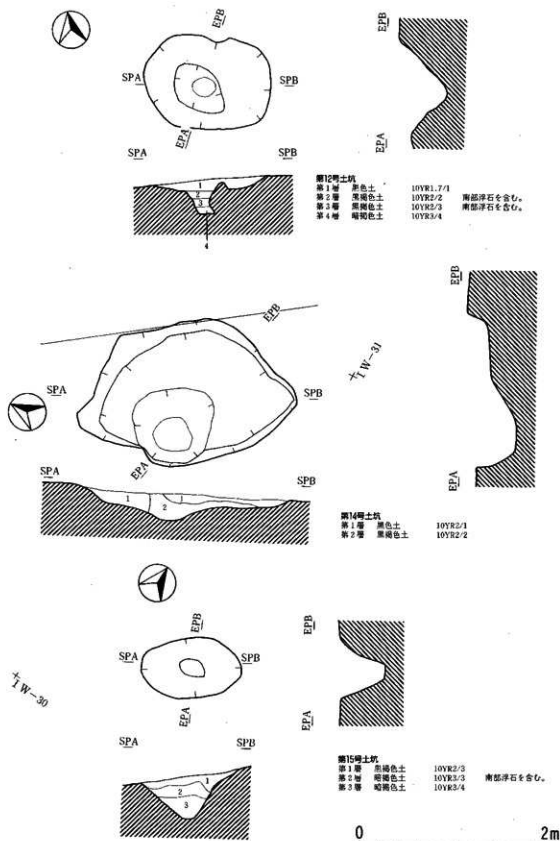


図26 第12・14・15号土坑

## 第15号土坑 (図26・図版30)

[位置] I V-30グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長軸104cm、短軸64cmの楕円形を呈し確認面からの深さは46cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がり底面は狭いが平坦である。

[堆積土] 3層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 詳細な時期は不明。

## 第16号土坑 (図27)

[位置] I Z-31・32グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長軸230cm、短軸134cmの楕円形を呈し確認面からの深さは46cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面からやや急に立ち上がり、底面は平坦で中央東寄りにピットを有する。

[堆積土] 3層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 詳細な時期は不明。

## 第17号土坑 (図27・図版31)

[位置] I D-11グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長径138cm、短径124cmの円形を呈し確認面からの深さは77cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面より急に立ち上がり、括れ部からやや急に立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 4層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 形状から、縄文時代の陥し穴と思われる。詳細な時期は不明。

## 第18号土坑 (図28・図版32)

[位置] I D・E-8・9グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で浅橙色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第1号竪穴状遺構に近接するが切り合い関係は不明。

[平面形・規模] 一部調査区域外にかかるため全容をうかがうことができない。

[壁・底面] 壁は底面から内傾気味に立ち上がり、南側では崩落によりほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

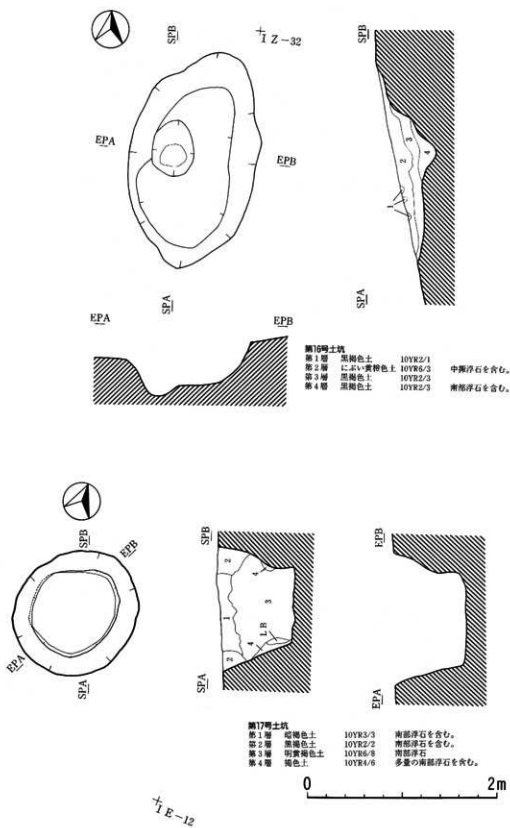


図27 第16・17号土坑

[堆積土] 6層に分層されるが南部浮石層を間層として含む。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 形状から、縄文時代のフラスコ状ピットと思われる。詳細な時期は不明。

#### 第19号土坑 (図28・図版34)

[位置] I D・E-9グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で灰白色土及び黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長径138cm、短径124cmの円形を呈し確認面からの深さは55cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面は掘り鉢状を呈する。

[堆積土] 7層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 覆土中より石匙が1点出土している。

[小結] 詳細な時期は不明。

#### 第20号土坑 (図29・図版35)

[位置] II C-34グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 確認面で長径180cm、短径170cmの円形、底面で長径110cm、短径103cmの円形を呈し、確認面からの深さは108cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から急に立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 8層に分層された。自然堆積の様相を呈する。第2層中に中振浮石と思われる砂粒の堆積が多量に認められる。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 形状及び堆積土から、縄文時代前期中葉以前に構築された陥し穴と思われる。

#### 第21号土坑 (図29・図版36・37)

[位置] II C-34・35グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 確認面で長径216cm、短径190cmのほぼ円形を呈し確認面からの深さは142cmを計測する。

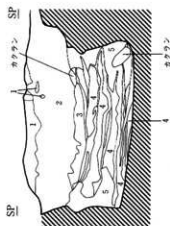
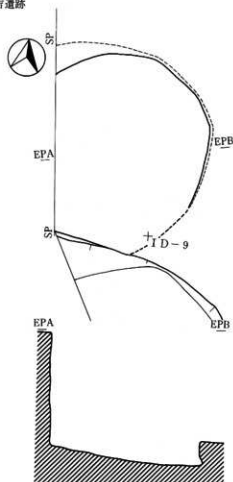
[壁・底面] 壁は底面からやや急に立ち上がり、括れ部から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 17層に分層された。自然堆積の様相を呈する。第1層中に中振浮石と思われる砂粒の堆積が多量に認められる。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 形状及び堆積土から、縄文時代前期中葉以前に構築された陥し穴と思われる。

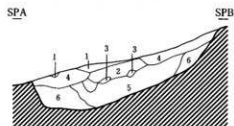
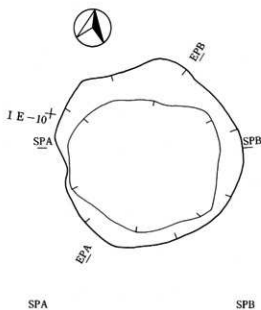
水吉遺跡



第18号土坑

- 第1層 浅褐色土
- 第2層 黒褐色土
- 第3層 明黄褐色土
- 第4層 黄褐色土
- 第5層 暗褐色土
- 第6層 黒褐色土

- 10YR8/4 八戸火山灰を含む。
- 10YR2/2 多量の南部浮石を含む。
- 10YR6/8 南部浮石
- 10YR5/8 南部浮石、少量の黒褐色土(10YR2/2) 混入。
- 10YR3/4 南部浮石を含む。
- 10YR2/3 南部浮石を含む。



第19号土坑

- 第1層 灰白色土
- 第2層 淡黄色土
- 第3層 黒褐色土
- 第4層 黒褐色土
- 第5層 黒色土
- 第6層 黒褐色土
- 第7層 黒褐色土

- 10YR7/1 砂粒を含む。
- 2.5YR/3 中量浮石を含む。
- 10YR2/2 南部浮石を含む。
- 10YR2/3 南部浮石を含む。
- 10YR2/1 多量の南部浮石を含む。
- 10YR2/2 多量の南部浮石を含む。
- 10YR2/3 多量の南部浮石を含む。

0 2m

図28 第18・19号土坑

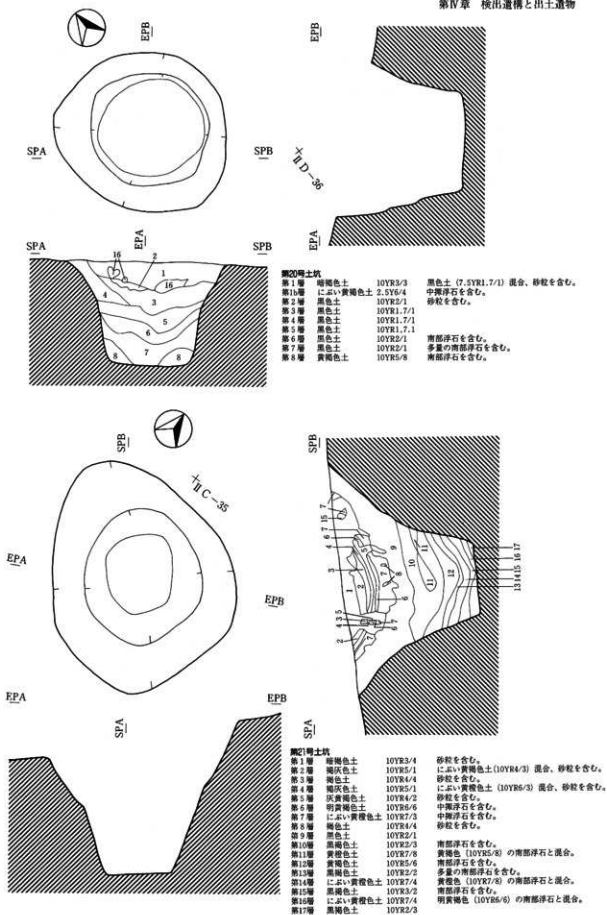


図29 第20・21号土坑

0 2m

### 第23号土坑 (図30・図版39)

[位置] I A・B-9・10グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長軸188cm、短軸140cmの楕円形を呈し確認面からの深さは40cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面より緩やかに立ち上がり、底面は丸底を呈する。

[堆積土] 5層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 詳細な時期は不明。

### 第24号土坑 (図30・図版40)

[位置] II Y・Z-46・47グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 一部調査区域外にかかるが、開口部で230cm、底部で202cmの円形を呈するものと思われ、確認面からの深さは77cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から内傾して立ち上がり、括れ部からやや急に立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 15層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 形状から、縄文時代のフラスコ状ピットと思われる。詳細な時期は不明。

### 第25号土坑 (図31・図版41・42・44)

[位置] II V・W-50・51グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 一部風倒木により壊されているが、開口部で直径230cm、底部で直径202cmの円形を呈するものと思われ、確認面からの深さは180cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から内傾してやや急に、括れ部からやや急に外反して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 風倒木を含めると94層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は第23層中より石匙が1点出土している。

[小結] 形状から、縄文時代のフラスコ状ピットと思われる。詳細な時期は不明。

### 第26号土坑 (図32・図版45)

[位置] II W・X-50・51

[確認] IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

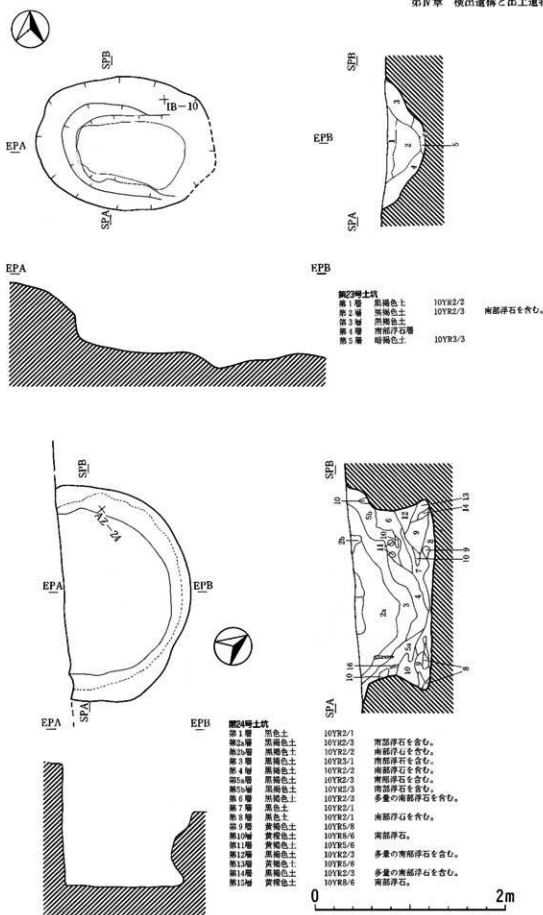


図30 第23・24号土坑





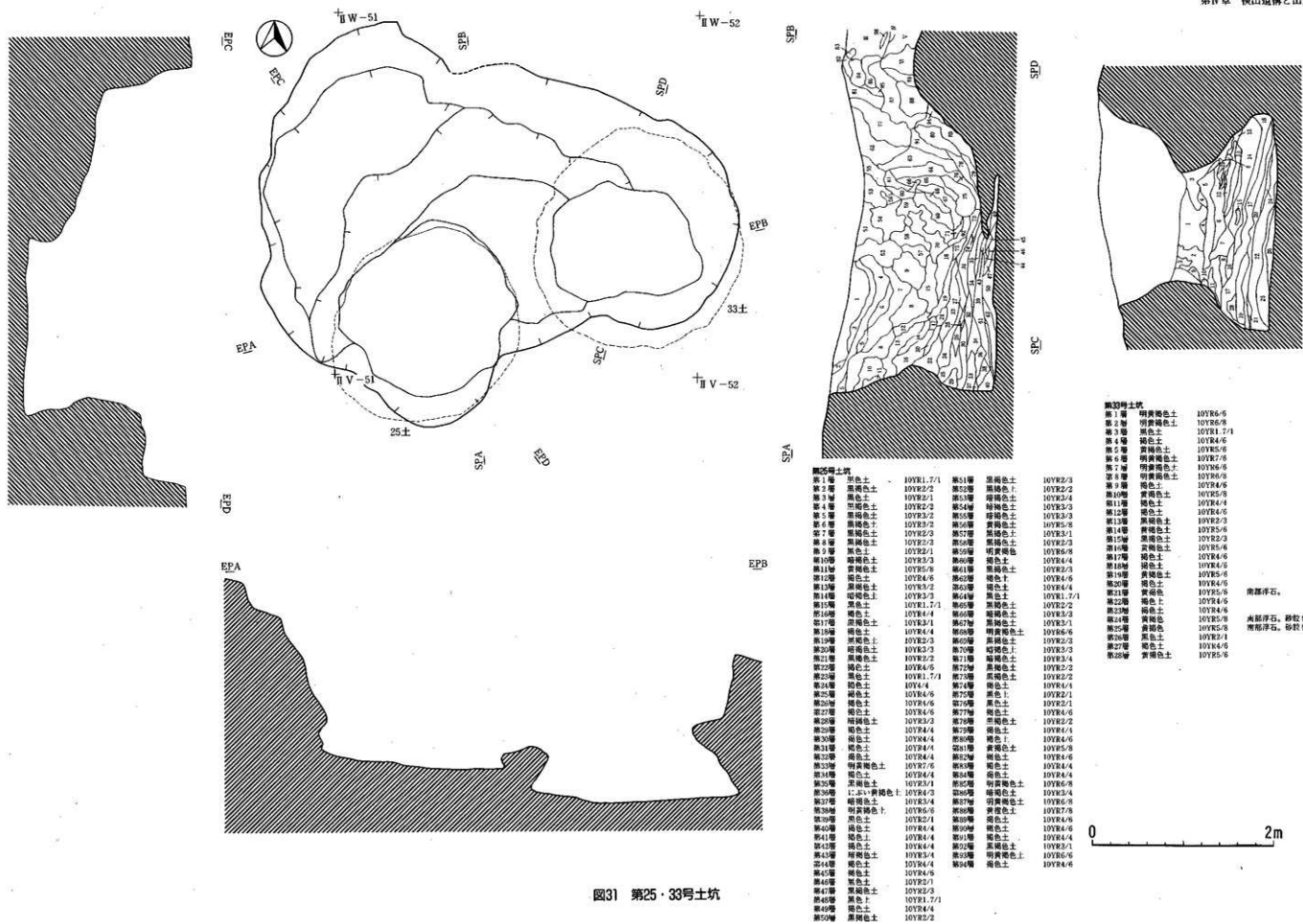


図31 第25・33号土坑

第25号土坑		第33号土坑		第33号土坑	
第1層	褐色土	10YR1.7/1	第81層	黄褐色土	10YR2.3/
第2層	黄褐色土	10YR2.2/	第82層	黄褐色土	10YR2.2/
第3層	褐色土	10YR2.1/	第83層	黄褐色土	10YR2.4/
第4層	黄褐色土	10YR2.2/	第84層	黄褐色土	10YR2.3/
第5層	黄褐色土	10YR2.2/	第85層	黄褐色土	10YR2.3/
第6層	黄褐色土	10YR2.2/	第86層	黄褐色土	10YR2.3/
第7層	黄褐色土	10YR2.2/	第87層	黄褐色土	10YR3.1/
第8層	黄褐色土	10YR2.2/	第88層	黄褐色土	10YR2.3/
第9層	褐色土	10YR2.1/	第89層	黄褐色土	10YR2.6/
第10層	黄褐色土	10YR2.2/	第90層	褐色土	10YR4.4/
第11層	黄褐色土	10YR2.6/	第91層	黄褐色土	10YR2.3/
第12層	褐色土	10YR4.6/	第92層	褐色土	10YR4.6/
第13層	黄褐色土	10YR2.2/	第93層	黄褐色土	10YR4.4/
第14層	黄褐色土	10YR2.2/	第94層	褐色土	10YR1.7/1
第15層	褐色土	10YR2.1/	第95層	黄褐色土	10YR2.2/
第16層	褐色土	10YR4.4/	第96層	黄褐色土	10YR2.3/
第17層	黄褐色土	10YR2.1/	第97層	黄褐色土	10YR2.1/
第18層	褐色土	10YR4.4/	第98層	黄褐色土	10YR2.2/
第19層	黄褐色土	10YR2.2/	第99層	黄褐色土	10YR2.2/
第20層	黄褐色土	10YR2.2/	第100層	黄褐色土	10YR2.6/
第21層	黄褐色土	10YR2.2/	第101層	黄褐色土	10YR2.2/
第22層	褐色土	10YR4.6/	第102層	黄褐色土	10YR2.2/
第23層	褐色土	10YR1.7/1	第103層	黄褐色土	10YR4.1/
第24層	褐色土	10YR4.6/	第104層	褐色土	10YR2.1/
第25層	黄褐色土	10YR2.2/	第105層	褐色土	10YR2.1/
第26層	褐色土	10YR4.6/	第106層	褐色土	10YR2.2/
第27層	褐色土	10YR4.6/	第107層	褐色土	10YR4.6/
第28層	黄褐色土	10YR2.2/	第108層	黄褐色土	10YR2.2/
第29層	褐色土	10YR4.4/	第109層	褐色土	10YR4.6/
第30層	褐色土	10YR4.4/	第110層	黄褐色土	10YR4.6/
第31層	褐色土	10YR4.4/	第111層	黄褐色土	10YR5.8/
第32層	褐色土	10YR4.4/	第112層	黄褐色土	10YR4.6/
第33層	黄褐色土	10YR2.6/	第113層	黄褐色土	10YR4.4/
第34層	黄褐色土	10YR4.4/	第114層	黄褐色土	10YR4.4/
第35層	黄褐色土	10YR2.1/	第115層	黄褐色土	10YR4.4/
第36層	黄褐色土	10YR2.2/	第116層	黄褐色土	10YR4.4/
第37層	黄褐色土	10YR2.2/	第117層	黄褐色土	10YR4.4/
第38層	黄褐色土	10YR2.2/	第118層	黄褐色土	10YR4.4/
第39層	黄褐色土	10YR2.2/	第119層	黄褐色土	10YR4.4/
第40層	黄褐色土	10YR2.2/	第120層	黄褐色土	10YR4.4/
第41層	褐色土	10YR4.4/	第121層	黄褐色土	10YR4.4/
第42層	褐色土	10YR4.4/	第122層	黄褐色土	10YR4.4/
第43層	黄褐色土	10YR2.1/	第123層	黄褐色土	10YR4.4/
第44層	褐色土	10YR4.4/	第124層	黄褐色土	10YR4.4/
第45層	褐色土	10YR4.6/	第125層	黄褐色土	10YR4.4/
第46層	褐色土	10YR2.1/	第126層	黄褐色土	10YR4.4/
第47層	黄褐色土	10YR2.2/	第127層	黄褐色土	10YR4.4/
第48層	褐色土	10YR1.7/1	第128層	黄褐色土	10YR4.4/
第49層	褐色土	10YR4.4/	第129層	黄褐色土	10YR4.4/
第50層	黄褐色土	10YR2.2/	第130層	黄褐色土	10YR4.4/

- 第33号土坑
- 第1層 黄褐色土 10YR6.6/
  - 第2層 黄褐色土 10YR5.8/
  - 第3層 褐色土 10YR1.7/1
  - 第4層 褐色土 10YR4.6/
  - 第5層 黄褐色土 10YR5.8/
  - 第6層 黄褐色土 10YR7.0/
  - 第7層 黄褐色土 10YR6.6/
  - 第8層 黄褐色土 10YR6.6/
  - 第9層 褐色土 10YR4.6/
  - 第10層 黄褐色土 10YR5.8/
  - 第11層 褐色土 10YR4.4/
  - 第12層 褐色土 10YR4.4/
  - 第13層 黄褐色土 10YR2.3/
  - 第14層 黄褐色土 10YR2.6/
  - 第15層 黄褐色土 10YR2.2/
  - 第16層 黄褐色土 10YR2.6/
  - 第17層 褐色土 10YR4.6/
  - 第18層 黄褐色土 10YR5.8/
  - 第19層 褐色土 10YR4.6/
  - 第20層 褐色土 10YR4.6/
  - 第21層 褐色土 10YR4.6/
  - 第22層 褐色土 10YR4.6/
  - 第23層 褐色土 10YR4.6/
  - 第24層 褐色土 10YR4.6/
  - 第25層 褐色土 10YR4.6/
  - 第26層 褐色土 10YR4.6/
  - 第27層 褐色土 10YR4.6/
  - 第28層 黄褐色土 10YR2.6/
  - 第29層 黄褐色土 10YR2.6/
  - 第30層 黄褐色土 10YR2.6/

断面序号  
 高紐序号、跡柱番号、  
 埋層序号、段柱番号

0 2m

〔平面形・規模〕 開口部で長径235cm、短径207cmの円形、底面で長径218cm、短径202cmの円形を呈し、確認面からの深さは191cmを計測する。

〔壁・底面〕 壁は底面から内傾して立ち上がり、括れ部からやや外反して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 28層に分層された。概ね自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 遺物は覆土中より縄文土器が1点出土している。1は胴部片。横位の綾絡文を施文する。

〔小結〕 形状から、縄文時代のフラスコ状ビットと思われる。詳細な時期は不明。

#### 第27号土坑 (図33・図版46・48)

〔位置〕 II U-50・51、II V-50グリッドに位置する。

〔確認〕 IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 認められないが、第29土に近接する。

〔平面形・規模〕 開口部で長径232cm、短径204cmのほぼ円形、底部で長径274cm、短径250cmのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは142cmを計測する。

〔壁・底面〕 壁は底面からやや内傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 37層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 形状から、縄文時代のフラスコ状ビットと思われる。詳細な時期は不明。

#### 第28号土坑 (図34・図版49)

〔位置〕 II X-49・50グリッドに位置する。

〔確認〕 IV層上面で確認した。

〔重複〕 認められない。

〔平面形・規模〕 開口部で長軸205cm、短軸177cmの不整形円形、底部で長径174cm、短径160cmの円形、確認面からの深さは95cmを計測する。

〔壁・底面〕 壁は底面からやや内傾して立ち上がり、括れ部からやや外反して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 43層に分層された。一部人為堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 形状から、縄文時代のフラスコ状ビットと思われる。詳細な時期は不明。

#### 第29号土坑 (図33・図版47・48)

〔位置〕 II U・V-50グリッドに位置する。

〔確認〕 IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 認められないが、第27土に近接する。

〔平面形・規模〕 開口部で長径172cm、短径166cmの円形、底部で長径160cm、短径154cmの円形、確認面からの深さは104cmを計測する。

〔壁・底面〕 壁は底面よりやや内傾して立ち上がり、弱い括れ部を有する。底面は一部に段を有し、凸凹している。

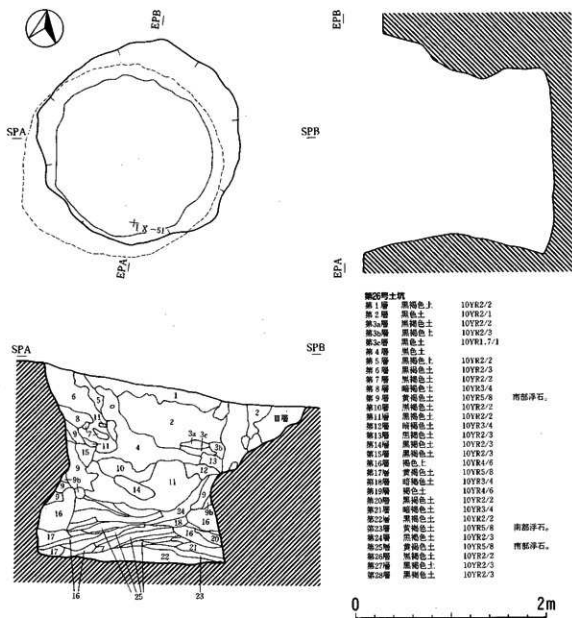


图32 第26号土坑

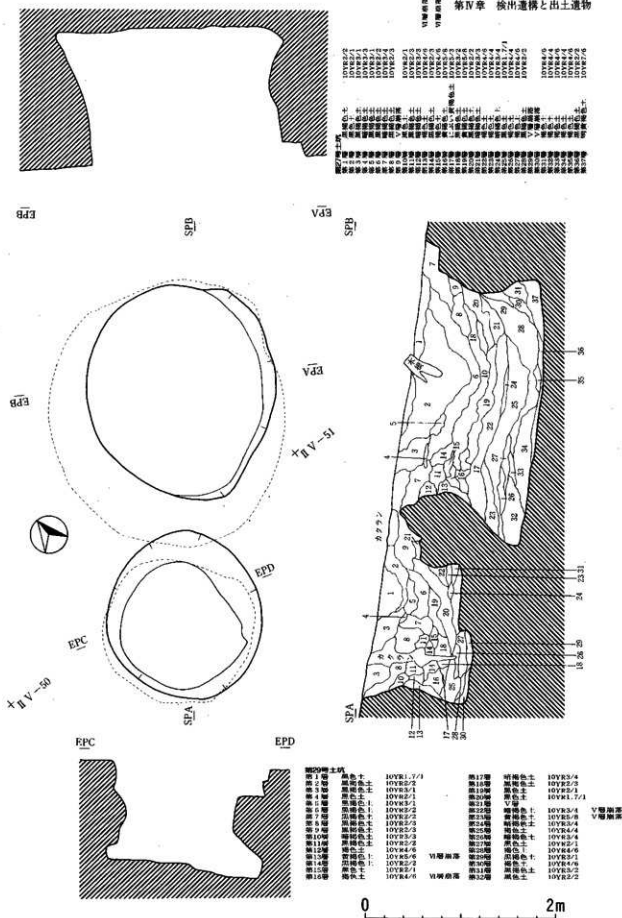


图33 第27・29号土坑

[堆積土] 32層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 底面付近より礫が1点出土している。

[小結] 形状から、縄文時代のフラスコ状ピットと思われる。詳細な時期は不明。

### 第30号土坑 (図34・図版50)

[位置] II T-52・53グリッドに位置する。

[確認] IV層上面でいよいよ黄褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 長軸154cm、短軸82cmで平面形は楕円形を呈し、確認面からの深さは85cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面よりやや急に立ち上がり、底面は多少凸凹している。

[堆積土] 15層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 覆土中より縄文土器片が2点出土している。1は口縁部。小波状を呈し細目の斜縄文を施文する。2は胴部片。無文である。

[小結] 詳細な時期は不明。

### 第32号土坑 (図34)

[位置] II Y・Z-47グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 確認面で長軸125cm、短軸90cmの楕円形、底面で長軸115cm、短軸95cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは35cmを計測する。

[壁・底面] 壁は一部で底面からやや内傾して立ち上がり、底面は、ほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 詳細な時期は不明。

### 第33号土坑 (図31・図版43・44)

[位置] II W・X-50グリッドに位置する。

[確認] 第25土精査中に明黄褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 第25土に近接するが認められない。

[平面形・規模] 一部風倒木により壊されているが、開口部で推定直径220cm、底部で長径244cm短径236cmの円形を呈するものと思われ、確認面からの深さは190cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から内湾してやや急に、括れ部から緩やかにに外反して立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 28層に分層された。概ね自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 出土していない。

[小結] 形状から、縄文時代のフラスコ状ピットと思われる。詳細な時期は不明。



### 第34号土坑 (図35・図版51)

〔位置〕ⅡV・W-52・53グリッドに位置する。

〔確認〕Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕認められない。

〔平面形・規模〕確認面で長径133cm、短径120cmの円形、底面で長径142cm、短径128cmのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは148cmを計測する。

〔壁・底面〕壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、やや内傾する。底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積土〕18層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

〔小結〕形状から、縄文時代のフラスコ状ピットと思われる。詳細な時期は不明。

### 第35号土坑 (図35・図版52・53)

〔位置〕ⅡW-51・52グリッドに位置する。

〔確認〕Ⅳ層上面で褐色～明黄褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕認められない。

〔平面形・規模〕開口部で長径240cm、短径226cmの円形、底面で長径230cm、短径202cmのほぼ円形を呈し、確認面からの深さは170cmを計測する。

〔壁・底面〕壁は一部で底面からやや内傾して立ち上がり、底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積土〕72に分層された。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

〔小結〕形状から、縄文時代のフラスコ状ピットと思われる。詳細な時期は不明。

### 第37号土坑 (図36・図版54)

〔位置〕ⅢA-56グリッドに位置する。

〔確認〕Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕認められない。

〔平面形・規模〕開口部で長径140cm、短径135cmの円形、底面で長径100cm、短径95cmの円形を呈し、確認面からの深さは103cmを計測する。

〔壁・底面〕壁は一部で底面からやや内湾ぎみに立ち上がり、底面は、ほぼ平坦である。

〔堆積土〕10層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

〔小結〕形状から、縄文時代のフラスコ状ピットと思われる。詳細な時期は不明。

### 第38号土坑 (図36・図版55)

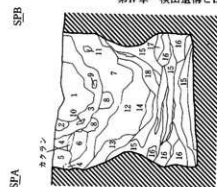
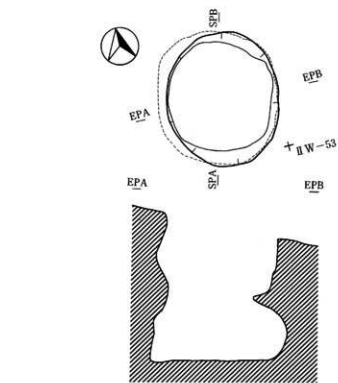
〔位置〕ⅢA-56グリッドに位置する。

〔確認〕Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕認められない。

〔平面形・規模〕確認面で長径113cm、短径107cmの円形、底面で長軸113cm、短軸62cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは50cmを計測する。

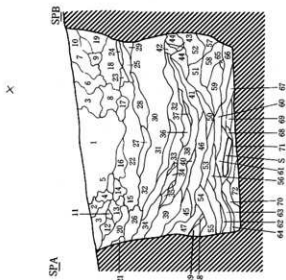
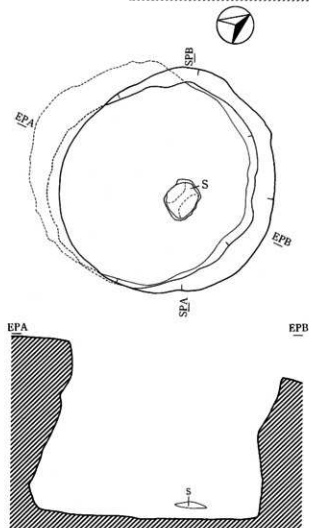




第34号土坑

- |      |       |           |
|------|-------|-----------|
| 第1層  | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第2層  | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第3層  | 黒褐色土  | 10VR2/3   |
| 第4層  | 黒褐色土  | 10VR2/3   |
| 第5層  | 暗褐色土  | 10VR3/4   |
| 第6層  | 黒褐色土  | 10VR2/3   |
| 第7層  | 黒褐色土  | 10VR2/3   |
| 第8層  | 暗褐色土  | 10VR3/4   |
| 第9層  | 黒色土   | 10VR1.7/1 |
| 第10層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   |
| 第11層 | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第12層 | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第13層 | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第14層 | 黄褐色土  | 10VR5/6   |
| 第15層 | 明黄褐色土 | 10VR6/8   |
| 第16層 | 褐色土   | 10VR4/6   |
| 第17層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   |
| 第18層 | 黒褐色土  | 10VR2/3   |

南面浮石。  
南面浮石。  
南面浮石、砂粒を含む。



第35号土坑

- |      |       |           |      |       |           |
|------|-------|-----------|------|-------|-----------|
| 第1層  | 明黄褐色土 | 10VR6/8   | 第37層 | 黒褐色土  | 10VR3/1   |
| 第2層  | 暗褐色土  | 10VR4/4   | 第38層 | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第3層  | 暗褐色土  | 10VR3/4   | 第39層 | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第4層  | 明黄褐色土 | 10VR7/6   | 第40層 | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第5層  | 暗褐色土  | 10VR4/6   | 第41層 | 赤土    | 10VR1.7/1 |
| 第6層  | 暗褐色土  | 10VR4/4   | 第42層 | 南面浮石層 | 10VR4/4   |
| 第7層  | 暗褐色土  | 10VR2/3   | 第43層 | 褐色土   | 10VR4/4   |
| 第8層  | 暗褐色土  | 10VR3/4   | 第44層 | 褐色土   | 10VR4/4   |
| 第9層  | 暗褐色土  | 10VR4/6   | 第45層 | 南面浮石層 | 10VR2/1   |
| 第10層 | 褐色土   | 10VR2/2   | 第46層 | 褐色土   | 10VR2/1   |
| 第11層 | 褐色土   | 10VR2/2   | 第47層 | 南面浮石層 | 10VR2/1   |
| 第12層 | 暗褐色土  | 10VR2/2   | 第48層 | 褐色土   | 10VR2/3   |
| 第13層 | 暗褐色土  | 10VR2/2   | 第49層 | 褐色土   | 10VR2/1   |
| 第14層 | 明黄褐色土 | 10VR6/8   | 第50層 | 褐色土   | 10VR2/1   |
| 第15層 | 赤土    | 10VR5/6   | 第51層 | 南面浮石層 | 10VR2/3   |
| 第16層 | 黄褐色土  | 10VR5/6   | 第52層 | 黒褐色土  | 10VR2/3   |
| 第17層 | 黄褐色土  | 10VR5/6   | 第53層 | 黒褐色土  | 10VR2/1   |
| 第18層 | 黄褐色土  | 10VR3/3   | 第54層 | 黒褐色土  | 10VR2/1   |
| 第19層 | 南面浮石層 | 10VR3/3   | 第55層 | 黒褐色土  | 10VR3/4   |
| 第20層 | 黒褐色土  | 10VR3/2   | 第56層 | 黒褐色土  | 10VR3/1   |
| 第21層 | 黒褐色土  | 10VR3/6   | 第57層 | 褐色土   | 10VR4/4   |
| 第22層 | 南面浮石層 | 10VR3/6   | 第58層 | 南面浮石層 | 10VR3/3   |
| 第23層 | 褐色土   | 10VR4/6   | 第59層 | 南面浮石層 | 10VR3/1   |
| 第24層 | 黄褐色土  | 10VR2/4   | 第60層 | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第25層 | 褐色土   | 10VR2/4   | 第61層 | 黒褐色土  | 10VR2/2   |
| 第26層 | 暗褐色土  | 10VR2/4   | 第62層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   |
| 第27層 | 黄褐色土  | 10VR2/6   | 第63層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   |
| 第28層 | 南面浮石層 | 10VR2/6   | 第64層 | 暗褐色土  | 10VR2/2   |
| 第29層 | 褐色土   | 10VR4/4   | 第65層 | 暗褐色土  | 10VR2/2   |
| 第30層 | 暗褐色土  | 10VR3/3   | 第66層 | 暗褐色土  | 10VR2/1   |
| 第31層 | 暗褐色土  | 10VR3/3   | 第67層 | 暗褐色土  | 10VR2/4   |
| 第32層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   | 第68層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   |
| 第33層 | 南面浮石層 | 10VR3/4   | 第69層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   |
| 第34層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   | 第70層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   |
| 第35層 | 黒色土   | 10VR1.7/1 | 第71層 | 暗褐色土  | 10VR3/3   |
| 第36層 | 暗褐色土  | 10VR3/4   | 第72層 | 黒色土   | 10VR2/1   |

図35 第34・35号土坑

【壁・底面】 壁は一部で底面からやや内傾して立ち上がり、底面は、ほぼ平坦である。

【堆積土】 11層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【小結】 形状から、縄文時代のフラスコ状ビットと思われる。詳細な時期は不明。

第39号土坑 (図36・図版56)

【位置】 II Z-56グリッドに位置する。

【確認】 IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

【重複】 認められない。

【平面形・規模】 確認面で長径114cm、短径108cmの円形、底面で長軸62cm、短軸28cmの楕円形、確認面からの深さは45cmを計測する。

【壁・底面】 壁は一部で底面からやや内傾して立ち上がり、底面は、ほぼ平坦である。

【堆積土】 8層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【小結】 詳細な時期は不明。

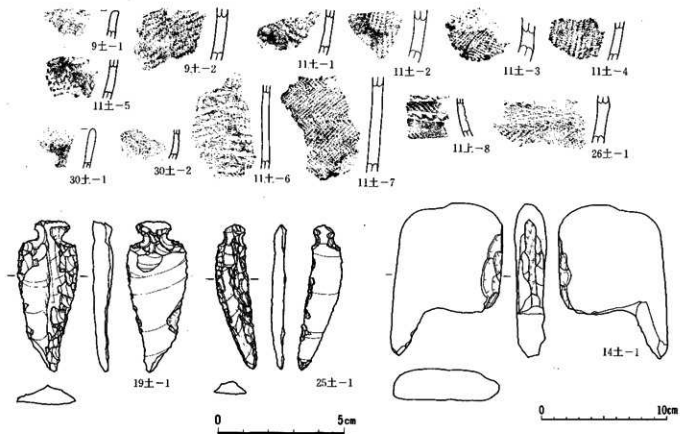


図36 土坑内出土遺物

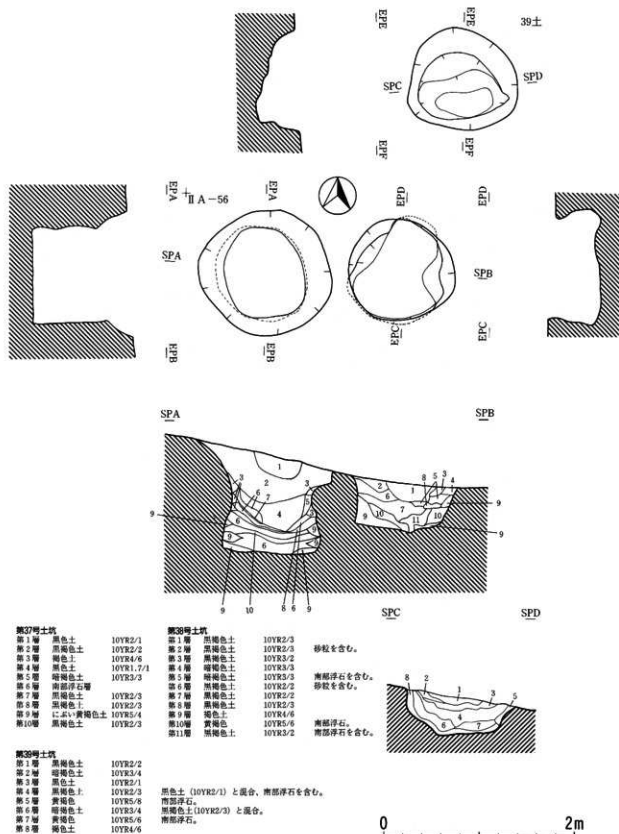


図37 第37・38・39号土坑

### 3 溝状土坑

溝状土坑はB区から2基検出された。

#### 第1号溝状土坑 (図38・図版57)

[位置] II R-72、II R・S-73グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 平面形は両端部が丸みを帯びた幅広の溝状を呈する。規模は開口部で長軸398cm、短軸137cm、底面で長軸388cm、短軸21cm、確認面からの深さは182cmを計測する。

[壁・底面] 側縁部の南・北壁面は、底面から中位にかけてほぼ垂直に立ち上がり、中位から開口部にかけては北壁ではやや急に、南壁では緩やかに立ち上がる。また、両端部共壁面は底面から中位にかけて内傾して立ち上がり、中位から開口部にかけてはやや急に立ち上がる。底面はかなり湾曲している。

[堆積土] 16層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 詳細な時期は不明であるが、形状・堆積土等から縄文時代の所産と思われる。

#### 第2号溝状土坑 (図38・図版58)

[位置] II R-72、II R・S-73グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 平面形は側縁部北側がほぼ直線的で両端部が丸みを帯びた幅広の溝状を呈する。規模は開口部で長軸310cm、短軸100cm、底面で長軸318cm、短軸29cm、確認面からの深さは176cmを計測する。

[壁・底面] 側縁部の南・北壁面は、底面からやや内傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 14層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 詳細な時期は不明であるが、形状・堆積土等から縄文時代の所産と思われる。

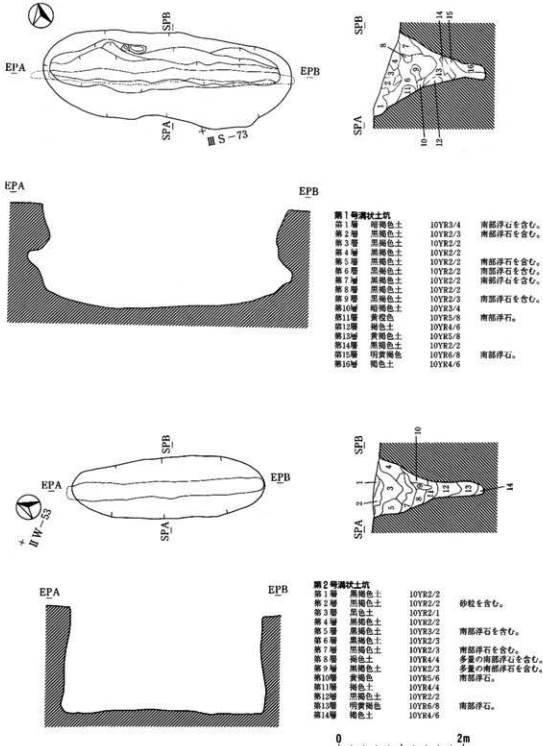


図38 第1・2号溝状土坑

## 4 土器埋設遺構

A区で2基、B区で1基検出された。

### 第1号土器埋設遺構（図39・40・図版59・60・86）

[位置] II D-34グリッドに位置する。

[確認] III層上面で確認した。

[重複] 認められない。

[規模・形状] 土器よりかなり大きめの掘り方を有する。

[小結] 縄文時代中期、円筒上層a式の正立に埋置された土器である。

### 第2号土器埋設遺構（図41・42・図版78）

[位置] I Y-30グリッドに位置する。

[確認] III層上面で確認した。

[重複] 認められない。

[規模・形状] 明確な掘り方等は確認できなかった。

[小結] 底部を除いた体部上半が正立に埋置されたものと思われる。第1号竪穴住居跡出土P-48（底部）と接合する。縄文時代晩期の口縁部が小波状を呈する鉢形土器と思われる。

### 第3号土器埋設遺構（図41・42・図版86）

[位置] II Y・Z-47グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で確認した。

[重複] 一部風倒木により壊されている。

[規模・形状] 明確な掘り方等は確認できなかった。

[小結] 風倒木により約1/2を欠失する。確認面では斜位であったが、どのように埋置されていたかは不明である。縄文時代後期の深鉢形土器である。

## 5 竪穴状遺構

A区で1基検出された。

### 第1号竪穴状遺構（図43・図版63）

[位置] I D・E-8・9グリッドに位置する。

[確認] IV層上面で確認した。

[重複] 一部第18号土坑と近接するが切り合い関係は不明。

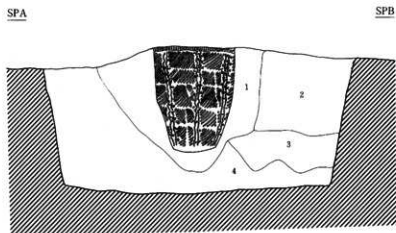
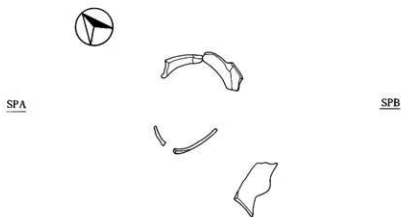
[平面形・規模] 一部調査区域外にかかるため規模は不明であるが、ほぼ円形を呈するものと思われ、確認面からの深さは58cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面からやや急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

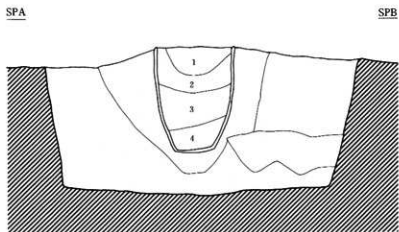
[堆積土] 16層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 底面施設が確認できなかった。詳細な時期は不明であるが縄文時代の竪穴状遺構と思われる。



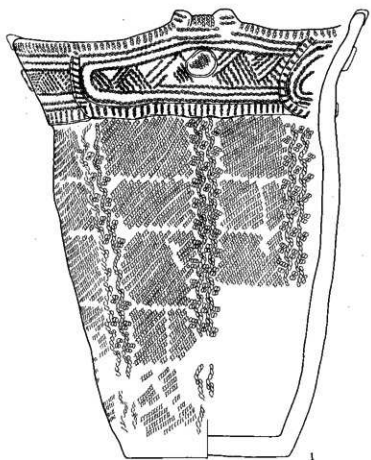
第1号埋設土器・罎の方  
 第1層 赤褐色土 10YR2/3 極微量の青磁浮石を含む。  
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 極微量の青磁浮石を含む。  
 第3層 黒色土 10YR1.7/1 多量の青磁浮石を含む。  
 第4層 黒色土 10YR1.7/1 極微量の青磁浮石を含む。



第1号埋設土器内フク土  
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 極微量の青磁浮石を含む。  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 砂質土、極微量の青磁浮石を含む。  
 第3層 赤褐色土 10YR2/3 極微量の青磁浮石を含む。  
 第4層 黒色土 10YR2/4 微量の青磁浮石を含む。

図39 第1号土器埋設遺構

0 1m



0 10cm

图40 第1号埋設土器



第2号土器埋設遺構



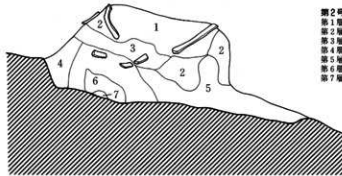
SPA



SPB

SPA

SPB



第2号埋設土器・竪り方

第1層	灰色土	10YR1.7/1	無微量の南極浮石を含む。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	無微量の南極浮石を含む。
第3層	黒色土	10YR2/1	
第4層	黒褐色土	10YR2/2	無微量の南極浮石を含む。
第5層	暗褐色土	10YR3/4	微量の南極浮石を含む。
第6層	灰色土	10YR2/1	無微量の南極浮石を含む。
第7層	暗褐色土	10YR3/4	無微量の南極浮石を含む。

第3号土器埋設遺構



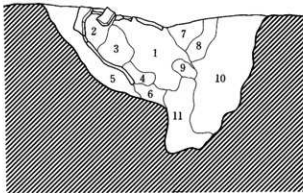
SPA



SPB

SPA

SPB

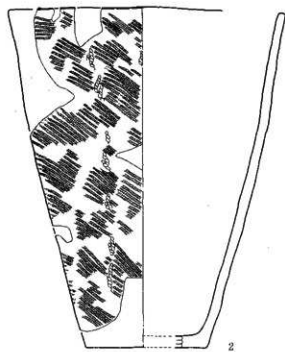


第3号埋設土器・竪り方

第1層	暗褐色土	10YR3/4	多量の砂粒・南極浮石を含む。
第2層	黒褐色土	10YR2/3	多量の砂粒。少量の南極浮石を含む。
第3層	暗褐色土	10YR2/3	少量の砂粒。多量の南極浮石を含む。
第4層	暗褐色土	10YR2/3	多量の砂粒。少量の南極浮石を含む。
第5層	褐色土	10YR4/6	砂粒・南極浮石の混合層。
第6層	黒褐色土	10YR2/2	多量の南極浮石を含む。
第7層	黒褐色土	10YR2/3	
第8層	黒褐色土	10YR2/2	
第9層	黒褐色土	10YR2/2	
第10層	暗褐色土	10YR3/4	
第11層	暗褐色土	10YR3/3	

0 1m

図41 第2・3号土器埋設遺構



0 10cm

图42 第2・3号埋設土器

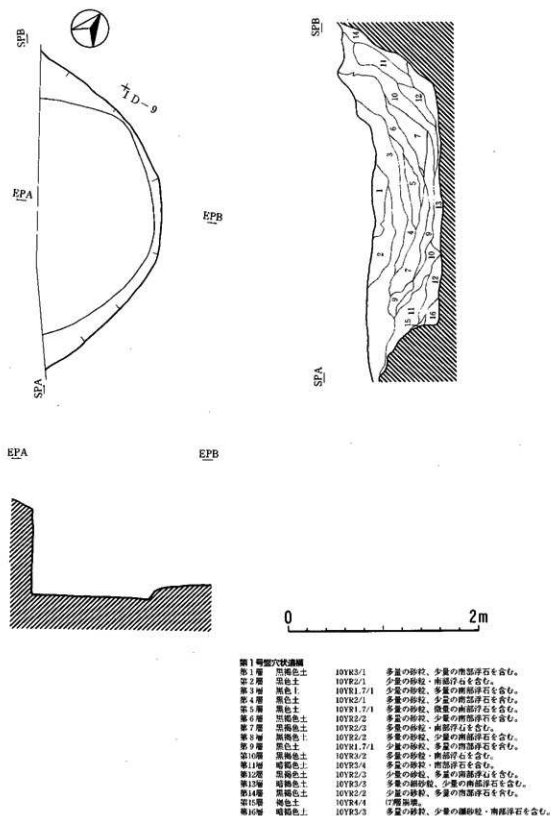


図43 第1号竪穴状遺構

## 6 配石遺構

配石遺構はA区で2基検出されている。

### 第1号配石 (図44・図版64)

〔位置〕 I Y-30グリッドに位置する。

〔確認〕 III層上面で確認した。

〔重複〕 認められない。第1号配石に近接する。

〔範囲〕 南及び南西側の礫を欠落する。礫の範囲は長軸約80cm、短軸60cmの楕円形内に収まるものと思われる。

〔施設〕 認められなかった。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

〔小結〕 配石の下部から、施設も遺物も確認できなかった。詳細な構築時期は不明である。

### 第2号配石 (図44・図版65)

〔位置〕 I Y-30グリッドに位置する。

〔確認〕 III層上面で確認した。

〔重複〕 認められない。

〔範囲〕 礫の範囲は長軸70cm、短軸60cmのほぼ円形内に収まる。

〔施設〕 施設は認められなかった。

〔出土遺物〕 遺物は出土しなかった。

〔小結〕 配石の下部から、施設も遺物も確認できなかったため詳細な時期は不明である。

## 7 屋外炉

屋外炉はB区で1基検出された。

### 第1号屋外炉 (図44・図版66)

〔位置〕 II U-50グリッドに位置する。

〔確認〕 III層上面で確認した。

〔重複〕 認められない。

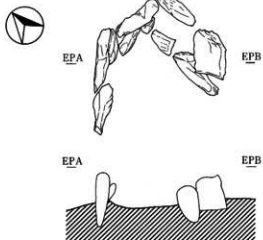
〔範囲〕 一部礫を欠落するが、礫の範囲は長軸58cm、短軸54cmのほぼ円形内に収まる。

〔施設〕 認められなかった。

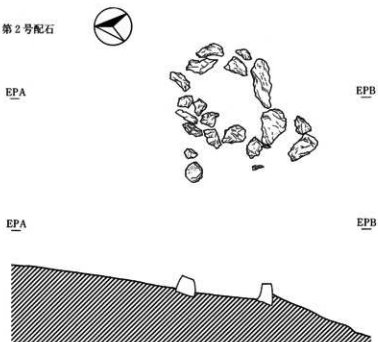
〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 詳細な時期は不明。

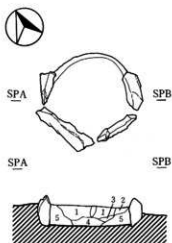
第1号配石



第2号配石



第1号屋外炉



第3号柱礎

- |     |       |         |                   |
|-----|-------|---------|-------------------|
| 第1層 | 黒色土   | 10YR2/1 | 南面浮石少量含む。         |
| 第2層 | 黒褐色土  | 10YR3/2 | 南面浮石少量含む。         |
| 第3層 | 暗褐色土  | 10YR3/3 | 南面浮石を多量に含む。       |
| 第4層 | 暗赤褐色土 | 5YR5/8  | 多量の焼土粒子・ブロックを含む。  |
| 第5層 | 暗褐色土  | 10YR3/4 | 南面浮石多量、焼土粒子を少量含む。 |

0 1m

図44 第1・2号配石遺構・第1号屋外炉

## 第2節 平安時代及びその他の時代の検出遺構と出土遺物

平安時代の遺構はA区で竪穴住居跡が1軒検出された。また、近代と思われる炭窯が1基検出されている。

### 1 竪穴住居跡

#### 第2号竪穴住居跡（図46・47・図版81・82）

〔位置〕 DⅡ-36・37グリッドに位置する。

〔確認〕 Ⅱ～Ⅲ層上面で確認した。

〔重複〕 認められない。

〔平面形・規模〕長軸480cm、短軸440cmの不整な楕円形を呈する。確認面からの深さは最深部で約60cm、最浅部で20cmである。

〔主軸方向〕 N-63°-E

〔堆積土〕 7層に分層された。自然堆積の様相を呈する。なお、覆土中に白頭山、十和田aなどの火山灰は確認できなかった。

〔壁〕 壁は床面よりなだらかに立ち上がる。壁高は20～60cm

〔床面〕 床面は面的に確認することはできなかったが、セクション図より第V層の南部浮石と黒色土の混合土であると考えられる。

〔カマド〕 カマドと思われるものは、北東壁の中央やや東寄りに位置する。確認でき得た住居跡の掘り方とは約60～80cm離れている。粘板岩製の板状の礫を袖部の芯材としてしていると推測されるが、粘土や焼土の存在を確認できなかった。長軸の方向は北東寄りであり、斜面上側に作られている。なお、住居跡の床面に炉などの施設は確認できなかった。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔施設〕 なし。

〔出土遺物〕 覆土中より土師器片と流れ込みと思われる縄文土器片が出土している。図示し得た土師器は3点である。1は土師器甕。底部を欠失する。2も土師器甕。口縁部の大半を欠失する。底部に木葉痕を有する。3は土師器坏または椀と思われる。4～31は縄文土器である。4～16は胎土中に繊維を含む。17～26は中期前葉から中葉のものと思われる。27～30は中期末葉から後期初頭にかけたのものである。

〔小結〕 本住居跡の帰属時期は明確にし得ないが、平安時代の可能性が高いものと思われる。

### 2 炭窯

#### 第1号炭窯（図47・図版69）

〔位置〕 DⅡ-36・37グリッドに位置する。

〔確認〕 Ⅱ～Ⅲ層上面で確認した。

〔重複〕 認められない。

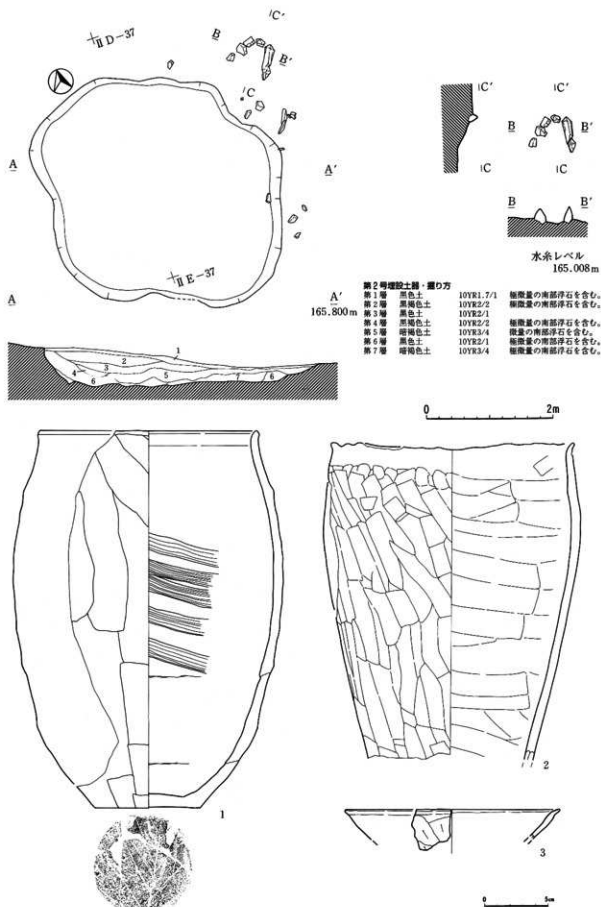


図45 第2号竪穴住居跡出土遺物(1)

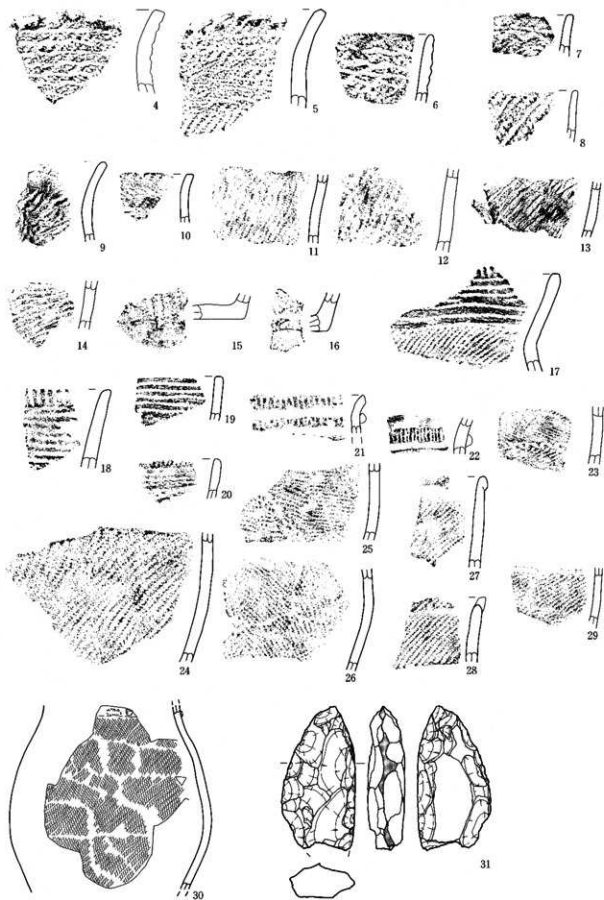


图46 第2号竖穴住居跡出土遺物(2)



## 第2号竪穴住居跡出土土器

図No	写真No	器形	部位	口径	底径	外 面	内面	底部	分類	備 考
1	108	甕	復元可能	17.5	8.2	口縁部ナデ、胴部ケズリ	ヘラナデ	木葉圧痕	平安	
2	109	甕	底部欠失	24		口縁部つまみ出し、胴部ケズリ	ヘラナデ		平安	
3		坏か碗	口縁部	17		口縁部ナデ、胴部ケズリ	ナデ		平安	

図No	写No	層位	器形	部位	外 面	底 部	内 面	分 類	備 考
4	110	覆土	深鉢形	口縁部	口唇部刻み目、口縁直下LR結節回転文、		刷毛目状横位調整	前期	胎土中に繊維
5	111	覆土	深鉢形	口縁部	口唇部刻み、口縁直下LR結節回転文、胴部LR横位回転		刷毛目状横位調整	前期	胎土中に繊維含む
6	112	覆土	深鉢形	口縁部	口縁部結節回転文			前期	胎土中に繊維含む
7	113	覆土	深鉢形	口縁部	口縁部LR結節回転文			前期	胎土中に繊維含む
8	114	覆土	深鉢形	口縁部	LR横位回転			前期	胎土中に繊維含む
9	115	覆土	深鉢形	口縁部	無筋LR横位回転?		横位ナデ調整	前期?	
10	116	覆土	深鉢形	口縁部	口唇部RLR押圧、口縁部LR横位回転後RLR押圧			前期	胎土中に繊維含む
11	117	覆土	深鉢形	胴部	LR横位回転			前期	胎土中に繊維含む
12	118	覆土	深鉢形	胴部	LR横位回転			前期	胎土中に繊維含む
13	118	覆土	深鉢形	胴部	無筋LR横位回転			前期	胎土中に繊維含む
14	119	覆土	深鉢形	胴部	半輪結状体第1種横位大会			前期	胎土中に繊維含む
15	120	覆土	深鉢形	底部	LR横位回転、	LR横位回転		前期	胎土中に繊維含む
16	120	覆土	深鉢形	底部	LR横位回転、	ケズリ		前期	胎土中に繊維含む
17	120	覆土	深鉢形	口縁部	口唇部RLR縦位押圧、RLR横位押圧LR横位回転			中期	
18	121	覆土	深鉢形	口縁部	口唇部RLR縦位押圧、RLR横位押圧			中期	
19	122	覆土	深鉢形	口縁部	RLR押圧			中期	
20	123	覆土	深鉢形	口縁部	口唇部RLR縦位押圧、RLR横位押圧、RLR縦位			中期	
21	124	覆土	深鉢形	口縁部	口唇部RL押圧、口縁部隆線上RLR押圧、胴部LR横位回転			中期	
22	125	覆土	深鉢形	胴部	粘土紐張り付け後LR縦位押圧			中期	
23	126	覆土	深鉢形	胴部	LRとRLの結束横位回転			中期	
24	127	覆土	深鉢形	胴部	LR横位回転			中期	
25	128	覆土	深鉢形	胴部	RLR結節縦位回転			中期	
26	129	覆土	深鉢形	胴部	RLR結節縦位回転			中期	
27	130	覆土	深鉢形	口縁部	口唇部粘土紐張り付け後ナデ調整、LR横位回転			後期?	表面炭化物付着、補修孔
28	131	覆土	深鉢形	胴部	LR横位回転			前期?	
29	132	覆土	深鉢形	口縁部	口唇部粘土紐張り付け後全面にLR横位回転			前期?	
30	133	覆土	深鉢?	胴部	粘土紐張り付(剥落)、LR横位回転		横位ミガキ	後期?	

## 第2号竪穴住居跡出土土器

図No	写No	層位	大分類	細分種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備 考
31		覆土	敲磨器	C 2	113	57	29	233.3	安山岩	

[平面形・規模]長軸480cm、短軸440cmの不整な楕円形を呈する。確認面からの深さは最深部で約96cm、最浅部で20cmである。

[主軸方向] N-30°-E

[煙出口] 北側に1孔検出された。孔底部に「コ」の字形に鏡石を配している。

[堆積土] 栗の木の根によりかなり攪乱を受けているため割愛した。

[壁] 現存の壁高は20～96cmである。

[床面] かなり熱を受けており赤化しているがほぼ平坦である。

[焚口部] 南側に検出された。確認面では赤化した礫が周辺から検出されている。

[出土遺物] なし。

[小結] 上面に年輪が約50数年の栗の木の切り株があったことから、それ以前に構築・使用・廃棄された炭窯と推察される。

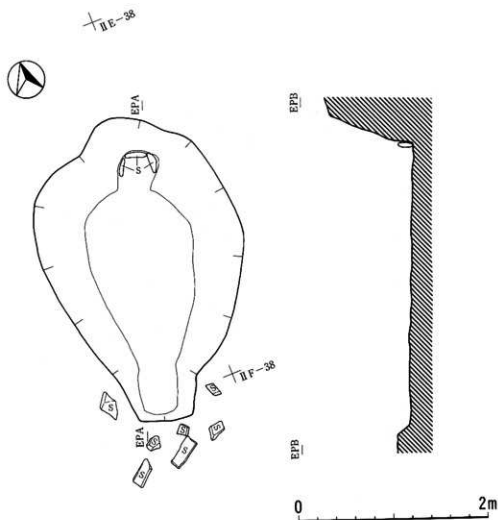


図47 第1号炭窯

## 第3節 出土遺物

### 1 土器・土製品

水吉遺跡出土の土器・土製品は遺構内外を含めて、段ボール箱にして約50箱出土している。縄文時代前・中・後・晩期にかけての土器がほとんどで、少量ではあるが弥生時代及び平安時代の土器が出土している。

分類するにあたり、縄文時代前期の土器を第Ⅰ群として、中期を第Ⅱ群、後期を第Ⅲ群、晩期を第Ⅳ群、ミニチュア土器を第Ⅴ群、弥生時代の土器を第Ⅵ群とし、細分類できるものは各群の中でしている。

#### 第Ⅰ群土器 (図48～51・図版87～90)

縄文時代前期の土器を一括した。

- I a類 円筒下層 a 式以前に相当するもの (1・2)。
- I b類 円筒下層 a 式に相当するもの (3～18)。
- I c類 円筒下層 d 式に相当するもの (19～34)。

#### 第Ⅱ群土器 (図52・53・図版91・92)

縄文時代中期の土器を一括した。

- II a類 円筒上層 a 式に相当するもの (35～46)。
- II b類 円筒上層 b 式に相当するもの (47)。
- II c類 円筒上層 c 式に相当するもの (48・49)。

#### 第Ⅲ群土器 (図54～58・図版93～96)

縄文時代後期の土器を一括した。

- III a類 十腰内 I 式以前に相当するもの (50～66)。
- III b類 十腰内 I 式に相当するもの (67～96)。
- III c類 十腰内 III 式に相当するもの (97・98)。
- III d類 縄文のみのもの (99～113)。
- III e類 無文のもの (114～121)。120・121は注口土器である。

#### 第Ⅳ群土器 (図58・59・図版96・97)

縄文時代晩期の土器を一括した。

- IV a類 三叉文を有するもの (123～129・144)。
- IV b類 帯縄文を有するもの (122)。
- IV c類 雲形文を有するもの (131～133)。
- IV d類 縄文のみのもの (134～136)。
- IV e類 並行沈線を有するもの (138～140・145)。145は口縁部に連弧状の沈線を有する。
- IV f類 無文のもの (137・141～143・146)。141～143は注口土器、146は台付浅鉢形土器である。

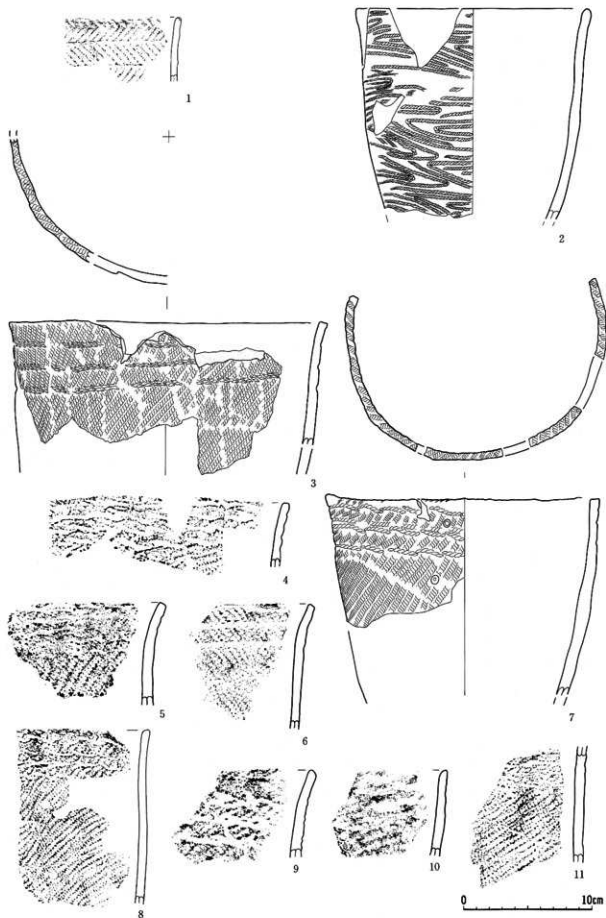


図48 遺構外出土遺物・土器(1)



図49 遺構外出土遺物・土器(2)

木古遺跡

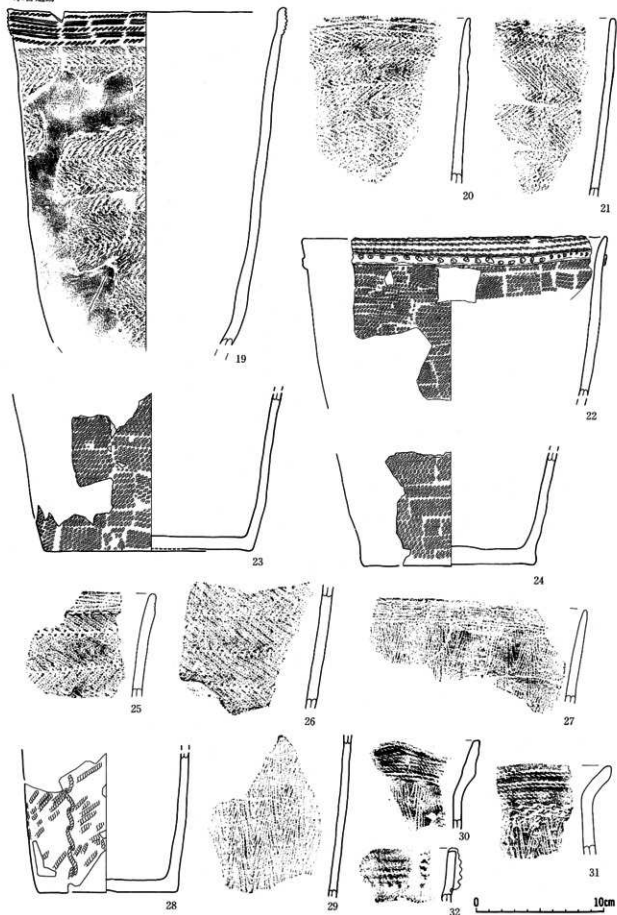


图50 遺構外出土遺物・土器(3)

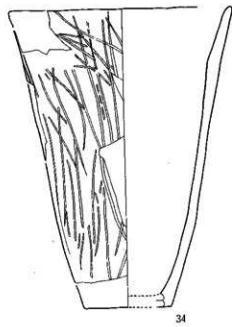
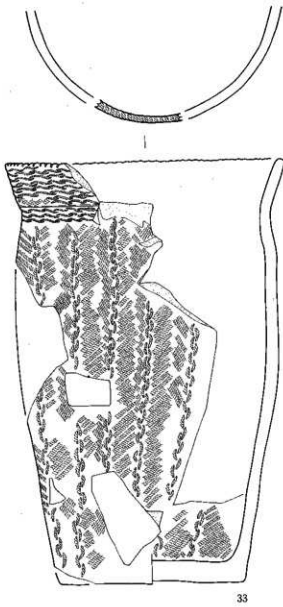


図51 遺構外出土遺物・土器（4）

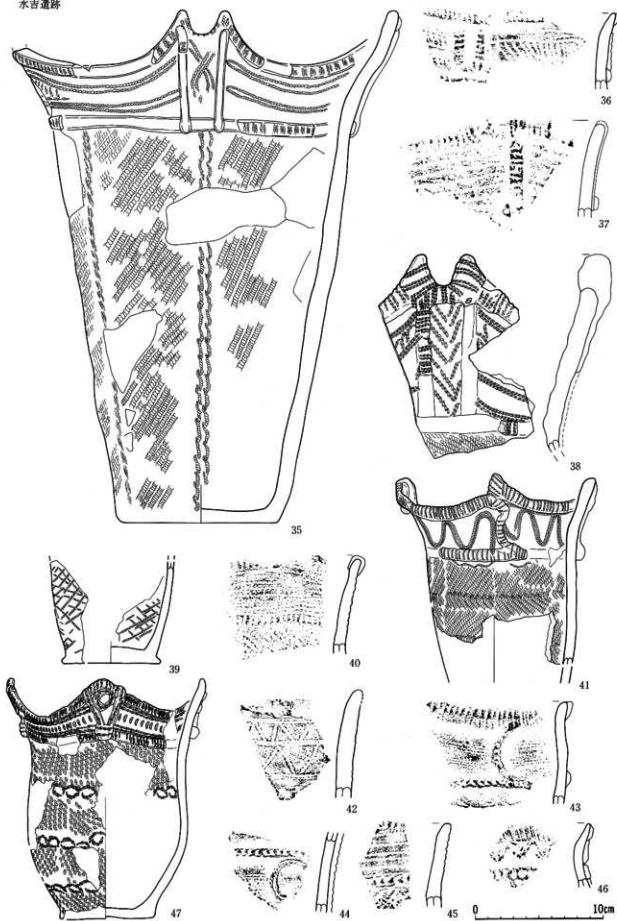
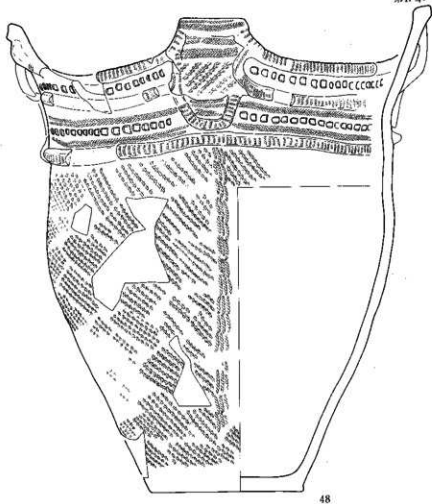
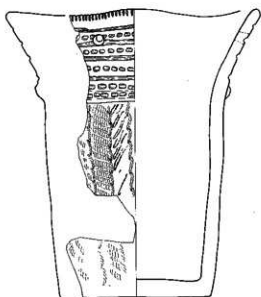


图52 遺構外出土遺物・土器(5)





48



49

0 10cm

図53 遺構外出土遺物・土器(6)

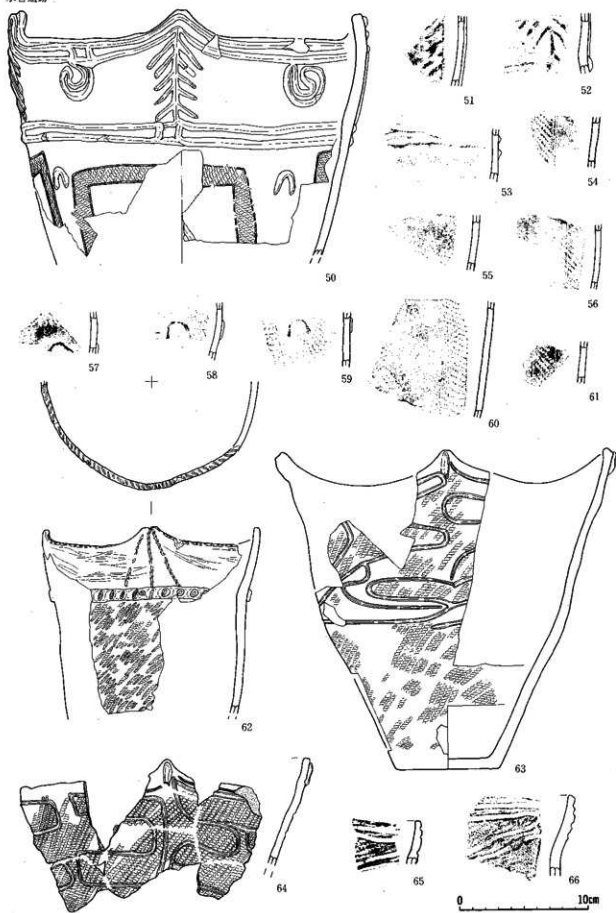


図54 遺構外出土遺物・土器(7)

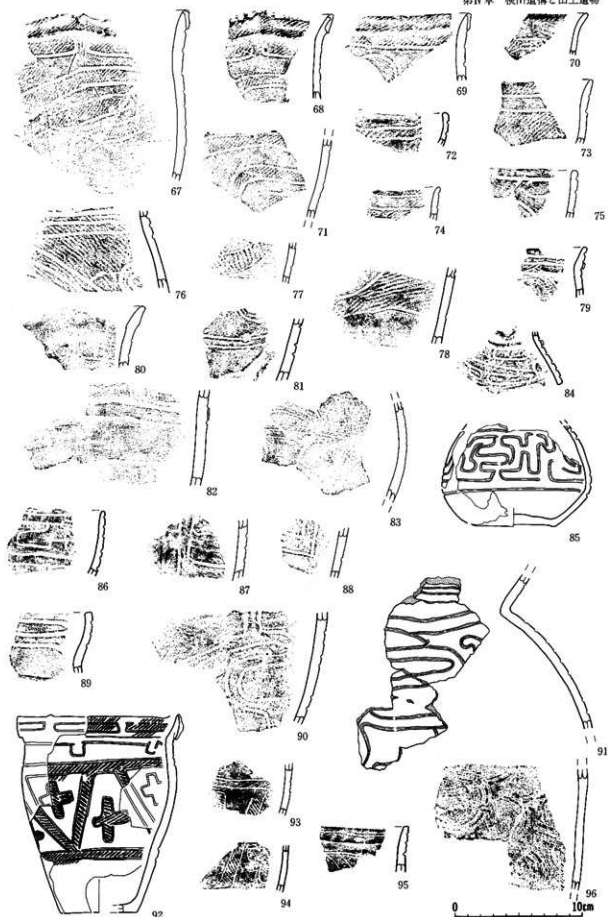


図55 遺構外出土遺物・土器(8)

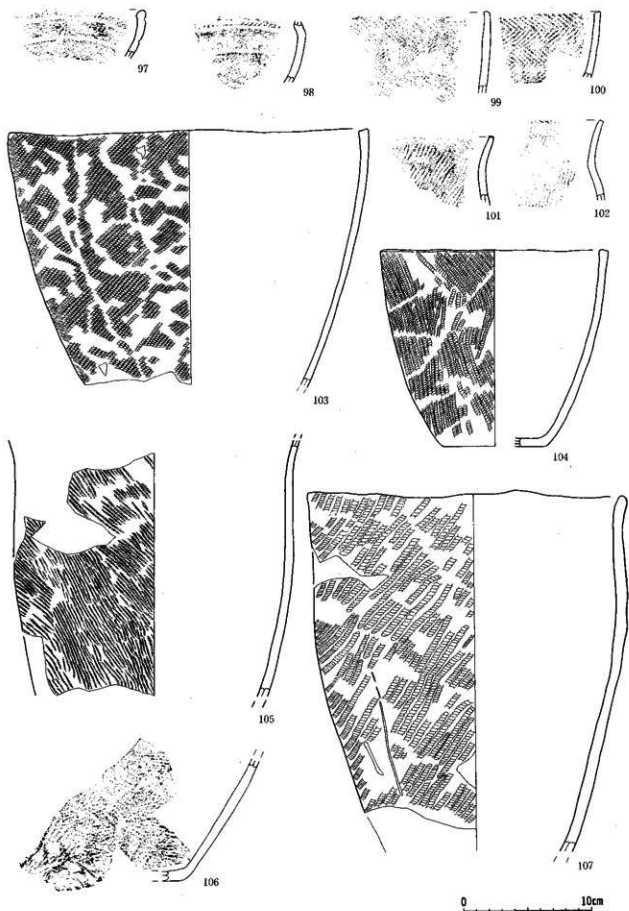
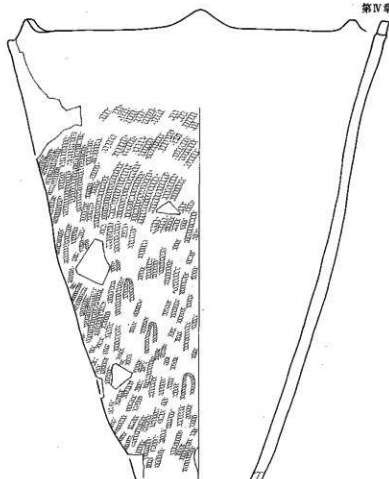
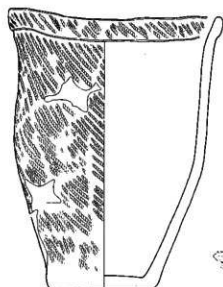


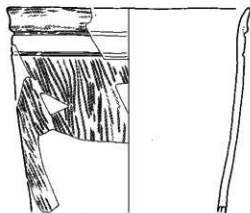
图56 遺構外出土遺物・土器(9)



108



109



110



111



112

0 10cm

図57 遺構外出土遺物・土器 (10)

水吉遺跡

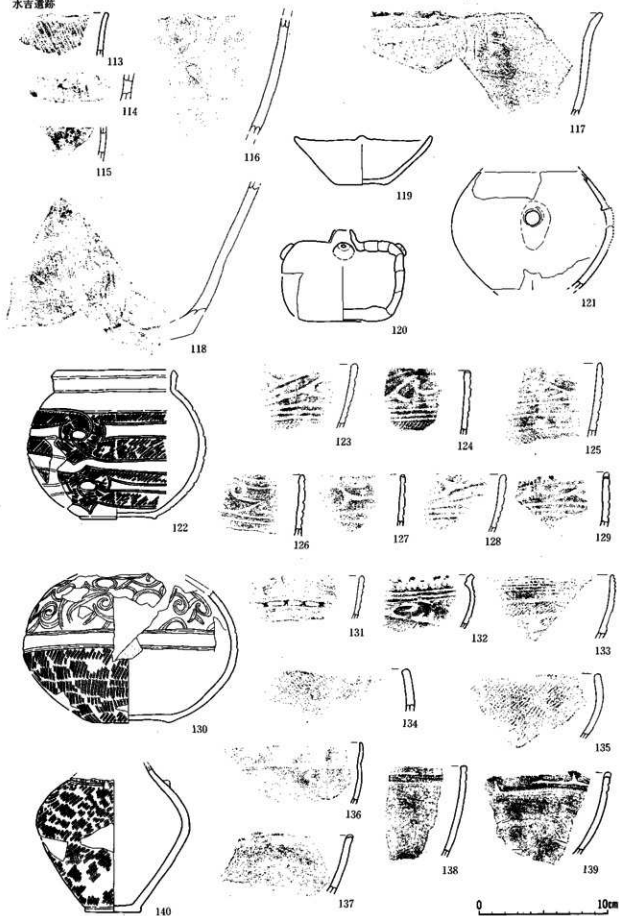


図58 遺構外出土遺物・土器 (11)

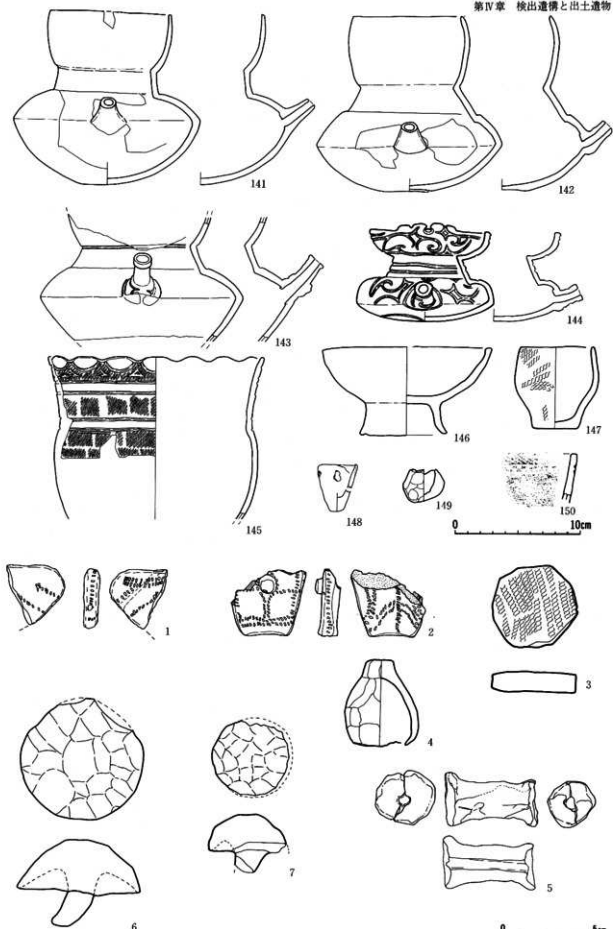


図59 遺構外出土遺物・土器(12)・土製品

第V群土器 (図59・図版85)

ミニチュア土器を一括した。

3点出土している。147は胴部に縄文を施文する。148・149は無文。

第VI群土器 (図59・図版85)

弥生時代の土器を一括した。

図示し得たのは1点である。150は口縁部で沈線及び交互刺突文を施文する。天王山式に相当する。

平安時代と思われる土師器片は細片がほとんどで、第2号竪穴住居跡から出土した3点と第1号竪穴住居跡から出土した1点以外図示し得ることはできなかった。

土製品

土製品は、遺構外から土偶2点、円盤状土製品1点、鐔形土製品1点、筒状土製品1点、きのこ形土製品2点が出土している。

土偶 (図59)

欠損品で腕部と下半身が出土した。刺突及び張り付けにより文様を施文する。

円盤状土製品 (図59・図版85)

1点出土している。単節RL斜縄文の施文される胴部片の側縁を擦って整形している。

鐔形土製品 (図59)

1点の出土である。成形は手ずくねによる。無文である。

糸巻き状土製品 (図59)

芯材に粘土を巻き付けた筒状の土製品。成形は手ずくねによる。耳栓とも分類可能である。

きのこ形土製品 (図59・図版85)

縄文時代のきのこ形土製品は縄文時代後期の遺跡を中心に青森県をはじめ、秋田・岩手両県の遺跡でも出土している。本遺跡からは2点のきのこ形土製品が出土している。いずれも遺構外からの出土である。6は傘の部分を一部欠失するが、ほぼ完形に近い形である。傘部は粘土紐の痕跡を一部に残し、指の圧痕をかすかに残している。柄の部分は粘土紐を二つ折りにし、丁寧な傘部に接合している。7は傘の縁辺部の3/4と柄の部分の大半を欠失している。6同様かすかに粘土紐の痕跡と指の圧痕を残している。当センター主幹工藤伸一氏(日本菌学会会員)によれば、「帽菌類(担子菌)ハラタケ目キシメジ科のサマツモドキヤシイタケ」を模倣したもののようである。以下にその鑑定結果の全文を掲載することとする。

(笹森 一期)



## 南郷村水吉遺跡から出土したきのこ形土製品について

工藤伸一

## 1 出土状況

2点(6,7)のきのこ形土製品が出土しているが、2点とも傘及び柄と思われる部分から造られている。6は傘の一部が破損しているがほぼ完全な形で出土しており、7は傘の一部が破損しているが、きのこを推定できる形で出土している。

5の傘の部分は径約65mm、高さ25mm程のやや深い丸山形で、表面はほぼ平滑、傘の下面は深い凹状に仕上げられているため全体に肉薄、縁部はやや波打つ。柄の部分は、ほぼ円筒状で15mm、下方に向かって細まり、基部はほぼし字型に曲げられ、長さは30mmと傘の径の大ききの割合には短い。

6の傘の部分は径推定で約40mm、高さ22mm程の饅頭形で、表面はほぼ平滑であるが、意識的に深さ2-3mm、長さ15mmと20mm程度の溝線が2本刻まれている、傘の下面は凹状に仕上げられているが中央部分ではかなり肉厚で縁部は薄くやや内側に巻く。柄の部分は傘に斜めに取り付けられ、ほぼ円筒状で16mm、下方に向かって細まり、全体の長さは不明。

## 2 種の推定

きのこ形土製品は実物のきのこではないので、生物学的に種を決定することはできない。しかし、その形状からある程度推定することは可能である。今回出土したきのこ形土製品はいずれも傘及び柄の部分から形成されており、しかも、傘の下面の状態から「ひだ」があるきのこであることが想定されることから「帽菌類(担子菌)ハラタケ目」のきのこを模倣したことは明らかである。この「ハラタケ目」のきのこは、現代、我々が食用としているきのこの大部分を占めている。

また、個別毎の種の推定をしてみると、6と7どちらもキシメジ科のタイプのきのこで、いずれも基部が意識的に曲げられており、倒木や枯れ木などから発生していた状態を表現しているものであるが、両者は種類が違うものである。6は傘の肉が薄く仕上げられており、比較的深い丸山形であることから「サマツモドキ」のような中形の肉薄タイプのきのこを模倣したものと思われる。7は幼菌であるが、比較的大型で肉厚に仕上げられていることから、「シイタケ」のような肉厚タイプのきのこを模倣したものと思われる。

## 3 使用目的の考察

以上のように、出土した6,7のきのこ形土製品は共に食用と思われるきのこを模倣したものである。

しかも、その形状は、傘の下面の「ひだ」などの表現はないものの、種までも推定できるほどに精巧であることから、「食用きのこの見本、図鑑的役割」を果たしていたものと思われる。

## 2 石器・石製品

遺構外からは366点の石器・石片類が出土したが、ここでは図示しうるもの226点について取り扱った。

### 分類

#### (1) 石鏃 (1~48)

1類 無茎のものをまとめた (1~24)。

1 a類 平基のもの (1~12)。平基のものに関しては表面や裏面に素材剥片の面を残すものが見受けられる。また、調整加工もどちらかという周縁加工のものが多い。

1 b類 円基またはそれに近いもの (13~18)。

1 c類 凹基のもの (19~24)。

2類 基部の作り出しが顕著であり、かえしの部分が顕著なものをまとめた (25~36)。25~28は長さ約2cmであり非常に小さい。

3類 基部の尖るものをまとめた (37~43)。

4類 (44~48) 欠損により形状の不明のものをまとめたが、44~46については、2類に含まれる可能性が高い。

(2) 石槍 (49~54) 完形品は1点のみである。49は基部とみられる部分に両面からの連続的な調整剝離が入り、基部が円形に仕上げられている。

(3) 石匙 (55~75) 原則としてつまみ部のある石器をまとめた。器体の形状とつまみの位置によって3つに大別し、さらに刃部加工の状態等により個々に細別をした。

1類 (55~68・74・75) 器体の長軸方向の延長上に一对の抉りによるつまみ部を作出している、いわゆる縦型のものをまとめた。さらに刃部の状態によって3種に細別した。

1 a類 器体の両側縁に刃部加工が施されるもの (55~57)。

1 b類 器体の片側縁に刃部加工が施されるもの (58~68)。

1 c類 その他のもの (74・75)。

2類 (69・73) 器体の長軸方向に直行する方向につまみが作出されるもの、いわゆる横型のものをまとめた。

(4) 石錐 (77~80)。4点出土している。79は先端部が摩耗している状態が観察された。80はやや大型である。

(5) 両極石器 (76) 1点出土している。鉄石英製である。

(6) 不定形剥片石器 (81~100)

a類 器体の一部に連続的な剝離による急斜な角度の刃部を作出しているもの (83~89)。83、87、88を除くと、概ねエンドスクレイパーのような形態である。83は片面加工の石槍とも分類できようか。

b類 器体の一部に連続的な剝離による比較的平坦な角度の刃部を作出しているもの (81・82・88~98)。

c類 器体の一部に刃こぼれ状の痕跡が残るもの (99・100)。

## (7) 磨製石斧 (100~118)

製作の方法と形状によって分類を行った。

- 1類 原材を擦り切った後表面を磨いて器体の整形を行っているもの (101-104)。  
 2類 主に敲打により全体形状を整えた後、表面を磨いて器体の整形を行っているもの (105-109)。107は原礫を板状に分割した後に両側縁からの加工により形状を整え、刃部及び表面を磨いている。106、109は原礫の表面を片面に多く残している。磨いた跡があまり顕著ではないため打製石斧に分類することも可能であるが、形状や刃部等に磨製石斧のイメージが見て取れるため磨製石斧の中に組み入れた。105は原礫を荒割した後に全体を敲打により整形し、その後刃部片面と基部の一部を磨いている。これらような打製石斧と磨製石斧の中間に当たるような石斧は、本県において和野前山遺跡、売場遺跡、沖附(2)遺跡、鷹架遺跡等から出土している。これまでの例では早期と後期の例が多いようである。  
 3類 上記のいずれに属するか判別しがたいもの (110~119) をまとめたが、形態的には1類と同様である。

## (8) 石錘 (120~125)

器体の長軸または短軸のどちらかの両端に打ち欠きによる抉りを持つもの。

## (9) 敲磨器群 (126~233)

ここにまとめたものは器体に敲打や擦り、磨き等の痕跡を持つ石器である。調整加工や機能面の状況等によって6群に分類しがさらにそれらを個々に細別した。

A群 器体の一部に敲打によると思われる器面の荒れや凹みが確認できるもの。なお、個体によっては下記分類基準を両方満たすものもある。

- 1類 器体の両端や側縁に敲打によると思われる器面の荒れが観察されるもの (126~130)。  
 2類 a種 器体表面に明瞭なほぼ円形の凹み一つまたは複数観察されるもの (131~143)。

135は2つの凹みが観察されるが、敲きによるものとは明らかに違い、何かを回転させて凹みをつけたと明瞭に観察される個体である。136、143は側面に敲打痕が観察された。

b種 器体の表面に敲打によると思われる円形に近い器面の荒れが観察されるもの。(144~149) 144は側面に敲打痕が観察された。

B群 器体片側縁に両面からの連続的な加工により直線的な機能面が形成され、さらにその刃部稜線に擦り痕の観察されるもの。

- 1類 擦り痕の幅が比較的狭いもの (150~161)。154は機体表面に擦り痕が観察された。  
 2類 擦り痕の幅が比較的狭いもの (162~181)。この類は折損率が高いのも特徴で23点の内17点が折れている。また折れた面を磨いている物も存在する (163~165・172)。折れ面にみられる磨きはすべて側面の擦り痕の側に顕著にみられる。折れ面は特に163や165にみられるように平らな物が多く、1回の剝離だけでこのよう

になるとは考えられない。

C群 器体の側縁に両面からの連続的な加工をし、片側縁を弧状に、もう片方を直線的に仕上げたもの (175-207)。

1類 直線的に仕上げられた側縁の稜上に狭く、断続的な擦り痕の見られるもので従来半円状扁平打製石器と呼ばれている物である。(175-177)。石材は180を除いてすべて粘板岩製である。

2類 直線的に仕上げられた側縁にやや幅の広い擦り痕の見られるもの (180-200)。この類も折損率が高く20点の内9点が折れており、B2類同様に折れ面を使用しているものが存在する。(187・194) C1類に形状は類似するものの、石材の面で、2類はほとんど砂岩製であることや使用面の状況等、大きな違いがみられる。

また、183・189・190・192・194・195・198にみられるように弧状に仕上げられた側縁にもスリまたはタキによると思われる使用痕が観察される物が存在する。さらに194・196・198などには器体表面にもそれぞれしき痕跡がみられる。

D群 器体の片側縁を両面からの連続的な調整により弧状に近く仕上げたもの。もう片方の側縁に幅が広く磨きによるものに近い平坦面を持つ (201-205)。この群の使用面はB・C群の使用面と若干異なっており、石冠の底部に霧囲気が似ている。また、202は折れ面を磨いているものである。203は弧状の側縁に、204は弧状の側縁と表面に使用痕跡を持つ。

敵磨器B-D群は器体の側面に摩擦・敲打によると思われる痕跡を持つ石器群である。B、D群については従来擦り石と呼ばれるものが多く含まれており、C群については半円状扁平打製石器と呼ばれているものがほとんどであるといつてよい。既に記したようにB-D群はまず周縁の加工の有無によって2分され、さらに擦り面の状況等により2ないし3細分される。

周縁の加工については機能面以外の加工が見られない物と機能面以外の側縁に器体両面からの連続的な加工を施す物の2者に分かれる。擦り面についてはD群以外の各群は幅が狭く、横断面の鋭角な類と、幅が広く横断面に平坦な面を持つ類とに分かれる。これらの使用面は使用によるすり減りによる変化の課程を表す物ではなく、あらかじめそのような使用面が必要であったためであると考えられる。特にC群についてであるが、石材の使い分けがなされているのはそのためであろうか。

E群 横断面が概ね三角形になる厚手の石のいずれか一つまたは複数の稜上に擦り痕の観察されるもの (206-208)。

F群 器体の側縁に擦り痕を持つもの (209-213)。

G群 球形に近い石で器体表面を磨いているもの (214-221)。スリ・タキなどの痕跡を併せ持つ物が多い。

(1) 石製品その他 (234-237)。

234は粘板岩製であり、石刀もしくは石槍といえる。粘板岩を板状に分割した後に周縁を加工している。235は石棒または石刀であろう。粘板岩製である表面は敲打による整形の痕が残

るものの磨かれている。236、237は環状石製品である。2つとも欠損品である。234は板状に分割した適当な大きさの素材を荒削した後に表面を磨きにより整形しているが、側面の磨き痕を裏面の割れ面が切るような状態が見られることと、上下両端に穿孔によると思われる穴が穿たれており、その片方は貫通していないため、上下両端から穿孔の際に欠損したものと思われる。

#### 石器組成

今回の調査は道路建設に伴う発掘調査であったため調査区が長く、幅の狭い範囲を発掘したのみである。したがって本来の石器組成は推し量ることが不可能であるが、出土頻度としてはグラフ1の様な結果が得られた。

#### 石材組成

石材組成についてはグラフ2の様な結果が得られた。特徴としては県内の遺跡に一般に見られるように剥片石器については9割以上が珪質頁岩で占められている。剥片石器に利用される他の石材としては玉髄や鉄石英などが見られる。今回は図示し得なかったが調査区内からは鉄石英赤紫色凝灰岩製のフレイク、チップ等が出土している。松山力氏からの教示によれば、このような石材は段丘下流に流れる新井田川において採取されるという。しかしながら本遺跡内においてはこれらの石材を使用して作られた定型的な石器は石鏃1点のみである。

他の石材については砂岩が多いことに気づく。砂岩はスリやタタキの痕跡を残す器種に多く使用されている。また、調査区B区北西の崖際には粘板岩の露頭が確認されているが、本遺跡の石材組成を見る限り積極的に利用されているとは思えない。一番利用されそうな敲磨器C群にしてもほとんどが砂岩を利用している状況である。ただし、C群の中でも1類についていえば、粘板岩が多用されている。板状摂理により得られる直線的で鋭い縁辺が必要であったと考えられる。

#### 分布状況

図82・83に遺構外出土石器の分布状況を示した。まず、当然ながら遺物の多く出土した調査区A区の第1号竪穴住居址と第4号竪穴住居址の間のあたりに石器の出土も集中している。しかしながら、石鏃A類、敲磨器B、C、D類については出土量が多いわりには他器種に比べ、特にまとまりを感じる。

(茅野 嘉雄)

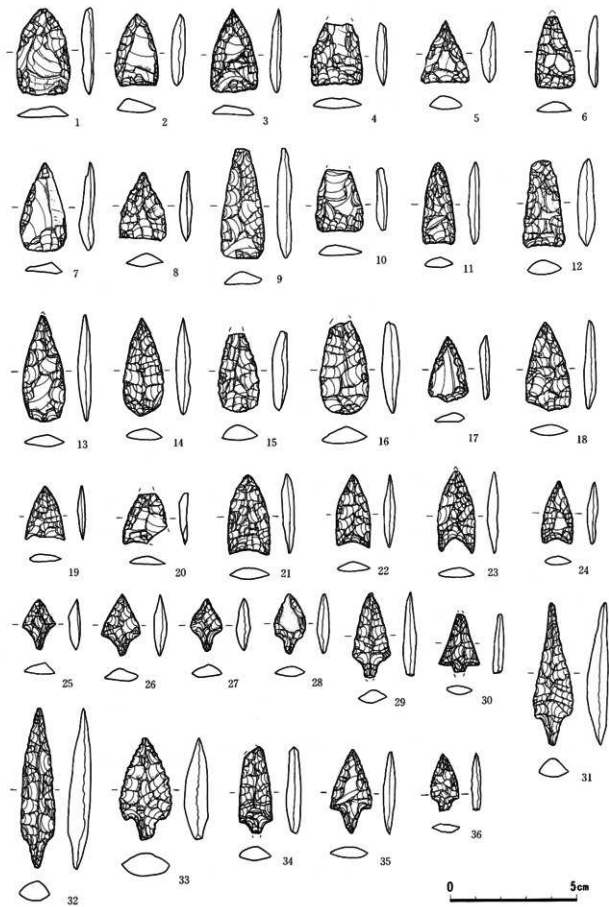


図60 遺構外出土遺物・石器（1）

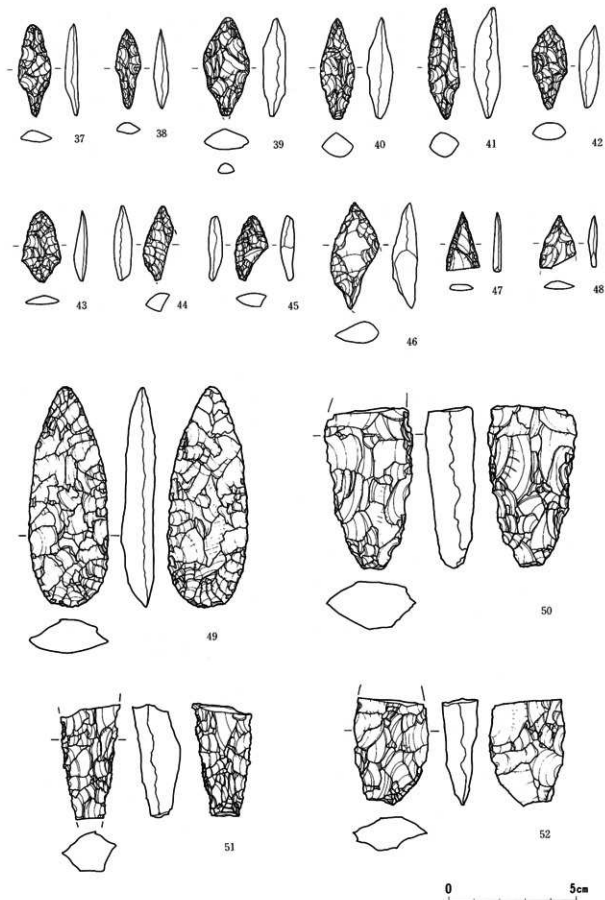


図61 遺構外出土遺物・石器（2）

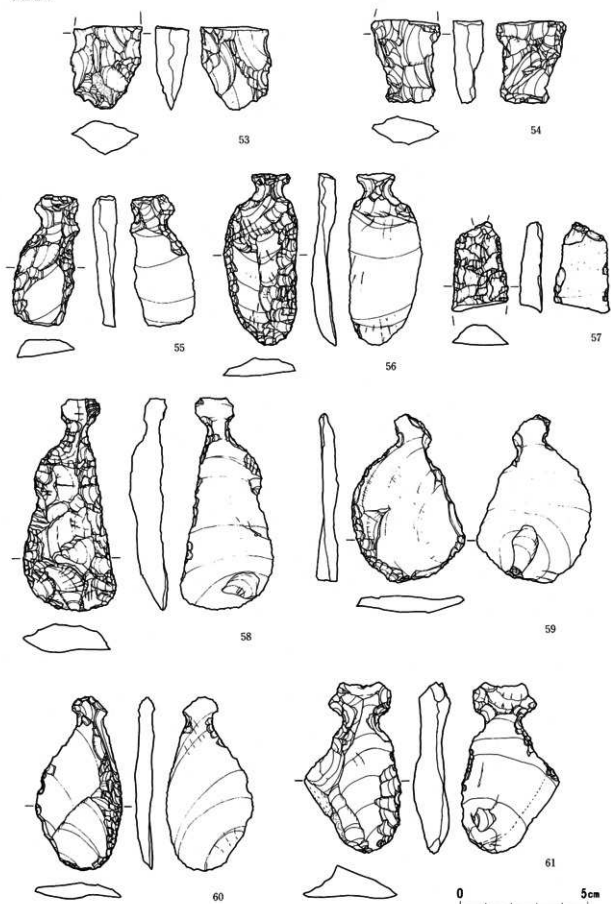


図62 遺構外出土遺物・石器(3)



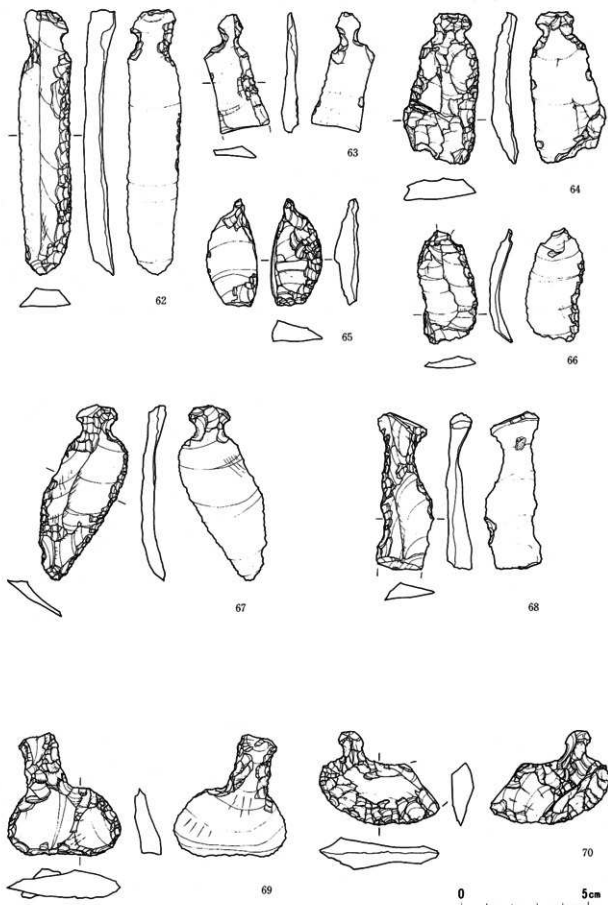


図63 遺構外出土遺物・石器（4）

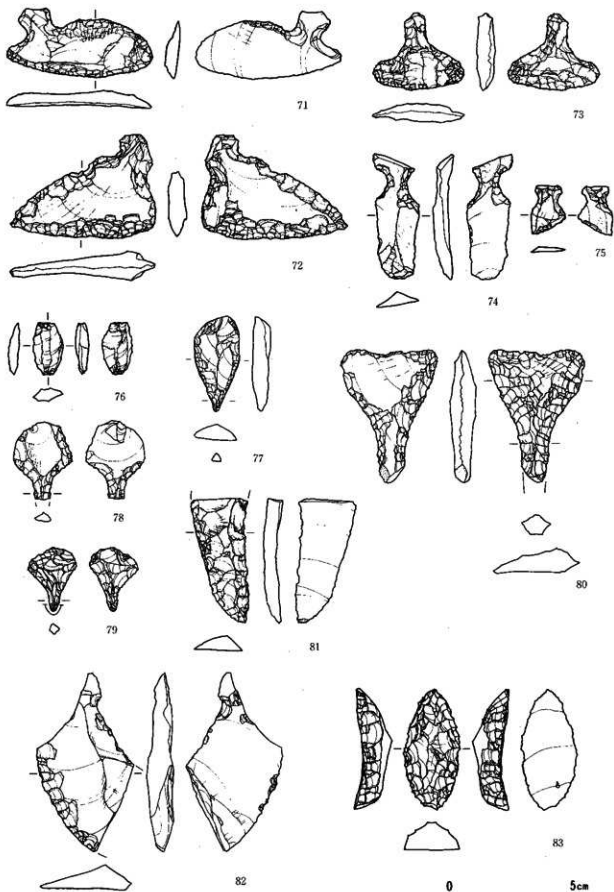


図64 遺構外出土遺物・石器(5)

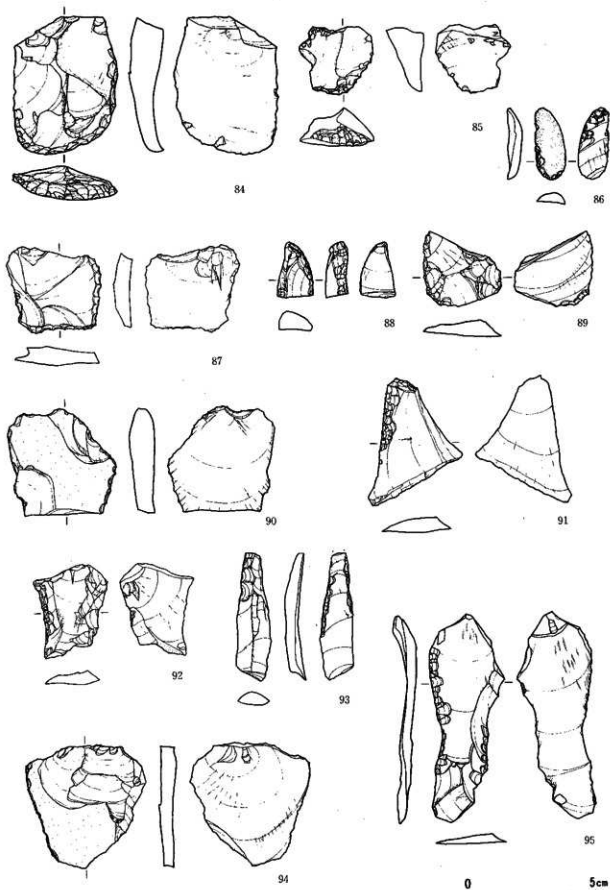


図65 遺構外出土遺物・石器(6)

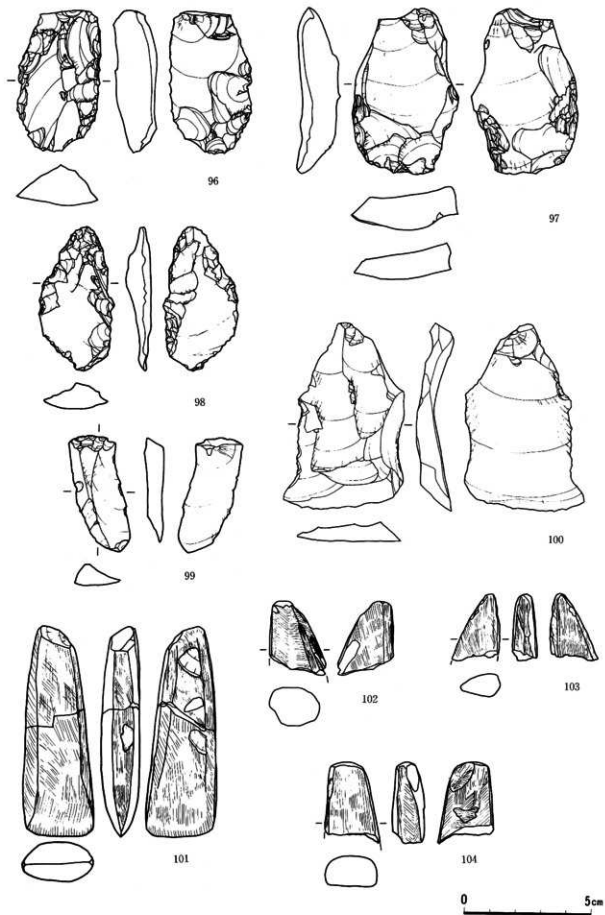


図66 遺構外出土遺物・石器(7)

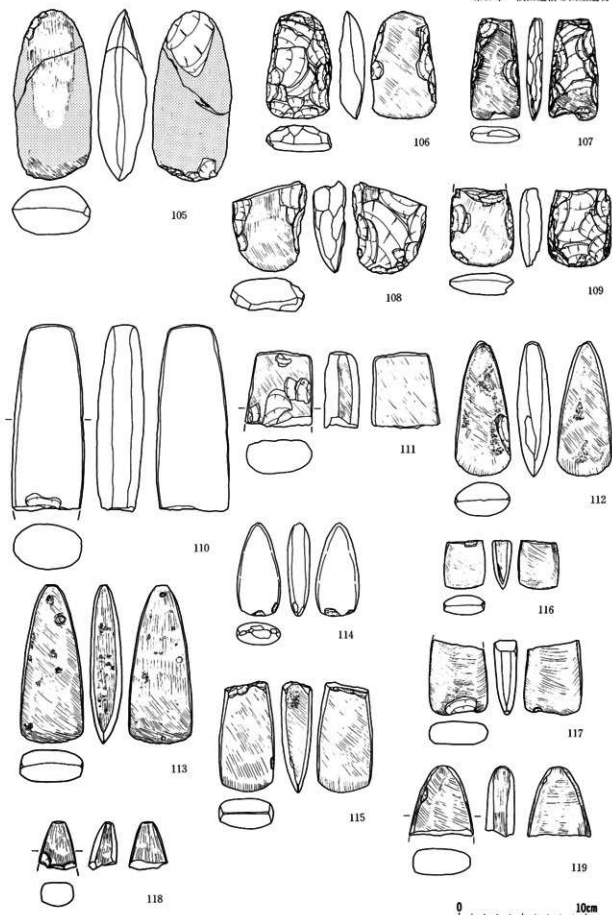


図67 遺構外出土遺物・石器(8)

水吉遺跡

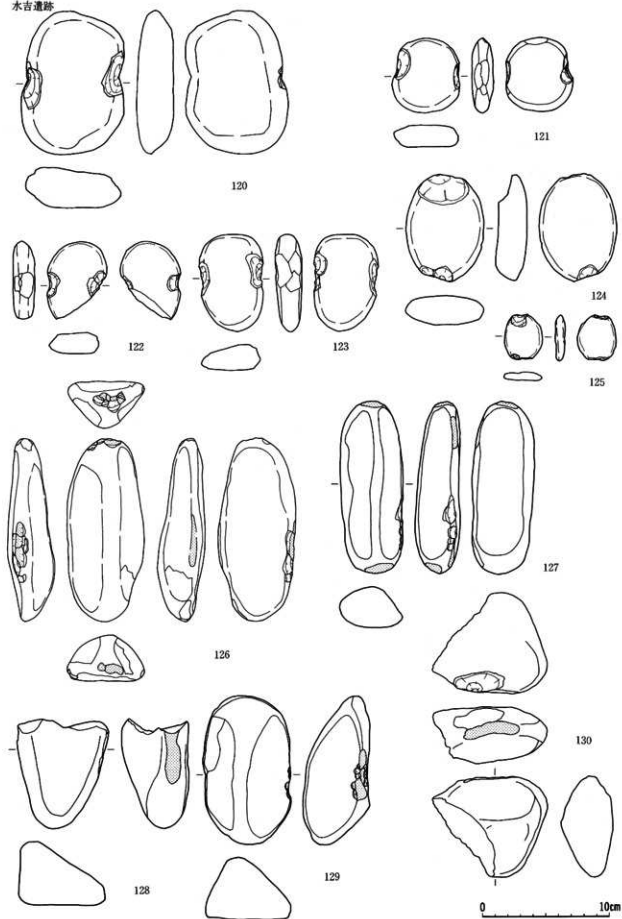


図68 遺構外出土遺物・石器(9)

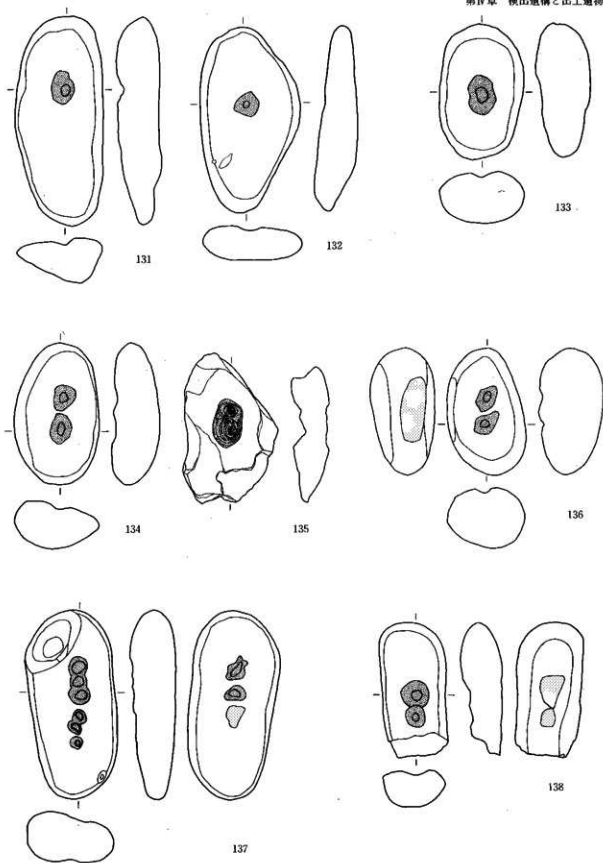


図69 遺構外出土遺物・石器 (10)

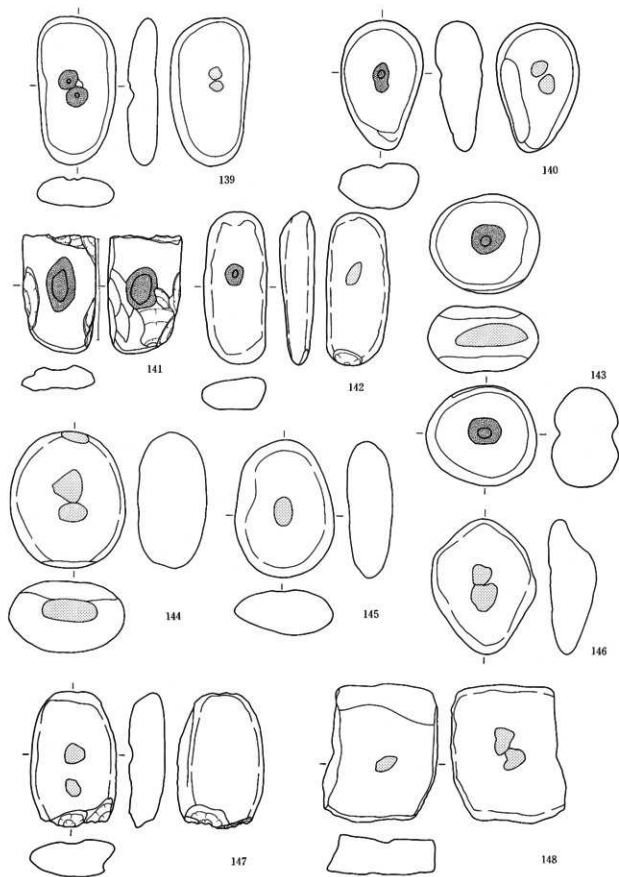


図70 遺構外出土遺物・石器 (11)



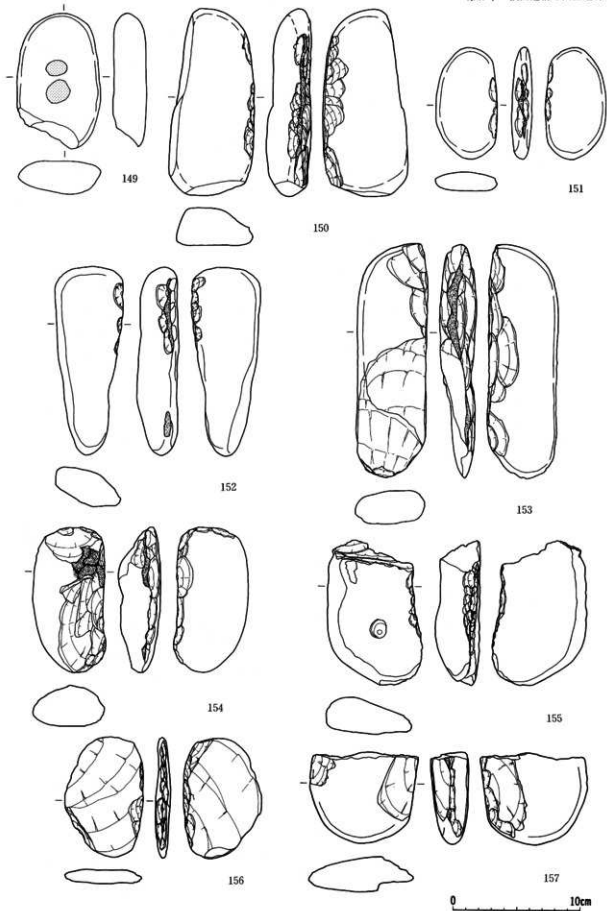


図71 遺構外出土遺物・石器 (12)

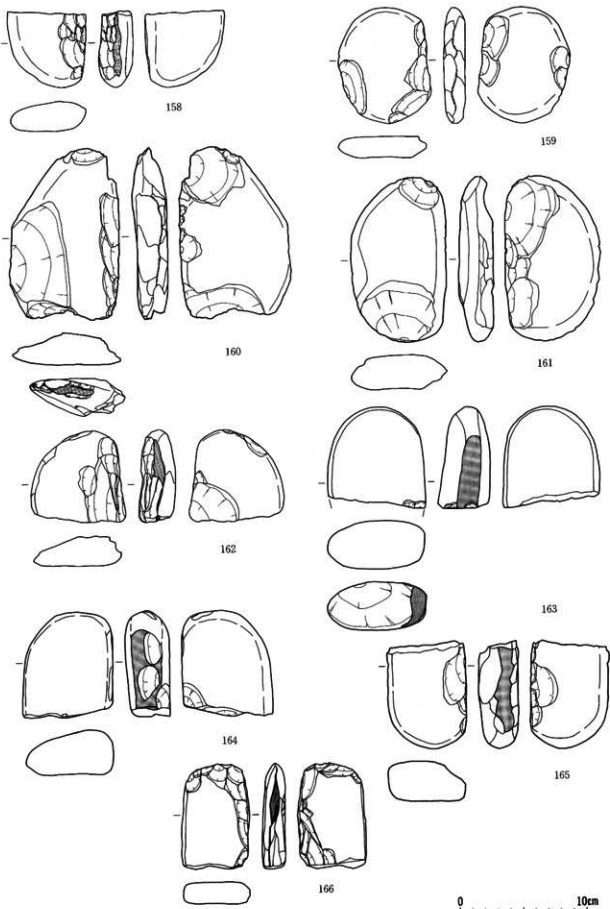


図72 遺構外出土遺物・石器 (13)

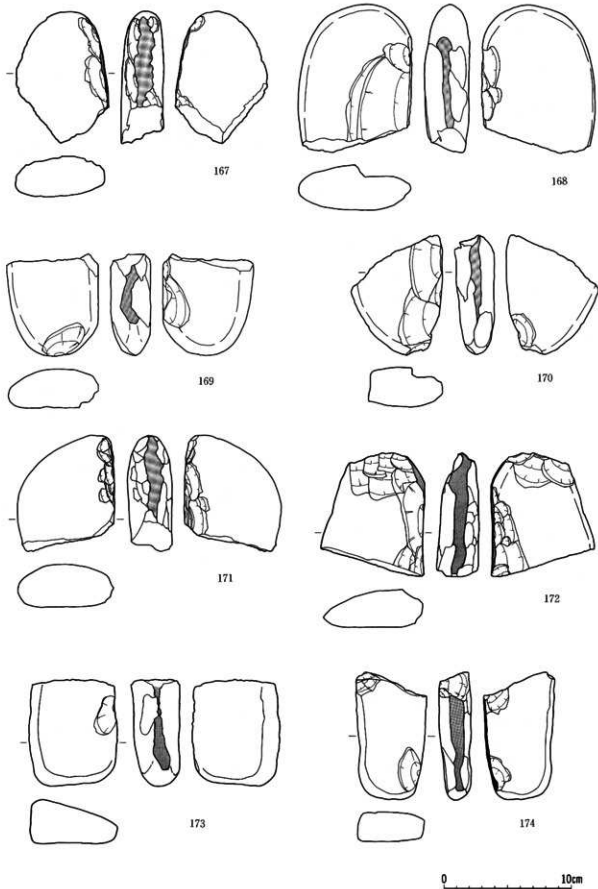
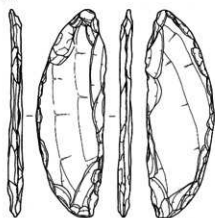
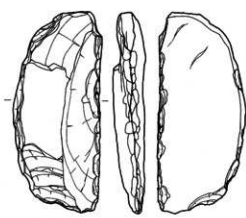


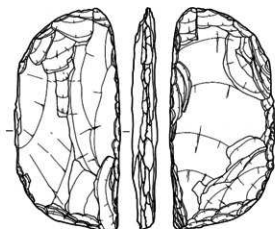
図73 遺構外出土遺物・石器 (14)



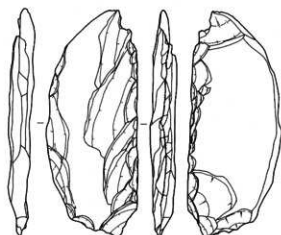
175



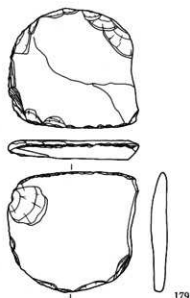
176



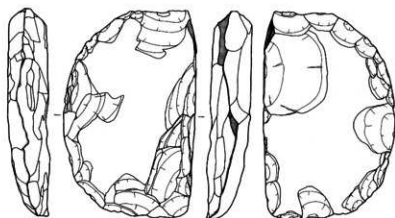
177



178



179



180

0 10cm

図74 遺構外出土遺物・石器 (15)

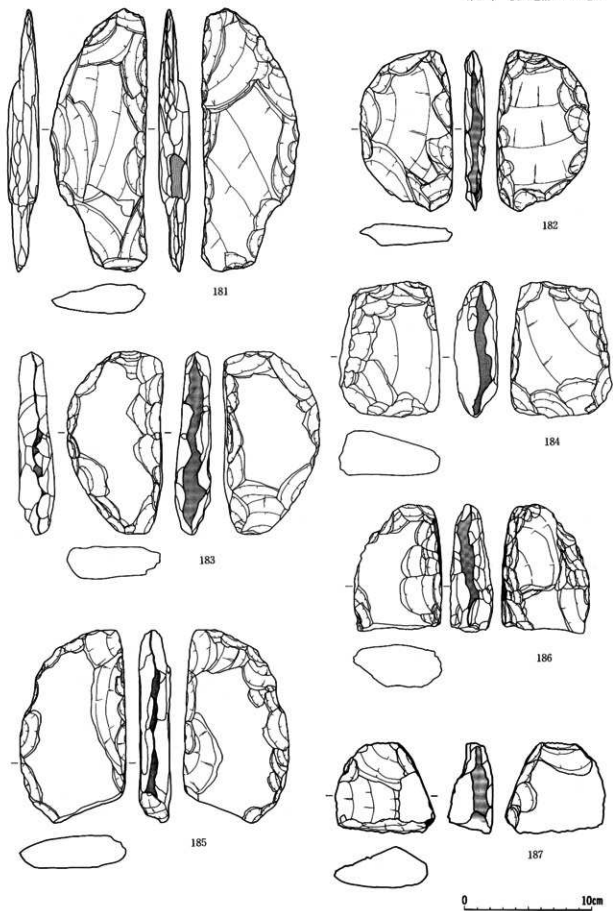


図75 遺構外出土遺物・石器 (16)

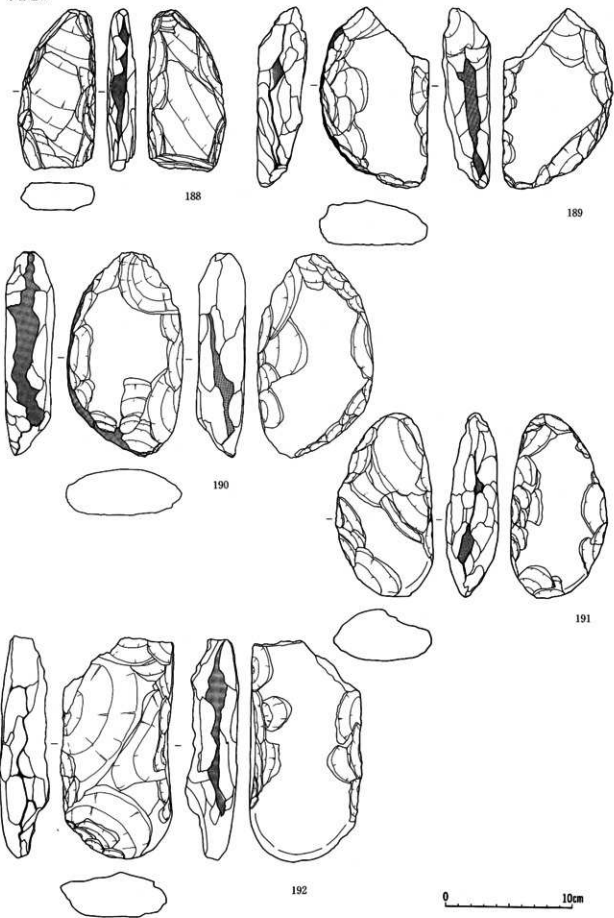
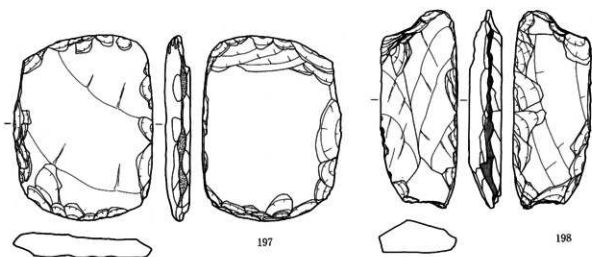
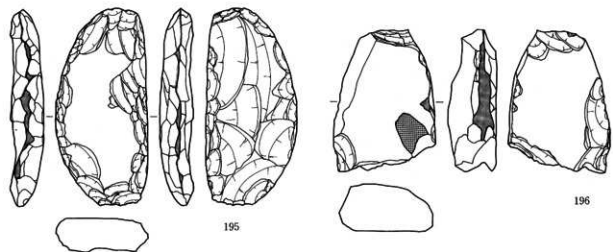
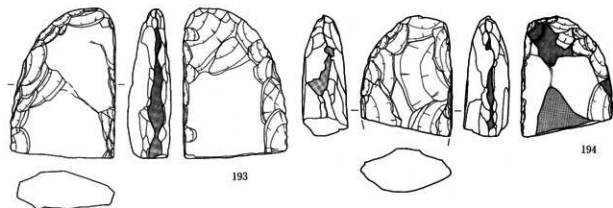


图76 遺構外出土遺物・石器 (17)



0 10cm

図77 遺構外出土遺物・石器 (18)

水吉遺跡

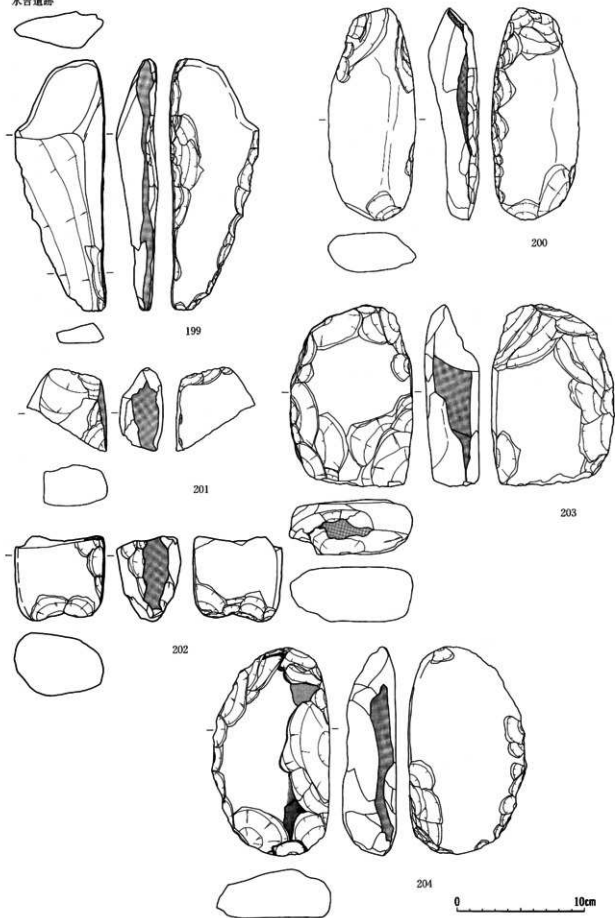


图78 遺構外出土遺物・石器 (19)



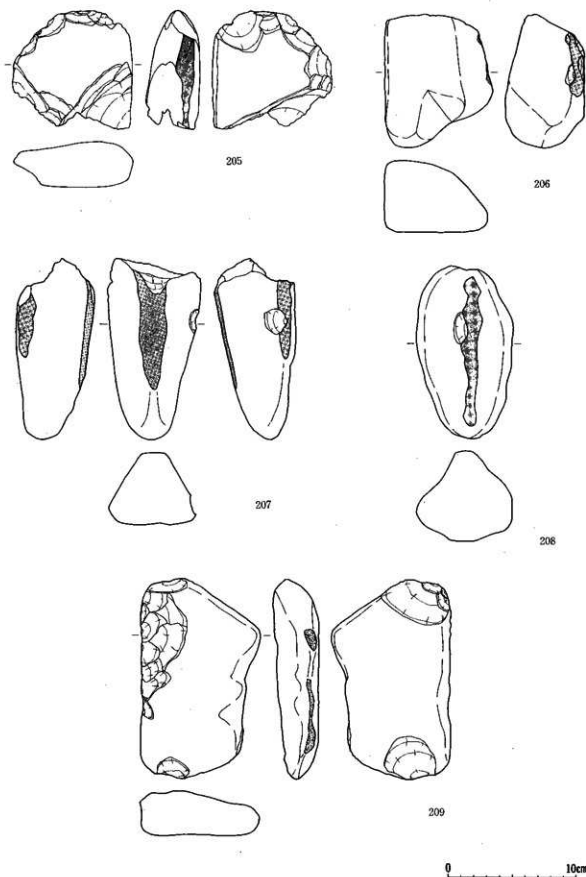


図79 遺構外出土遺物・石器 (20)

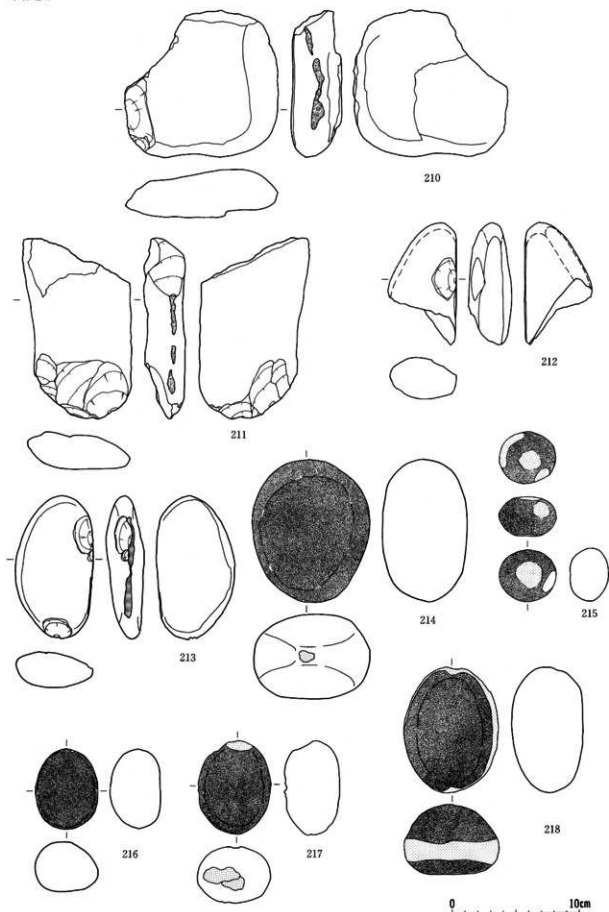


図80 遺構外出土遺物・石器 (21)

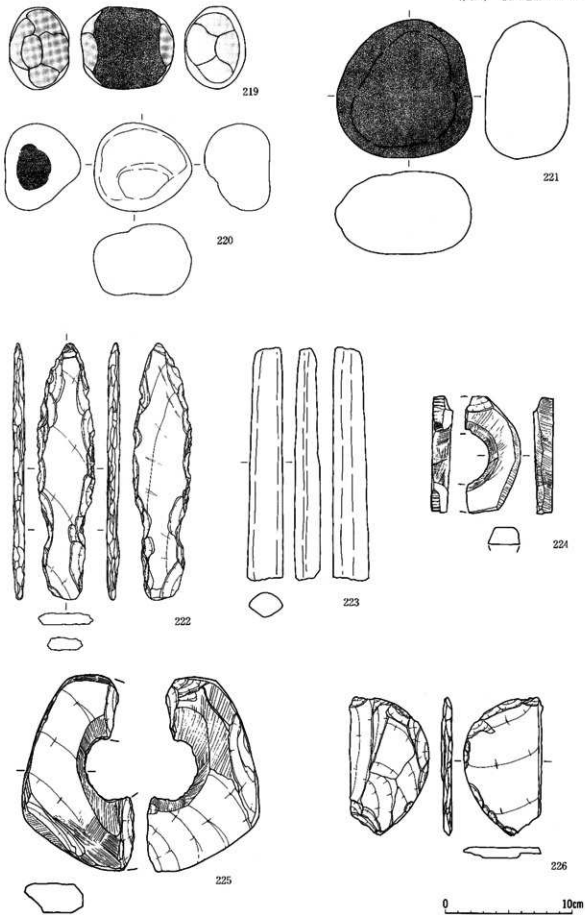


図81 遺構外出土遺物・石器 (22)

水吉遺跡

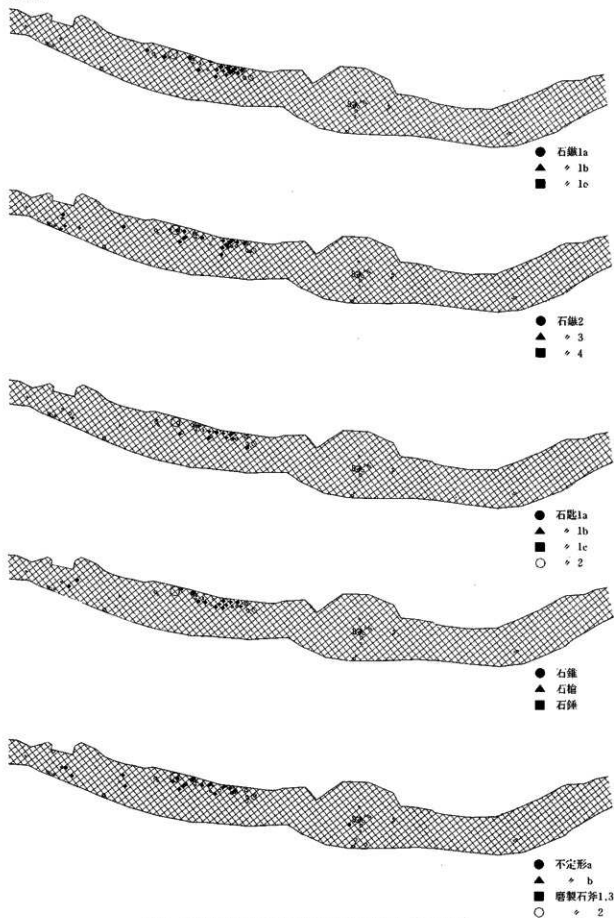


圖82 遺構外出土石器分布狀況（剝片石器、磨製石斧）



遺構外出土石器観察表

図版No	写真No	出土位置	層位	大分類	細分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備考
1	1	II A-33	III層	石鏃	1a	33.9	20.9	4.5	3.1	珪質頁岩	
2	2	I Y-33	III層	石鏃	1c	28	17.2	5.5	2.5	珪質頁岩	
3	3	II A-34	II層	石鏃	1a	32.5	18.6	4	2.3	珪質頁岩	
4	4	II D-37	III層	石鏃	1a	24.5	20.5	4	2.4	珪質頁岩	
5	5	II C-35	III層	石鏃	1a	24.1	18.9	5.7	1.9	珪質頁岩	
6	6	II C-36	III層	石鏃	1a	27.2	15.7	3.9	1.4	珪質頁岩	
7	7	II B-35	III層	石鏃	1a	34.9	18.1	5.7	2.3	珪質頁岩	
8	8	II B-32	III層	石鏃	1a	26	27	5	1.6	玉髓質珪岩	
9	9	I P-24	II層	石鏃	1a	43	17	15.5	3.8	珪質頁岩	
10	10	II C-36	I層	石鏃	1a	24	19	4	1.8	珪質頁岩	
11	11	II C-36	II層	石鏃	1a	31.7	13.5	4.6	1.1	珪質頁岩	
12	12	II D-36	II層	石鏃	1a	33.4	15.9	6.5	3.2	珪質頁岩	
13	13	II B-35	IV層	石鏃	1b	41.8	6.9	5.1	3	珪質頁岩	
14	14	II C-34	II層	石鏃	1b	33.2	15.9	5.5	2.7	珪質頁岩	
15	15	II B-35	III層	石鏃	1b	30.9	15.9	5.9	2.4	珪質頁岩	
16	16	II C-35	III層	石鏃	1b	36.1	19	8	4.2	珪質頁岩	
17	17	II C-35	III層	石鏃	1b	24.9	15.6	3.9	1	珪質頁岩	
18	18	II C-35	III層	石鏃	1b	32.2	17.3	4	1.5	頁岩	
19	19	I Y-30	II層	石鏃	1c	20	16	3.2	0.7	珪質頁岩	
20	20	II B-35	III層	石鏃	1c	19.7	16.9	3.5	0.9	珪質頁岩	
21	21	II C-33	III層	石鏃	1c	29.6	16.8	5	2.2	玉髓質珪岩	
22	22	I F-11	III層	石鏃	3	26.7	13.5	4.4	1.5	珪質頁岩	
23	23	I V-30	III層	石鏃	1c	26.3	15	4	1.7	珪質頁岩	
24	24	I S-26	III層	石鏃	1c	23	11.5	4.1	1	珪質頁岩	
25	25	I V-28	III層	石鏃	2	20.8	13	5	0.8	珪質頁岩	
26	26	I U-29	II層	石鏃	2	24	15	4.6	1.8	珪質頁岩	
27	27	I T-28	III層	石鏃	2	20	12.1	4.6	0.7	珪質頁岩	
28	28	II B-35	II層	石鏃	2	24	11.5	4.8	1.1	珪質頁岩	
29	29	I V-27	III層	石鏃	2	33.6	15	5	1.5	珪質頁岩	
30	30	I E-12	III層	石鏃	2	21.8	16.1	4	1	珪質頁岩	
31	31	I X-31	IV層	石鏃	2	43.5	15.4	7.2	4.7	珪質頁岩	
32	32	II B-34	II層	石鏃	2	62.8	13	8	5.9	珪質頁岩	
33	33	II C-32	II層	石鏃	2	39.8	21.3	9.3	5.8	珪質頁岩	
34	34	I E-12	III層	石鏃	2	34	13	6	2.4	珪質頁岩	
35	35	II C-36	III層	石鏃	2	33.6	15.9	4.6	1.6	珪質頁岩	
36	36	I M-20	覆土	石鏃	2	22	11	3.5	0.9	珪質頁岩	
37	37	I W-29	III層	石鏃	3	31	12.8	4.9	1.9	珪質頁岩	
38	38	I S-27	II層	石鏃	3	29.6	9.7	60	1.2	珪質頁岩	
39	39	II B-34	III層	石鏃	1b	38.7	17	8.9	5.9	鉄石英	
40	40	I F-10	IV層	石鏃	3	34.8	13.2	10.1	4.4	珪質頁岩	
41	41	II F-37	III層	石鏃	3	43.7	12	10.4	4.6	珪質頁岩	
42	42	II B-34	II層	石鏃	3	33.6	13.5	7.5	3.1	珪質頁岩	
43	43	I H-13	III層	石鏃	3	28	15.5	5	1.4	玉髓	
44	44	II D-37	II層	石鏃	4	29	7.7	6.8	1.8	珪質頁岩	
45	45	II A-34	II層	石鏃	4	23	13	5.6	1.5	珪質頁岩	
46	46	II B-33	III層	石鏃	4	42	18	10	5.1	珪質頁岩	
47	47	II B-34	II層	石鏃	4	13.1	22.2	3.1	0.8	珪質頁岩	
48	48	II B-35	III層	石鏃	4	21.6	14	3.5	0.7	珪質頁岩	
49	49	I V-30	III層	石槍		86.4	31	13	36.6	珪質頁岩	欠損
50	50	II B-35	III層	石槍		63.8	34.2	19.5	43.9	珪質頁岩	
51	51	II A-33	III層	石槍		43.5	22	15.9	16.5	珪質頁岩	
52	52	II B-34	III層	石槍		40	29.1	14	15.5	珪質頁岩	
53	53	II B-34	II層	石槍		32.5	27.3	13	11.5	珪質頁岩	
54	54	II D-36	II層	石槍		34	28	12	9.8	珪質頁岩	
55	55	II F-37	IV層	石匙	1a	52	23.5	9	11.8	珪質頁岩	
56	56	II B-35	IV層	石匙	1a	68	28.5	6.5	17.8	珪質頁岩	
57	57	II B-35	III層	石匙	1a	33.3	21	8.2	7.1	珪質頁岩	欠損

図版No	写真No	出土位置	層位	大分類	細分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備考
58	58	II A-34	III層	石匙	1b	93.5	34	11	24.3	珪質頁岩	
59	59	I Y-32	III層	石匙	1b	66.8	43	8.3	15.1	珪質頁岩	
60	60	II C-35	III層	石匙	1b	52	23.5	9	11.8	珪質頁岩	
61	61	I G-12	III層	石匙	1b	46.9	20.3	7.1	4.6	珪質頁岩	
62	62	I Q-25	III-IV層	石匙	1b	105	20.4	11.5	22.1	珪質頁岩	
63	63	II B-34	III層	石匙	1b	46.9	20.3	7.1	4.6	珪質頁岩	
64	64	II B-35	III層	石匙	1b	59	27.4	7.2	14.2	珪質頁岩	
65	65	I V-27	II層	石匙	1b	42	20	9.4	6.6	珪質頁岩	
66	66	I W-31	II層	石匙	1b	44.8	20.5	4.9	4.9	珪質頁岩	
67	67	II B-34	III層	石匙	1b	51	28	6.9	10.5	珪質頁岩	
68	68	II C-35	III層	石匙	1b	60.5	20	9.5	9.9	珪質頁岩	
69	69	I F-12	III層	石匙	2	47.5	44.2	8	17.7	珪質頁岩	
70	70	I T-28	II層	石匙	2	33.6	41.5	9.4	12.7	珪質頁岩	
71	71	I V-30	III層	石匙	2	24.9	27.6	5	9	珪質頁岩	
72	72	I Z-31	II層	石匙	2	4.1	5.7	1.1	18.1	珪質頁岩	
73	73	I V-27	II層	石匙	2	47.5	44.2	8	17.7	珪質頁岩	
74	74	I Z-33	III層	石匙	1c	48.3	8	7	7.5	珪質頁岩	
75	75	II B-34	III層	石匙	1C	18.9	13.3	3	0.8	玉髓	
76	76	II C-36	III層	ピエス		20.3	12	5.2	1.4	鉄石英	
77	77	II C-36	III層	石鐘		36.9	18.2	8.2	4.3	珪質頁岩	
78	78	I X-30	II層	石鐘		31	23.5	4.2	1.4	珪質頁岩	
79	79	I T-29	II層	石鐘		25	18.8	8.2	2.7	玉髓	先端摩耗
80	80	I F-14	II層	石鐘		51.4	36.8	10.3	14.3	珪質頁岩	
81	81	II C-35	III層	不定形	b	48.9	22.3	6.4	7.5	珪質頁岩	欠損
82	82	II B-35	III層	不定形	b	70	37.3	10.6	17.8	珪質頁岩	
83	83	I Y-32	III層	不定形	2	47.3	12	12	11.5	珪質頁岩	
84	84	II A-34	III層	不定形	b	53.4	40.5	12.5	23.4	珪質頁岩	
85	85	I W-31	II層	不定形	a	26	29	14	7.7	珪質頁岩	
86	86	I E-12	II層	不定形	a	26.9	11.9	4.3	1.8	珪質頁岩	
87	87	II V-49	II層	不定形	a	34	37.5	7.5	11.4	珪質頁岩	
88	88	I V-29	II層	不定形	a	21.7	14.1	7.3	2.8	珪質頁岩	
89	89	I X-31	III層	不定形	a	30	30.5	7	5.9	珪質頁岩	
90	90	II B-35	III層	不定形	b	41.8	40.6	10	17.9	珪質頁岩	
91	91	II B-35	III層	不定形	b	33	50	6	9.4	珪質頁岩	
92	92	II C-35	III層	不定形	b	35.5	30	5.5	7.8	珪質頁岩	
93	93	II B-35	III層	不定形	b	46.5	13.3	6	3.5	玉髓	
94	94	I V-30	II層	不定形	b	48	47	6	15.9	珪質頁岩	
95	95	II B-35	III層	不定形	b	76	28.5	4	9	珪質頁岩	
96	96	II B-35	III層	不定形	b	55	31.8	16	31.5	珪質頁岩	
97	97	I P-25	III層	不定形	b	65	41	11	42.9	珪質頁岩	
98	98	I Y-32	III層	不定形	b	51.5	28.8	10	11.2	珪質頁岩	
99		I V-29	III層	不定形	C	43	19	8	9.5	珪質頁岩	
100	99	II C-36	III層	不定形	c	73	44	10	27.9	珪質頁岩	
101	100	I V-29	III層	磨製石斧	1	165.5	50.6	31	446.7	緑細凝岩	
102		II C-35	III層	磨製石斧	1	58	44	24	105.9	緑細凝岩	
103		I V-30	IV層	磨製石斧	1	53	38	19	45.3	緑細凝岩	
104		I O-19	I層	磨製石斧	1	64	44	24	108.8	緑細凝岩	
105	101	II Y-48	III層	磨製石斧	2					砂岩	
105	101	III A-49	II-III層	磨製石斧	2	135	61.5	38.5	500.2	砂岩	149と接合
106	102	II A-33	III層	磨製石斧	2	84.5	51	21	134.1	輝緑岩	
107	103	II B-35	III層	磨製石斧	2	80.5	39	12.5	66.8	頁岩	
108	104	I A-11	I層	磨製石斧	2	71.5	63	20.6	156.5	輝緑岩	
109	105	II F-36	III層	磨製石斧	2	62	50	16.5	75.2	砂岩	
110	106	II A-34	III層	磨製石斧	3	145.5	57.5	37	559.6	石英安山岩	
111		II A-32	II層	磨製石斧	3	60	54	27	164.7	火山岩	
112	107	I G-12	III層	磨製石斧	3	106	40.3	26.5	168.8	凝灰岩	
113	108	I M-20	I層	磨製石斧	3	125.5	50	25.5	266.8	輝緑岩	
114	109	I G-12	III層	磨製石斧	3	70.3	34.5	17	70.1	輝緑岩	

図版No	写真No	出土位置	層位	大分類	細分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備考
115	110	I T-28	Ⅱ層	磨製石斧	3	86.5	43	23.5	168.3	閃緑岩	
116	111	I T-27	Ⅱ層	磨製石斧	3	38.5	32.5	15.5	30.9	安山岩	
117	112	I V-27	Ⅱ層	磨製石斧	3	59	46	18	90.4	輝緑岩	
118		I Y-32	Ⅱ層	磨製石斧	3	38	30	19	29.7	輝緑岩	
119		Ⅱ F-38	Ⅱ層	磨製石斧	2	55	51	21	96.6	輝緑岩	
120	113	Ⅱ G-39	Ⅲ層	石錘		113	82	32	443.2	砂岩	
121	114	Ⅱ B-33	Ⅲ層	石錘		59	53	17	81.4	砂岩	
122	115	I Z-32	Ⅲ層	石錘		62	47	17	64.7	砂岩	
123	116	I X-31	Ⅲ層	石錘		77	51	21	115.9	砂岩	
124	117	Ⅱ A-34	Ⅲ層	石錘		85	61	25	255.8	砂岩	
125	118	I F-12	Ⅲ層	石錘		35	30	7	10.5	頁岩	
126		I A-12	Ⅲ層	敲磨器	C1	159	68.5	23.5	334.5	粘板岩	
127	119	Ⅱ B-33	Ⅲ層	敲磨器	A1	135	49	32	326	砂岩	
128		Ⅱ E-36	Ⅲ層	敲磨器	A1	80	73	51	200.1	砂岩	
129		I T-28	Ⅲ層	敲磨器	A1	117	70	49	503.8	砂岩	
130		Ⅱ H-41	Ⅲ層	敲磨器	A1	91	80	41	311.6	砂岩	
131	121	I P-25	Ⅲ層	敲磨器	A2a	165	69.5	35	509.8	砂岩	
132	120	I X-31	Ⅲ層	敲磨器	A2a	147	79	31	429.7	砂岩	
133	122	I U-28	Ⅲ層	敲磨器	A2a	103	67	41	389.5	砂岩	
134	123	I V-29	Ⅲ層	敲磨器	A2a	111	66	32	252.8	砂岩	
135	124	Ⅱ F-37	Ⅲ層	敲磨器	A2a	116	71	28	273.8	頁岩	
136	125	I E-13	Ⅱ-Ⅲ層	敲磨器	A2a	99	61	51	445.1	安山岩	
137	126	I P-23	Ⅲ層	敲磨器	A2a	149	69	39	557.5	砂岩	
138	127	I S-22	Ⅲ層	敲磨器	A2a	106	52	32	252.8	頁岩	
139	128	I V-30	Ⅲ層	敲磨器	A2a	117	63	24	265	安山岩	
140	129	I Y-31	Ⅲ層	敲磨器	A2a	130	66	36	299.8	砂岩	
141	130	Ⅱ F-37	Ⅲ層	敲磨器	A2a	93	57	21.5	127.1	砂岩	
142	131	I U-28	Ⅲ層	敲磨器	A2a	121	50	27	244.4	砂岩	
143	132	Ⅱ X-49	Ⅲ層	敲磨器	A2a	87	78	53	264.4	砂岩	
144	133	Ⅱ A-33	Ⅲ層	敲磨器	A2b	108	91	56	844.8	安山岩	
145	134	Ⅱ A-32	Ⅲ層	敲磨器	A2b	108	78	35	410.7	砂岩	
146	135	I V-28	Ⅲ層	敲磨器	A2b	106	82	36	334.9	安山岩	
147	136	I O-23	Ⅲ層	敲磨器	A2b	107	68	29	341.5	頁岩	
148	137	Ⅱ X-49	Ⅲ層	敲磨器	A2b	107	87	56	484.3	砂岩	
149	138	Ⅱ S-51	Ⅱ-Ⅲ層	敲磨器	A2b	102	66	25	255.8	砂岩	
150	139	I Z-31	Ⅲ層	敲磨器	B1	148	65.5	33	460.2	砂岩	
151		I Y-32	Ⅲ層	敲磨器	B1	78	84	44	343.3	砂岩	
152		I Q-23	Ⅲ層	敲磨器	B2	149	55	30	326.3	砂岩	
153	140	Ⅱ A-34	Ⅲ層	敲磨器	B1	181	55	26	385.2	砂岩	
154		Ⅱ E-37	Ⅲ層	敲磨器	B1	115	58	32	279.4	砂岩	
155		Ⅱ C-35	I層	敲磨器	B1	114	75	29	341.8	粘板岩	
156	141	Ⅱ B-33	Ⅲ層	敲磨器	B1	95	61	11	84.6	粘板岩	
157		I N-21	Ⅲ層	敲磨器	B1	72	85	27	211.7	砂岩	
158		Ⅱ D-36	Ⅲ層	敲磨器	B1	60	62	24	146.1	砂岩	
159		I Z-33	Ⅲ層	敲磨器	B1	92	73	17	168.4	砂岩	
160		Ⅱ A-33	Ⅲ層	敲磨器	B1	135	87.5	26	386.6	砂岩	
161		Ⅱ D-37	Ⅲ層	敲磨器	B1	130	75	27	346.6	砂岩	
162		Ⅱ C-36	I層	敲磨器	B2	73	75	24	329.8	砂岩	
163	143	Ⅱ A-31	I層	敲磨器	B2	80	77	38	347.2	砂岩	
164		Ⅱ C-36	I層	敲磨器	B2	83	72	35	330.6	砂岩	
165	142	I Z-35	Ⅲ層	敲磨器	B2	85	62	31	274.2	砂岩	
166		I Y-30	Ⅲ層	敲磨器	B2	83	54	17	119	砂岩	
167	145	Ⅱ C-36	I層	敲磨器	B2	140	73	32	384.1	安山岩	
168		I W-30	Ⅲ層	敲磨器	B2	110	85.5	65.5	546.9	閃緑岩	
169	144	Ⅱ B-34	Ⅲ層	敲磨器	B2	80	72	31	260	砂岩	
170		Ⅱ D-36	Ⅲ層	敲磨器	B2	94	72	31	226.4	砂岩	
171	146	Ⅱ A-33	Ⅲ層	敲磨器	B2	91	77	34	366.4	砂岩	
172	147	Ⅱ D-35	Ⅲ層	敲磨器	B2	97	81	30	323.5	砂岩	断面磨き



図版No	写真No	出土位置	層位	大分類	細分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	備考
173	148	II C-35	II層	敲磨器	B2	84	69	35	330.7	砂岩	
174		I Z-32	II層	敲磨器	B2	100	56	23	213.7	砂岩	
175	149	I W-30	II層	敲磨器	C2	164	55	11	138.8	粘板岩	
176	150	II A-33	III層	敲磨器	A1	144	61	37	379.3	砂岩	
177	151	II B-34	III層	敲磨器	C1	175	83	20	394.4	粘板岩	
178	152	II A-33	III層	敲磨器	C1	179	73	18	312.2	粘板岩	
179	153	II B-34	III層	敲磨器	C2	100	94	15	197.1	粘板岩	
180		II D-35	III層	敲磨器	C2	164	104	33	795.3	砂岩	
181	154	II A-34	III層	敲磨器	C1	207	75	23	386.9	粘板岩	
182	155	II B-34	I層	敲磨器	C2	127	73	17	249.8	安山岩	
183	156	II E-38	III層	敲磨器	C2	144	126	25	434	砂岩	
184	157	II C-35	III層	敲磨器	C2	108	80	35	460.9	安山岩	
185	158	II X-30	III層	敲磨器	C2	151	84	25	477.2	砂岩	
186		II D-36	II層	敲磨器	C2	101	69	33	313.2	砂岩	
187	159	II C-36	II層	敲磨器	C2	71	79	32	202.9	砂岩	断面磨き
188	160	II H-41	II層	敲磨器	C2	125	61	21.5	248.6	粘板岩	
189		I V-31	III層	敲磨器	C2	142	86	35	527	砂岩	
190	162	I Z-32	II層	敲磨器	C2	161	91	36	765	砂岩	
191	163	II E-37	II層	敲磨器	C2	145	77	40	528.5	閃緑岩	
192		II C-36	II層	敲磨器	C2	175	90	35	527	砂岩	
193		I X-30	III層	敲磨器	C2	118	82	29.5	418.4	砂岩	
194		II D-36	II層	敲磨器	C2	91.5	71.5	34.5	294.9	砂岩	断面磨き
195	161	II C-35	III層	敲磨器	C2	115	72	26	395.3	輝緑岩	
196		I Y-31	III層	敲磨器	C2	112	80	37	456	砂岩	
197	164	II C-36	II層	敲磨器	C2	145	109	18	423.7	頁岩	
198		II B-34	III層	敲磨器	C2	156	60	25	334.2	粘板岩	挟り部掘り
199	165	II C-35	II層	敲磨器	C2	198	70	29	341.5	頁岩	
200	166	II E-36	II層	敲磨器	C2	168	69	31	532.7	砂岩	
201	167	II C-36	II層	敲磨器	D	66	63	32	161.1	輝緑岩	
202	168	I X-31	III層	敲磨器	D	66	70.5	49.5	328.2	安山岩	
203	169	II B-35	III層	敲磨器	D	143	97	43	836.2	砂岩	
204	170	II D-35	II層	敲磨器	D	164	93	38	878.7	砂岩	
205		II F-38	III層	敲磨器	D	94	96	36	388.7	砂岩	
206	171	I W-27	III層	敲磨器	E	106	86	57	703	砂岩	
207	172	I W-49	II層	敲磨器	E	143	74	57	722	砂岩	
208	173	II B-34	III層	敲磨器	E	136	76	71	766	砂岩	
209		II E-37	III層	敲磨器	F	157	94	35	684.1	砂岩	
210		I F-13	II層	敲磨器	F	116	122	38	751.4	砂岩	
211		I Y-30	III層	敲磨器	F	143	88	31	482	砂岩	
212		I V-28	II層	敲磨器	F	91	54	32.5	176	砂岩	
213	174	II G-39	I層	敲磨器	F	113	61	28	240	砂岩	
214	175	I U-30	II層	敲磨器	G	112	93	66	973	流紋岩	
215	176	II C-35	II層	敲磨器	G	45	41	31	83.6	安山岩	
216	179	I Z-31	I層	敲磨器	G	63	50	39	177.5	閃緑岩	
217	178	I W-26	II層	敲磨器	G	74	58	44	273	閃緑岩	
218		II C-36	II層	敲磨器	G	99	75	55	550.4	砂岩	
219	180	II W-48	II層	敲磨器	G	65	72	47	438.8	頁岩	
220	177	II Z-49	III層	敲磨器	G	77	69	52	419.2	砂岩	
221	181	I F-13	III層	敲磨器	G	109	107	66	1170.7	安山岩	
222	183	II C-35	II層	その他		202	50	10	113.2	粘板岩	
223	184	I S-25	II~III層	その他	石棒	185	28	20.5	159.9	粘板岩	
224	185	II C-36	III層	その他	環状	45.5	22	7	9.6	頁岩	
225	186	II A-31	II層	その他	環状	76.5	44	12	44.4	粘板岩	
226	187	II E-36	II層	敲磨器	G	107	62	8	68.9	粘板岩	

## 第V章 分析と考察

### 第1節 検出された遺構について

#### 1 竪穴住居跡

前述したとおり、A区からは縄文時代の竪穴住居跡は3軒検出されている。このうち第1号竪穴住居跡と第4号竪穴住居跡からは多量の遺物が出土しているが、第3号竪穴住居跡からは接合土器片が1点の出土しか認められなかった。出土遺物から第1号住は縄文時代晩期、第3・4号住は縄文時代後期の構築と考えられる。検出された軒数が少ないことから詳細な分類はできないため、各住居跡の概略を述べるに留める。

##### (1) 住居跡の平面形と規模

第1号住は、長軸710cm、単軸640cmの円形を呈し、床面積は約23.2㎡を計測する。

第3号住は、長軸294cm、単軸265cmの円形を呈し、床面積は約8.9㎡を計測する。

第4号住は、長軸442cm、単軸350cmの隅丸の方形を呈し、床面積は約13.2㎡を計測する。

##### (2) 炉

炉跡は各住居跡に見られるが、確認状態では全て地床炉で、これといった特徴は認められないが、第3・4号住は石囲炉であった可能性も考えられる。位置的には、第1号住、第4号住は住居のほぼ中央部に位置し、第3号住は中央やや南寄りに位置している。明確な掘り込みは第3・4号住には認められるが、第1号住には認められない。また、焼土の堆積も第1号住は他の2軒に比べ顕著には認められなかった。

##### (3) 柱穴

明確な柱穴が確認できたものは第4号住で、第1・3号住からは明確な柱穴は検出されなかった。第4号住は壁際に主柱穴を持つ構造と思われる。

##### (4) その他の施設

第4号住では南側に出入口と思われる張り出し部が検出されていて、それに伴う柱穴も検出されている。

#### 2 土坑

土坑はA・B両区から合計32基検出された。遺跡は谷を挟んだ二つの尾根に分かれているため、各々の区域で分類してみることにする。

A区からは18基の土坑が検出されていて、形態的に大きく分けると3種類に分類できる。

A a 類 平面形が円形あるいは楕円形を呈し、断面形が「丸」・「鍋底」形を呈するもの。

A b 類 平面形が円形あるいは不整形円形を呈し、断面形が「フラスコ」形を呈するもの。

A c 類 平面形が円形を呈し、断面形が「箱」形を呈するもの。

A a 類に分類される土坑は12基検出され、規模（平面形の長軸・径）的に2種類分類できる。規模

の大きな(軸・径1.5m以上)ものは5基、規模の小さな(軸・径1.5m未満)ものは7基検出されているが、位置的なまとまりは認められない。

A b類に分類される土坑は2基検出された。所謂フラスコ状ピットで、2基しか検出されていないが規模(底面形の径・深さ)的にまとまりが認められる。

A c類に分類される土坑は4基検出され、規模(平面形の径・確認面からの深さ)的にさらに2種類に分類される。規模の大きな(径1.5m以上・深さ1.0m以上)ものは確認面で中擬浮石と思われる層が確認でき、規模の小さな(径1.5m未満・深さ1.0m未満)ものは確認できなかった。構築された時期に差があるものかどうかは確認できなかった。

B区からは14基の土坑が検出されていて、形態的に大きく分けると2種類に分類できる。

B a類 平面形が楕円形を呈し、断面形が「丸」・「鍋底」形を呈するもの。

B b類 平面形が円形あるいは不整形円形を呈し、断面形が「フラスコ」形を呈するもの。

B a類に分類される土坑は3基検出され、規模(平面形の長軸・径)的にはまとまりが認められる。

B b類に分類される土坑は11基検出された。所謂フラスコ状ピットで、規模(底面形の径)的にさらに2種類に分類される。規模の小さな(径1.8m未満)ものは5基検出されている。遺物はほとんど出土せず、堆積状況も自然堆積の様相を呈する。規模の大きな(径1.8m以上)ものは6基検出されている。規模の小さいもの同様遺物はほとんど出土せず、堆積も自然堆積の様相を呈することから、使用停止後に放置されたものと思われる。

本遺跡ではA・B両区から合わせて13基のフラスコ状ピットが検出されたが、A区で検出された2基はB区で検出されたものに比べ、比較的規模が小さい。A区では縄文時代後・晩期の堅穴住居跡が検出されているが、縄文時代前・中期の遺物も認められることからどの時期に属するものかは明確に確認することはできなかった。B区の規模の違うフラスコ状ピットについても、調査区域内で出土した遺物は縄文時代後期の遺物が中心であるが、近接地に存在すると思われる堅穴住居跡やピット内から炭化種子などが検出されなかったこともあり、すべて同時期に使われていたものが、また用途的に違いがあるものか明確には確認することはできなかった。

### 3 溝状土坑

本遺跡で、溝状土坑はB区より2基検出された。2基とも長軸は等高線に沿った方向を指している。構築時期を示す良好な資料は出土していない。腐絶後の壁崩落等によると思われる形態的な違いは多少認められるが、ほぼ同時期に構築・使用されたものと推察される。

### 4 配石遺構

配石遺構は、A区で2基検出された。

1号配石は、河原石を主材料とし、南から南西部の約半分の石を欠失する。円形あるいは楕円形に石を配置していたものと思われる。焼土等は検出されなかったが、屋外炉の可能性も考えられる。2号配石は1号配石に比べ小粒な礫をほぼ円形に配置している。両遺構とも構築時期を明確に示す資料は出土していない。

## 第2節 遺物について

### 1 遺物の遺構間接合

A区では、異なる遺構間での出土遺物の接合関係がみられた。(図84)。

第2号土器埋設遺構の埋設された土器と、第1号竪穴住居跡覆土内から出土した底部が接合し、同一個体であることが確認された。

接合面の断面形状は埋設土器が「H」状を、土器底部は「U」状を呈している。土器制作時の粘土紐の接合面できれいに切断されていることがうかがえる資料である。検出時、埋設土器はかなり壊れていたが、底部は一部欠落部分が認められる外はほぼ完形で検出されている。欠落部は切断時に形成された可能性も考えられる。

第1号竪穴住居跡の覆土の状況を見ると、土器底部は切断後、ある程度埋没した住居跡の窪地に遺棄されたものと考えられる。第2号土器埋設遺構と第1号竪穴住居跡が構築された時期には多少なりとも差があったものと推察される。同時存在の可能性は低い。

### 2 狩猟文系土器

本遺跡からは、「狩猟文土器」と呼称されている土器に類似する土器が、A区遺構外 (IY-31グリッド他) から出土している。4単位の波状口縁を呈する深鉢形土器である。推定口径28cm、現存高18.2cm、器厚0.8cmを測る。胴部下半及び体部の1/2を欠失する。口唇下部及び頸部に巡らした粘土紐の貼り付けによる2条の隆帯により口縁部文様帯を区画し、波状口縁頂部より垂下する隆帯(針葉樹様)により4単位の縦面帯を形成する。工画帯の中央部に、垂下するような2条の渦巻様の隆帯を貼り付ける。胴部は方形を形成すると思われる2条の沈線により区画され、区画内を単節LR縄文で充填する。区画帯の間には「U」字状の隆帯を貼り付ける。方形区画の内部にも隆帯が認められるが、全容をうかがうことはできない。隆帯の断面形態は三角形あるいは台形状を呈している。胎土は洗練され緻密で、焼成は良好で堅緻である。

本遺跡から出土した土器は、針葉樹様の文様の外は弓矢・動物・毘といった狩猟文土器特有の文様がみられないが、胎土や文様構成には差違は認められない。時期は相伴遺物から縄文時代後期初頭に属するものと思われる。

(笹森 一朗)

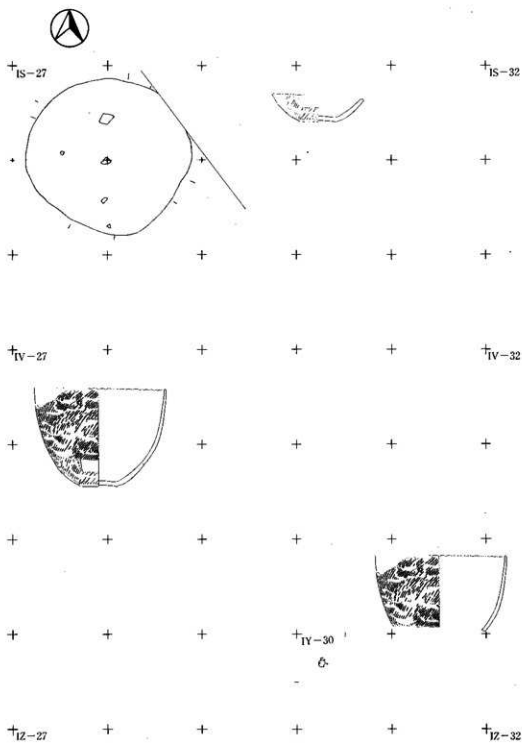


図84 遺構間遺物接合図

## 第Ⅵ章 自然科学的分析

### 第1節 水吉遺跡出土火山灰の蛍光X線分析

奈良教育大学 三 辻 利 一

アジア大陸の火山灰と日本列島の火山灰では長石類の構成が対称的に異なるようである。その様相は一部、10世紀代、青森県内の遺跡に堆積する火山灰の化学特性に如実に表れている。大陸性の火山灰である白頭山火山灰にはK、Rb量が多く、逆に、Ca、Sr量は少ないのに対し、日本列島に堆積している第4紀の火山灰にはK、Rb量が少なく、Ca、Sr量が多い。平安時代に噴出した十和田a火山灰も同じ化学特性をもつ。

白頭山火山灰と十和田a火山灰のもつ対称的な化学特性は顕微鏡観察でも前者ではカリ長石が多く、後者には針長石が多いことが認められる。両者はともに10世紀代に降灰するが、十和田a火山灰の降下は扶桑略紀によると西暦915年に比定される。他方、白頭山火山灰の爆発は歴史時代に入って、東アジア地域では最大級のものといわれているが、その降下実年代は測定されていない。ただ、青森県内の遺跡に十和田a火山灰と白頭山火山灰がセットになって堆積している場合には、必ず白頭山火山灰が上位であるところから、十和田a火山灰の噴火の何年か後に、白頭山火山灰が爆発したことは確実である。

両者の化学的特性が対称的に異なることから、火山灰が周辺の土壌に多少汚染されていても、容易に識別することができる。

本報告では、水吉遺跡に堆積した3点の火山灰の蛍光X線分析の結果を報告する。

分析値は表1にまとめられている。分析値はすべて、JG-1による標準化値である。

この結果にもとづいて作成したRb-Sr分布図を図1に、また、K-Ca分布図を図2に示す。No. 2は両分布図において白頭山領域に分布する。かつ、Fe、Na因子でも白頭山火山灰によく対応した。この結果、No. 2は白頭山火山灰と同定された。

同様にNo. 3は図1、2で十和田a領域に入って分布しており、Fe因子でも十和田a火山灰によく対応した。ただ、Na因子がやや少な目に出ており、ある程度の風化汚染がある試料と判断される。しかし、同定結果はゆるがず、十和田a火山灰と判断された。

No. 1の試料はNo. 3と同様、風化汚染のあった試料である。そのためK量が少し多くなり、十和田a領域を少しはみ出してしまった。それでも、各因子の対応性からみて、十和田a火山灰と推定された。

第1表 水吉遺跡出土火山灰の分析データ

No.	位 置	層位	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	同 定 結 果
No. 1		7層	0.597	1.160	1.400	0.302	1.080	0.649	十和田a火山灰
No. 2		5層	1.160	0.390	2.500	1.070	0.131	1.170	白頭山火山灰
No. 3		1層	0.360	1.030	1.920	0.257	0.976	0.619	十和田a火山灰

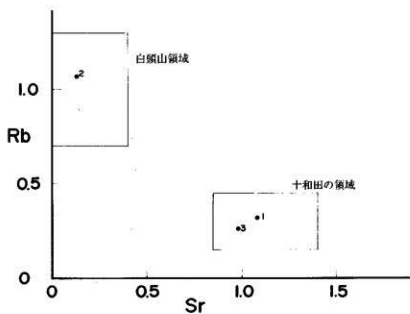


図1 Rb-Sr分布図

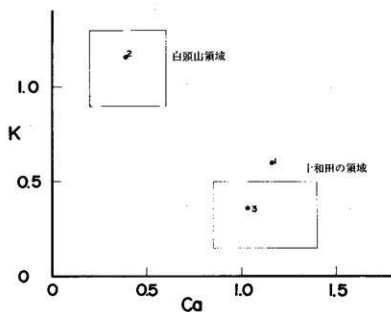


図2 K-Ca分布図

## 第2節 学習院大学放射性炭素年代測定結果報告書

青森県埋蔵文化財調査センター 殿

1996年12月9日受領致しました資料についての年代測定の結果を下記の通り御報告致します。

なお年代値の算出には<sup>14</sup>Cの半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差はβ線の計数値の標準偏差σにもとずいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料のβ線計数率の差が2σ以下のときは、3σに相当する年代を下限の年代値(B.P.)として表示してあります。また試料のβ線係数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての係数率との差が2σ以下のときには、Modernと表示し、δ<sup>14</sup>C%を付記してあります。

## 記

---

Code No.	試料	年代 (1950年よりの年数)
Gak-19505	木炭 from 水吉遺跡 八戸火山灰層	14,200 ± 590 12,250 B.C.

---

以上



## 第Ⅶ章 まとめ

水吉遺跡の調査では、縄文時代前期から中・後・晩期、弥生時代、平安時代にかけての遺構・遺物が検出され、次のような成果が得られた。

本遺跡は青森県と岩手県の県境、眼下に岩手県にその源を発する新井田川を臨む標高160～180mの尾根上に位置する。

今回の調査区域は、平成7年度に行われた試掘調査の結果を基に設定されたもので、谷を挟んで二つの尾根に分かれており、試掘調査時と同様に谷の北側をA区、南側をB区と呼称した。

検出された遺構は、縄文時代後～晩期にかけての竪穴住居跡3軒、竪穴状遺構1基、土坑32基、配石2基、屋外炉1基、溝状土坑2基、土器埋設遺構3基、平安時代の竪穴住居跡1軒、近代の炭窯1基である。このうちA区からは縄文時代前期から晩期にかけての土器・石器とともに竪穴住居跡3軒、竪穴状遺構1基、土坑18基、配石2基、土器埋設遺構2基、平安時代の竪穴住居跡が1軒、B区からは縄文時代後期の土器を中心に土坑14基、溝状土坑2基、土器埋設遺構1基、屋外炉1基、近代の炭窯1基が検出されている。

道路幅という限られた区域の調査ではあったが、A区では時間差を置いて狩猟区域としての場と暮らしの場としてという二つの利用状況が確認できた。狩猟区域とされていた時期は陥し穴と思われる土坑内から時期を特定できる遺物が出土していないため、その時期を明確にはできないが、堆積土に中礫浮石と思われる砂層が認められることから、概ね縄文時代前期中葉以前と考えられる。暮らしの場とされていた時期は、住居跡内から出土した遺物からみると縄文時代後期から晩期にかけてであるが、縄文時代中期の埋設土器を初めとして前・中期の遺物も多数検出されていることから、同時期の住居跡が調査区域外に存在する可能性も高い。

B区も狩猟区域と暮らしの場としての利用が考えられるが、狩猟区域とされていた時期については明確に捉えることができなかった。また、住居跡が検出されなかったこともあり推測の域を出ないが、暮らしの場としていた時期は、埋設土器や出土土器から概ね縄文時代後期と思われる。住居跡が存在するとすれば、調査区域外西側の緩斜面上の可能性が高い。

弥生時代は土器片が数点出土したにすぎなかった。また、平安時代の遺構も竪穴住居跡が1軒検出されたただけで、細かな時期や成業を決定するには、それを把握する資料が乏しく判然としなかった。

以上、今回の調査では各時期の遺構のあり方や変遷の様相を明確に捉えることはできなかったが、水吉遺跡に人々が住居を作り確実に住み始めたのは縄文時代後期であると考えられる。また、狩猟活動時期も明確に捉えることができなかったが、この地を狩猟区域としていた人々の生活拠点となる集落は、本遺跡の周辺に存在するものと考えられる。

(調査者一同)

## 引用・参考文献

- |            |      |  |
|------------|------|--|
| 青森県教育委員会   | 1981 | 『右衛門次郎窟、三合山、石ノ窪遺跡』<br>青森県埋蔵文化財調査報告書第 69集     |
| 青森県教育委員会   | 1983 | 『和野前山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 82集                   |
| 青森県教育委員会   | 1984 | 『葦窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 84集                     |
| 青森県教育委員会   | 1985 | 『沖附(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第101集                  |
| 青森県教育委員会   | 1988 | 『館野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第119集                     |
| 青森県教育委員会   | 1993 | 『野場遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第150集                     |
| 青森県教育委員会   | 1993 | 『筋久辺遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第151集                    |
| 青森県教育委員会   | 1994 | 『畑内遺跡Ⅰ』青森県埋蔵文化財調査報告書第161集                    |
| 青森県教育委員会   | 1995 | 『畑内遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第178集                    |
| 青森県教育委員会   | 1996 | 『畑内遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第187集                    |
| 青森県教育委員会   | 1996 | 『四ツ役遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第188集                    |
| 青森県教育委員会   | 1996 | 『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』<br>青森県埋蔵文化財調査報告書第201集      |
| 青森県教育委員会   | 1997 | 『畑内遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第211集                    |
| 青森県教育委員会   | 1997 | 『津山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第221集                     |
| 青森市教育委員会   | 1985 | 『長森遺跡』青森市の文化財                                |
| 八戸市教育委員会   | 1986 | 『風張(1)遺跡Ⅰ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 40集                 |
| 八戸市教育委員会   | 1988 | 『八幡遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第 26集                     |
| 岩手県文化振興事業団 | 1985 | 『曲田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』<br>岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第122集   |
| 岩手県文化振興事業団 | 1988 | 『馬立Ⅱ遺跡発掘調査報告書』<br>岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第122集   |
| 岩手県文化振興事業団 | 1994 | 『水吉Ⅵ遺跡発掘調査報告書』<br>岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第219集   |
| 岩手県文化振興事業団 | 1994 | 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』<br>岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第225集  |
| 岩手県文化振興事業団 | 1995 | 『上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』<br>岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第227集 |
| 秋田県教育委員会   | 1988 | 『上ノ山Ⅱ遺跡』<br>秋田県文化財調査報告書第166集                 |
| 秋田県教育委員会   | 1993 | 『萱刈沢Ⅰ遺跡・萱刈沢Ⅱ遺跡』<br>秋田県文化財調査報告書第231集          |
| 村越 潔       | 1977 | 『円筒土器に伴う特殊な石器について』『東北考古学の諸問題』                |

# 写 真 图 版





图版1 调查区远景



图版2 A区调查风景



图版3 B区调查风景



图版4 A区土层堆积状况(10-17附近)



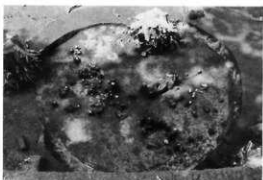
图版 5 第 1 号竖穴住居跡調査風景



图版 6 第 1 号竖穴住居跡遺物出土状況



图版 7 第 1 号竖穴住居跡土層堆積状況



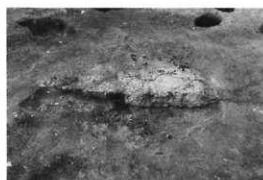
图版 8 第 1 号竖穴住居跡遺物出土状況



图版9 第1号竖穴住居跡内粘土 Pit①



图版10 第1号竖穴住居跡内地床炉完掘



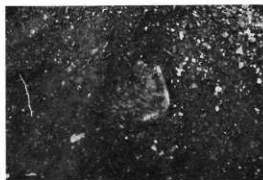
图版11 第1号竖穴住居跡内粘土 Pit②堆積状況



图版12 第1号竖穴住居跡完掘



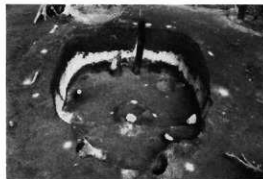
图版13 第3号竖穴住居跡完掘



图版14 第4号竖穴住居跡遺物出土状況



图版15 第4号竖穴住居跡遺物出土状況



图版16 第4号竖穴住居跡完掘

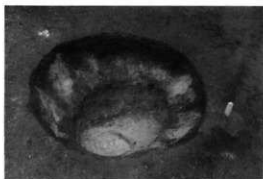




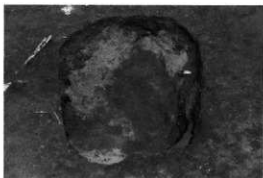
图版17 第4号双穴住居出入口部



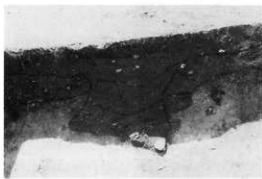
图版18 第3号土坑土层堆积状况



图版19 第3号土坑充塞



图版20 第4号土坑充塞



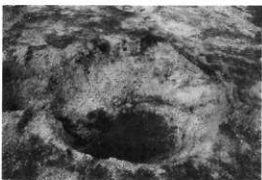
图版21 第6号土坑土层堆积状况



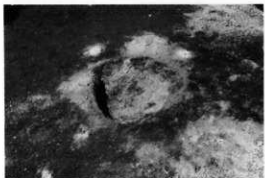
图版22 第6号土坑完掘



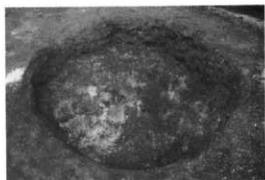
图版23 第7号土坑完掘



图版24 第8号土坑完掘



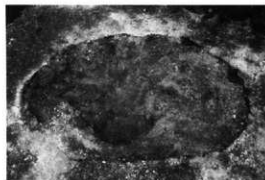
图版26 第9号土坑完掘



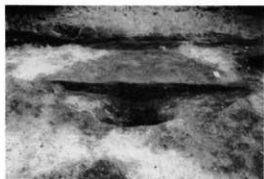
图版26 第10号土坑完掘



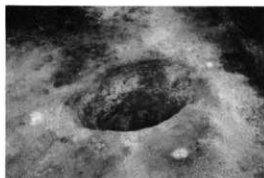
图版27 第11号土坑土层堆积状况



图版28 第12号土坑完掘



图版29 第14号土坑土层堆积状况



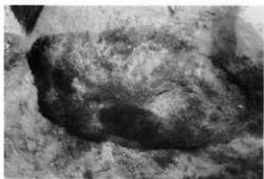
图版30 第15号土坑完掘



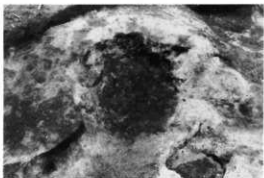
图版31 第17号土坑完掘



图版32 第18号土坑土层堆积状况



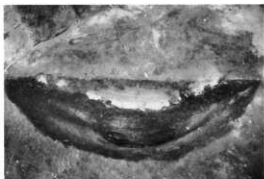
图版33 第16号土坑完照



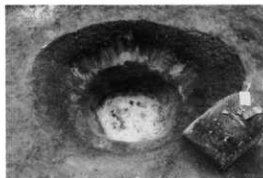
图版34 第19号土坑完照



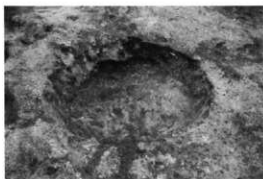
图版35 第20号土坑完照



图版36 第21号土坑土层堆积状况



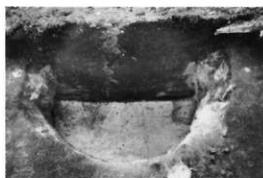
图版37 第21号土坑完掘



图版38 第22号土坑完掘



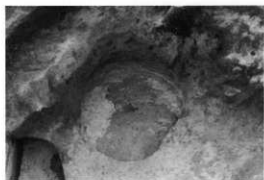
图版39 第23号土坑完掘



图版40 第24号土坑完掘



图版41 第25号土坑土层堆积状况



图版42 第25号土坑完照



图版43 第33号土坑土层堆积状况



图版44 第25·33号土坑完照



圖版45 第26号土坑完掘



圖版46 第27号土坑土層堆積狀況



圖版47 第29号土坑土層堆積狀況

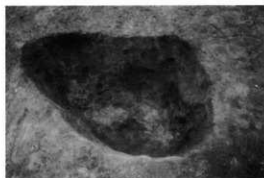


圖版48 第27·29号土坑完掘





图版49 第28号土坑土完掘



图版50 第30号土坑完掘



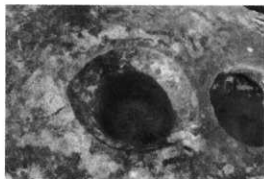
图版51 第34号土坑完掘



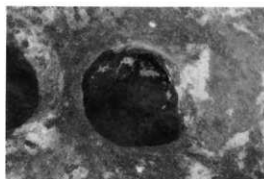
图版52 第36号土坑土層堆積狀況



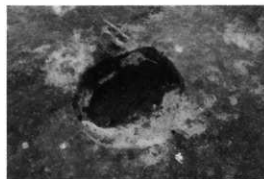
图版53 第35号土坑完掘



图版54 第37号土坑完掘



图版55 第38号土坑完掘



图版56 第39号土坑完掘



图版57 第1号满状土坑



图版58 第2号满状土坑



图版59 第1号埋设



图版60 第1号埋设土层堆积状况



图版61 第2号埋設土層堆積状況



图版62 第3号埋設土層堆積状況



图版63 第1号壑穴状遺構



图版64 第1号陪石



図版65 第2号配石



図版66 第1号屋外柵



図版67 第2号竪穴住居跡完掘



図版68 第2号竪穴住居カマド



圖版66 炭燒麻完髹



圖版70 遺物出土狀況



圖版71 遺物出土狀況



圖版72 遺物出土狀況



图版73 遗物出土状况



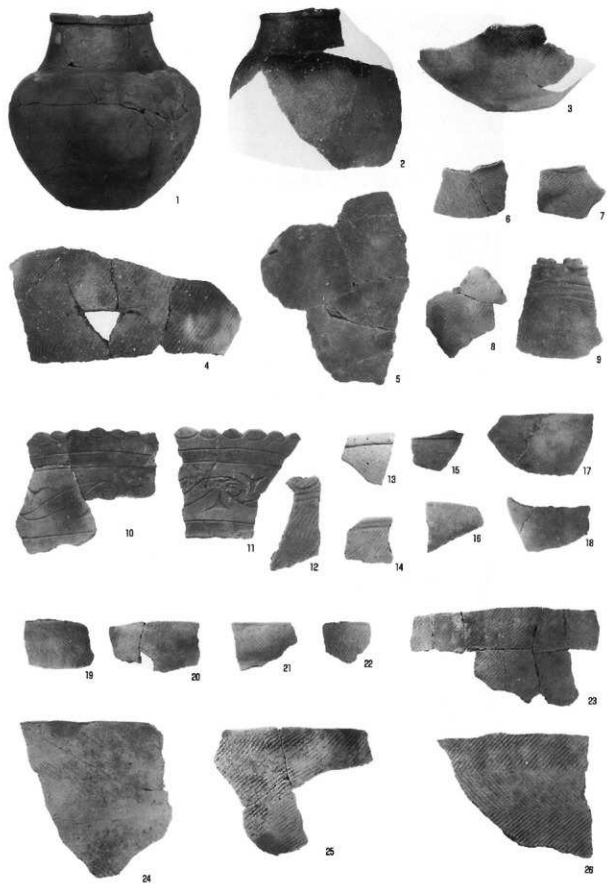
图版74 遗物出土状况



图版75 遗物出土状况

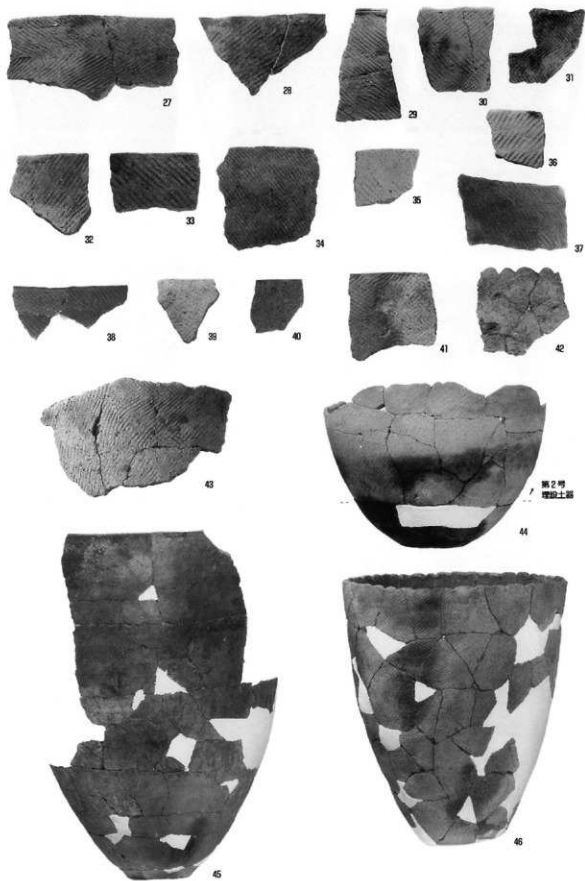


图版76 遗物出土状况

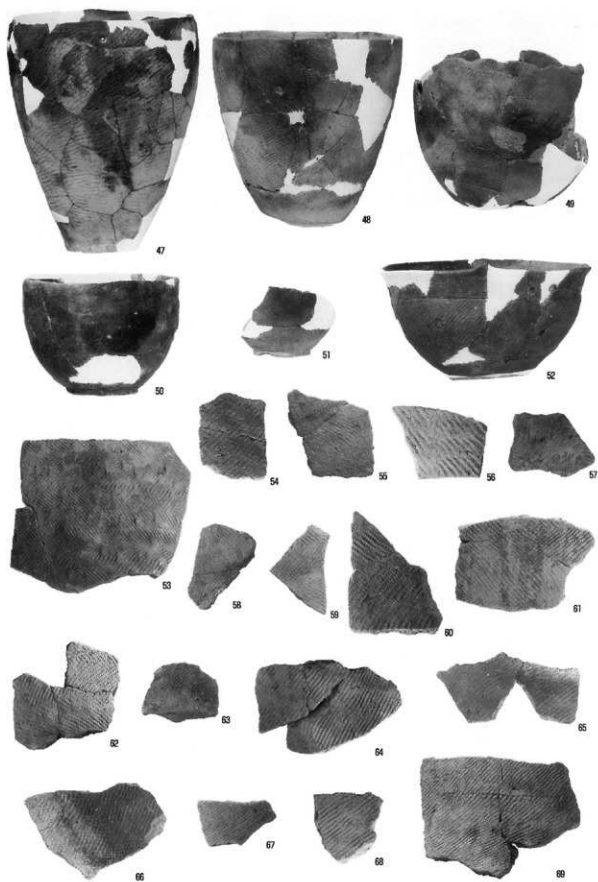


图版77 第1号竖穴住居跡出土遺物

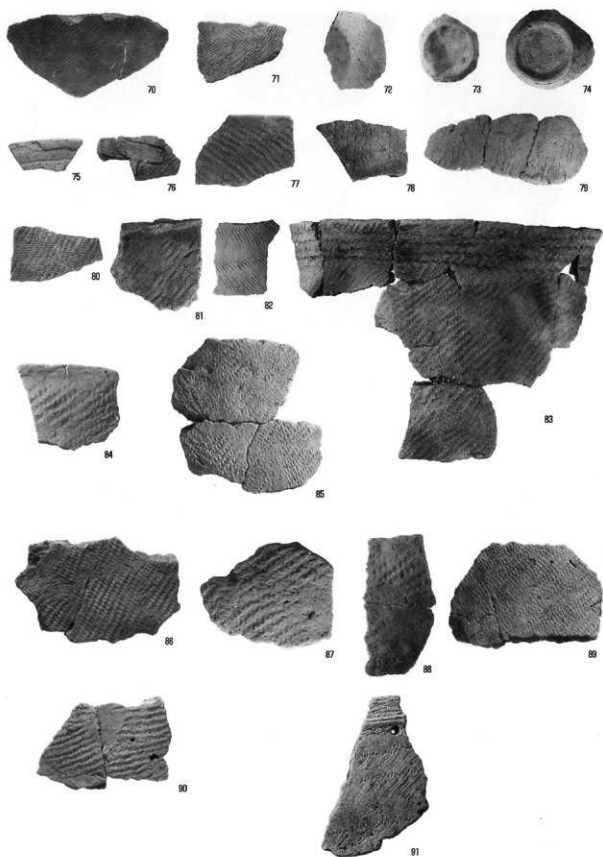




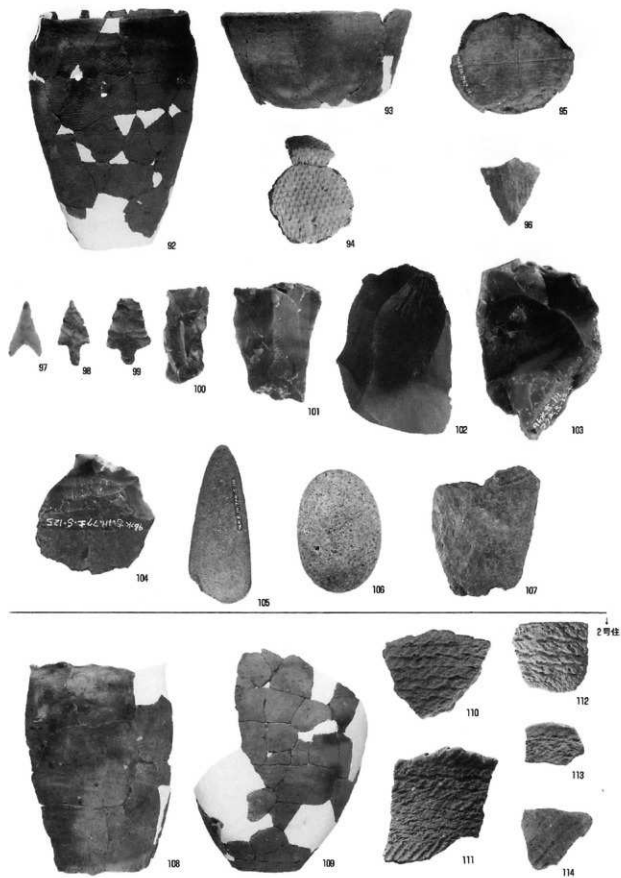
图版78 第1号竖穴住居跡出土遺物



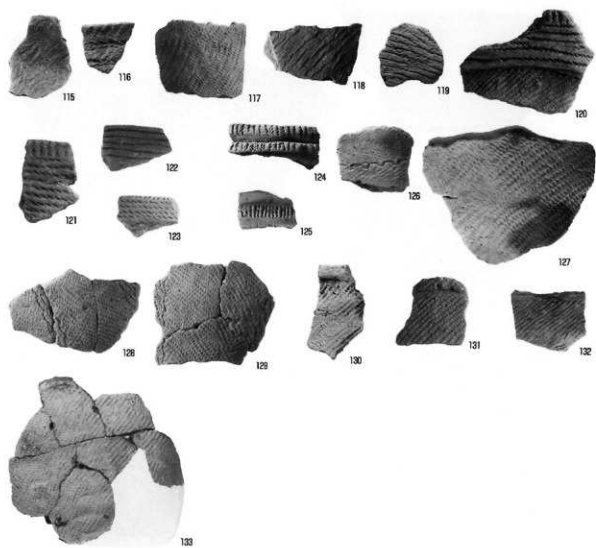
图版79 第1号竖穴住居跡出土遺物



图版80 第1号竖穴住居跡出土遺物



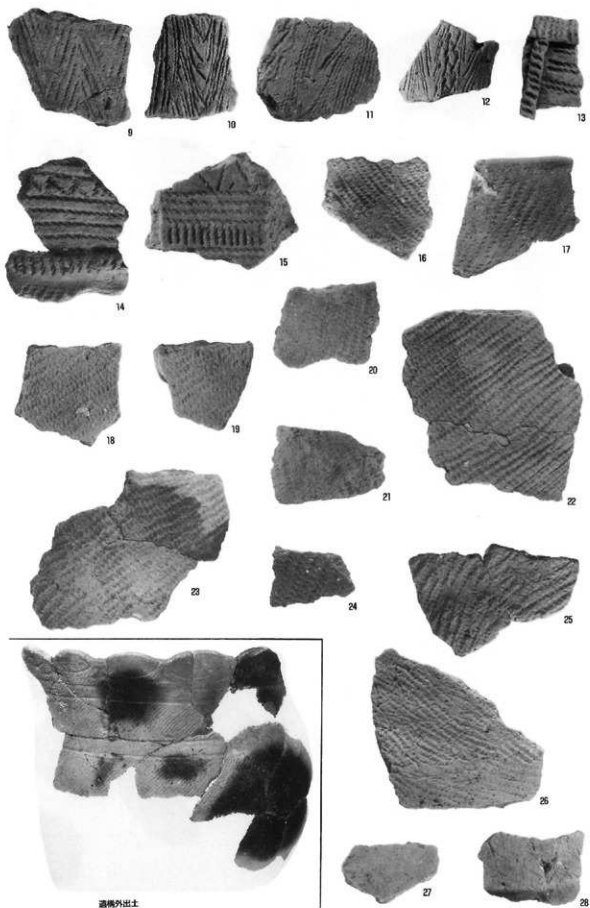
图版81 第1号·2号竖穴住居跡出土遺物



图版82 第2号竖穴住居跡出土遺物



图版83 第4号整穴住居跡出土遺物



遺構外出土

図版04 第4号竖穴住居跡出土遺物

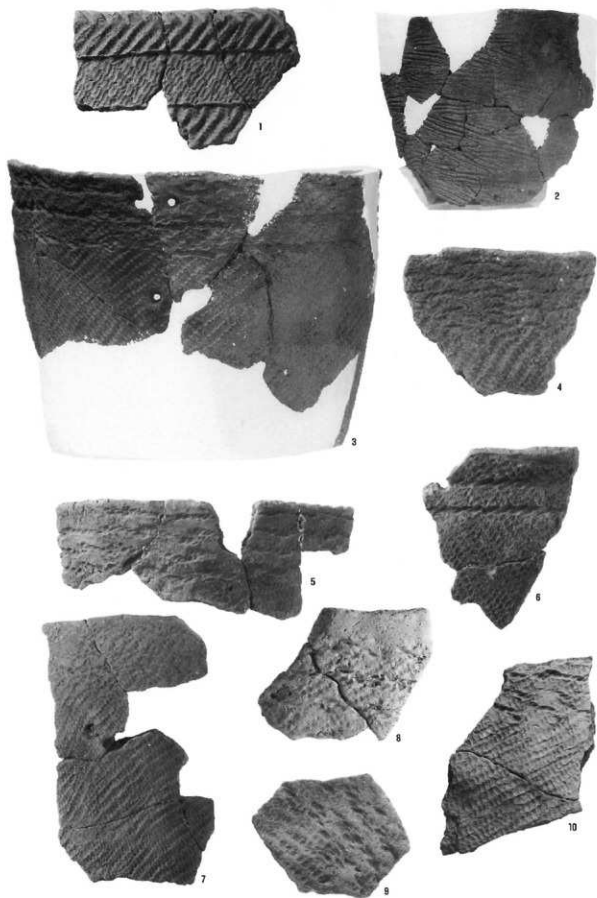


図版85 土坑内出土遺物・遺構外出土土製品・ミニチュア土器





图版86 第1·3号埋设土器



図版87 遺構外出土遺物



11



12



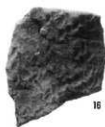
13



14

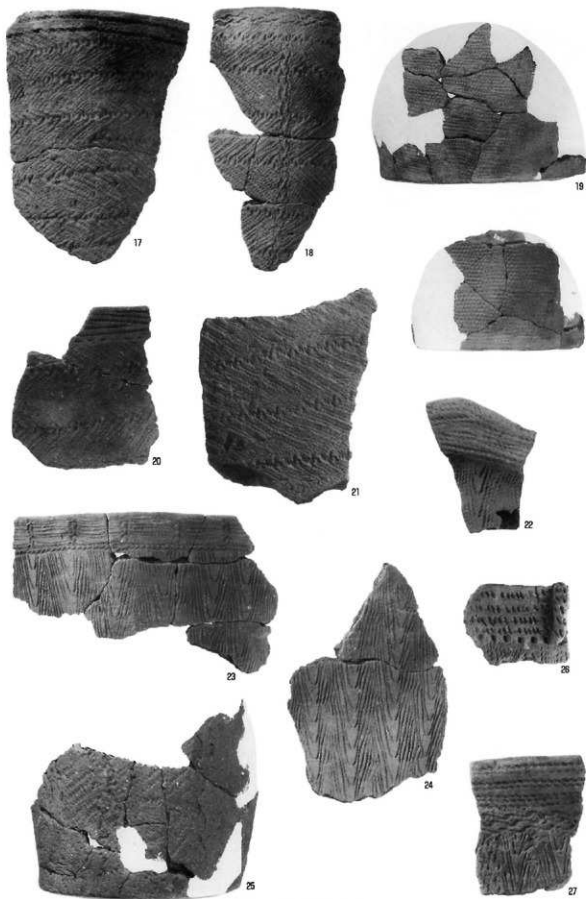


15



16

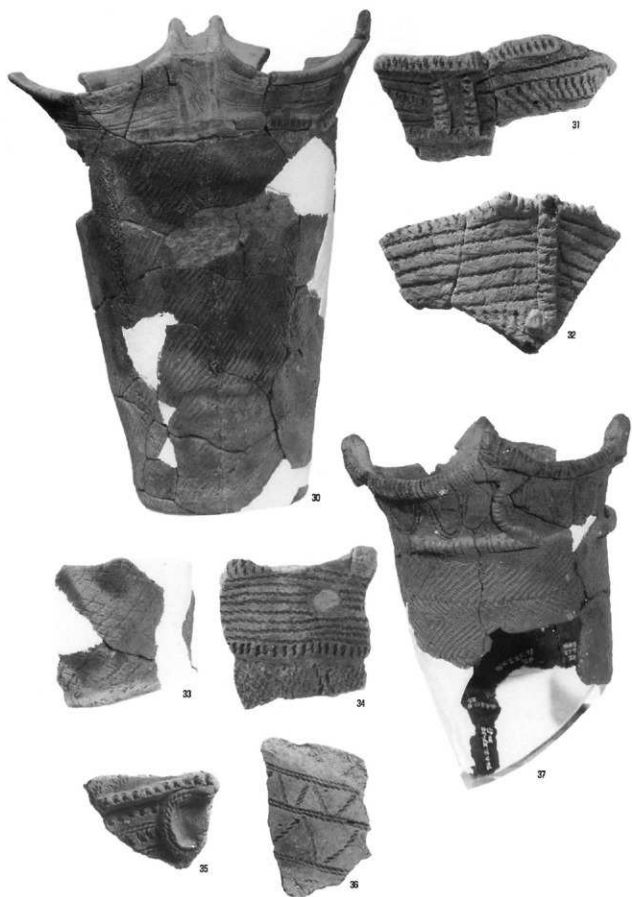
図版88 遺構外出土遺物



图版89 遺構外出土遺物



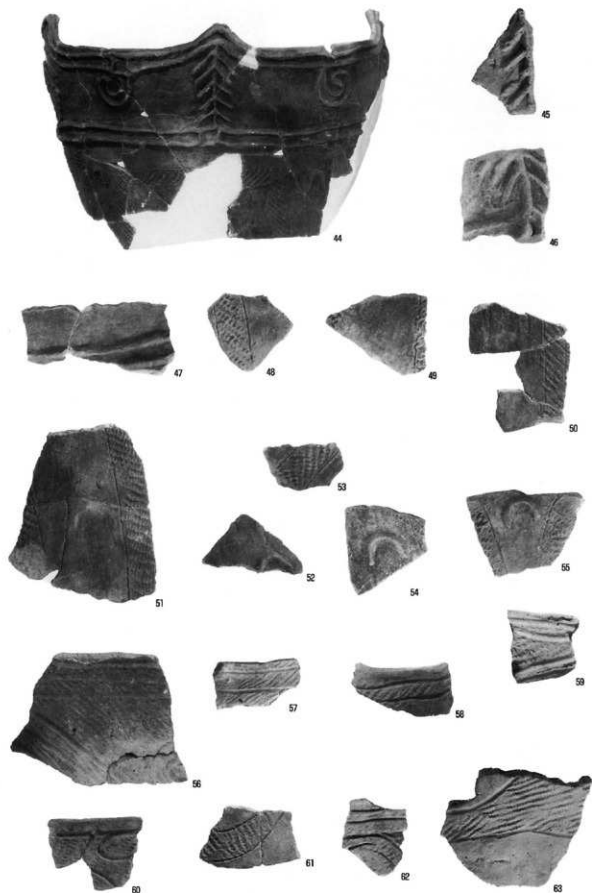
図版90 遺構外出土遺物



图版91 遺構外出土遺物

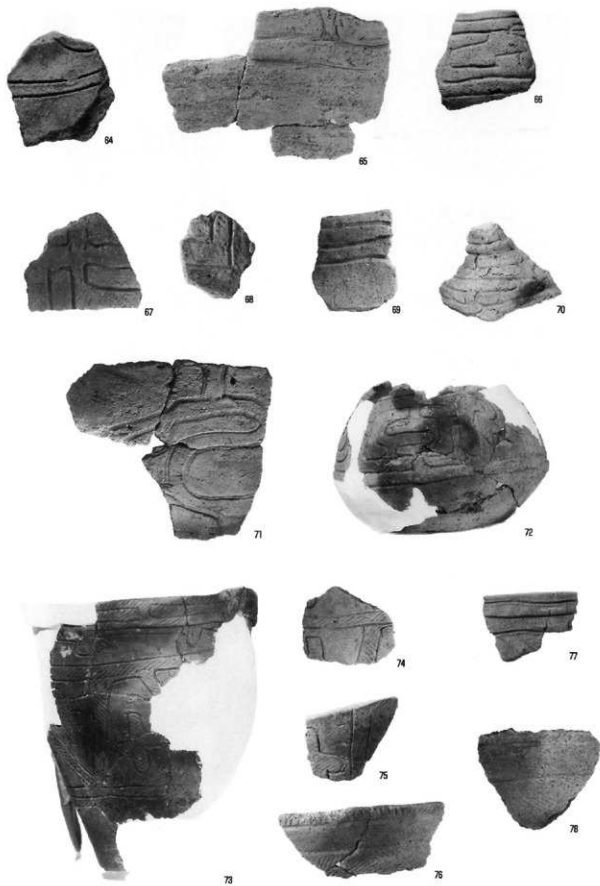


図版92 遺構外出土遺物



圖版93 遺構外出土遺物

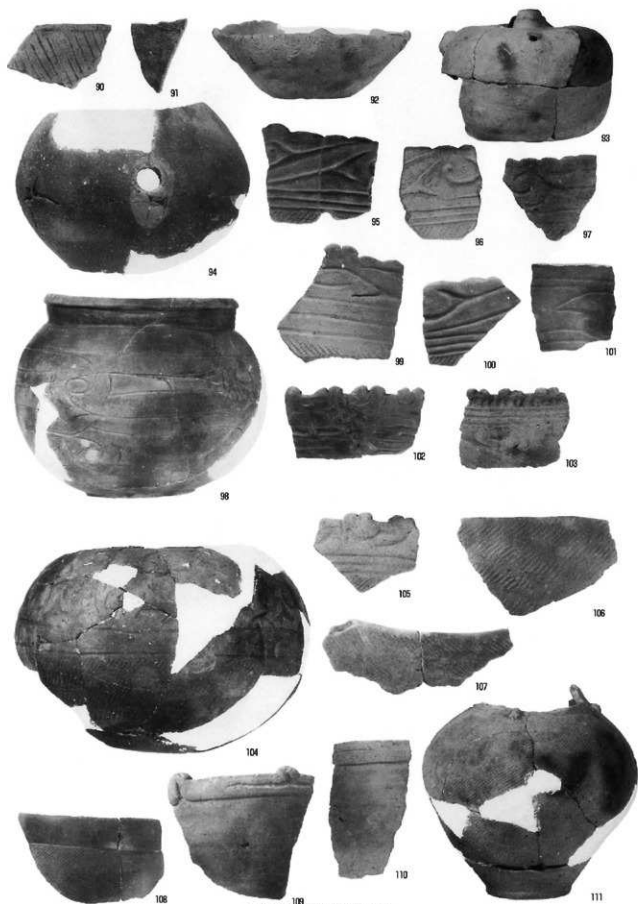




圖版94 遺構外出土遺物



圖版95 遺構外出土遺物



図版96 遺構外出土遺物



112a



112b



113a



113b

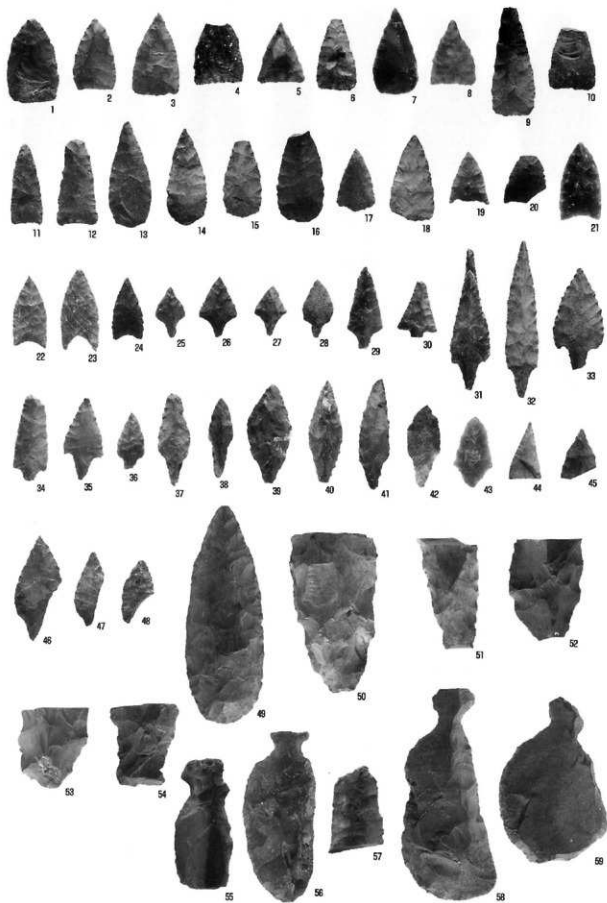


114a

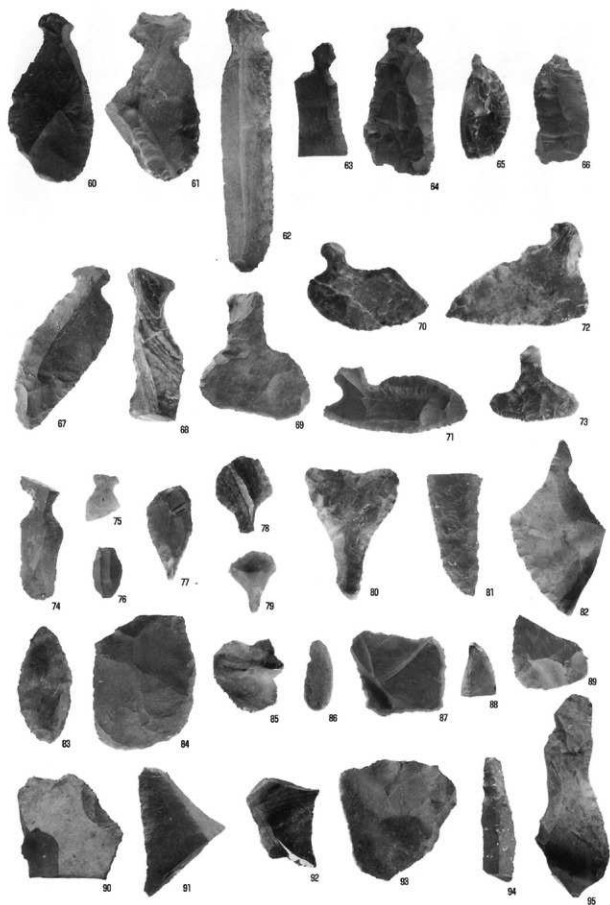


114b

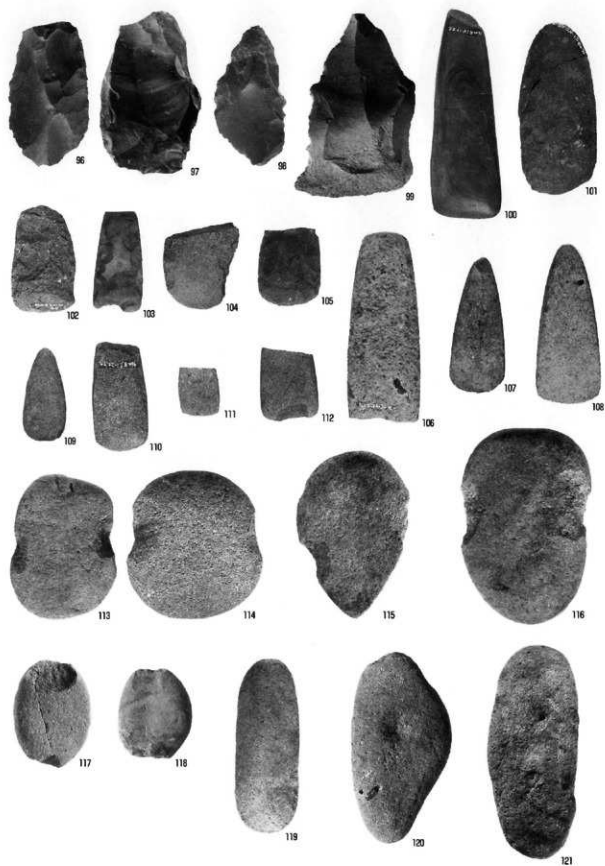
圖版97 遺構外出土遺物



圖版98 遺構外出土遺物石器(1)



圖版99 遺構外出土遺物石器（2）

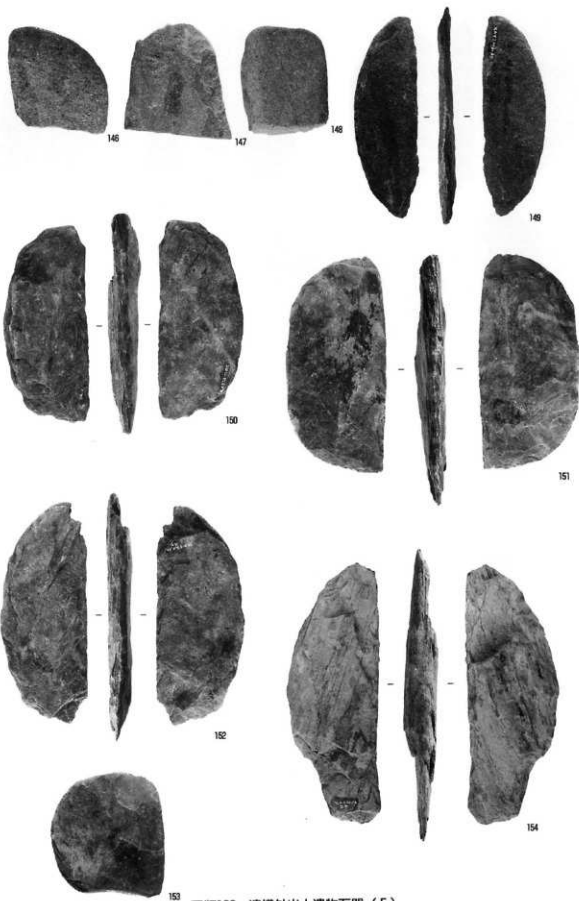


図版100 遺構外出土遺物石器(3)

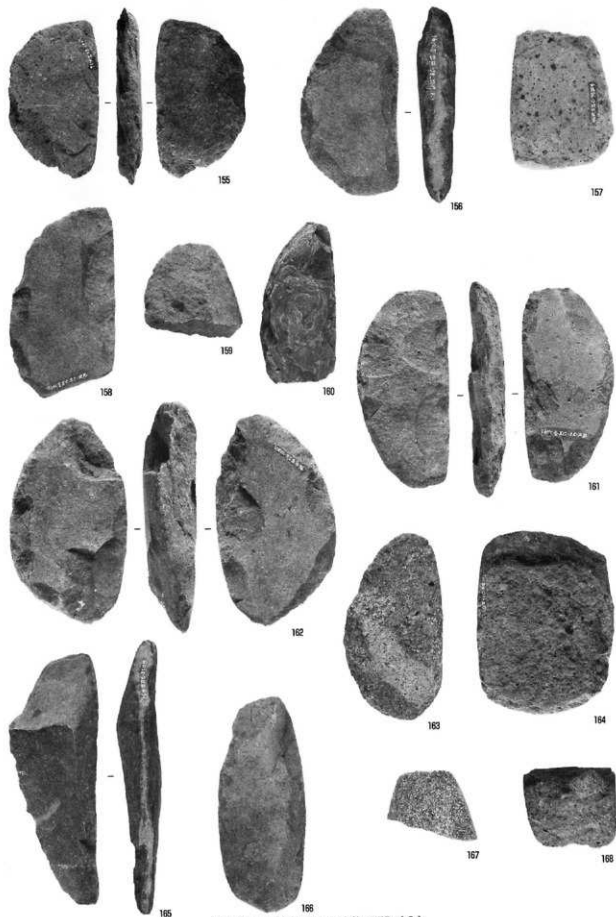


図版101 遺構外出土遺物石器(4)

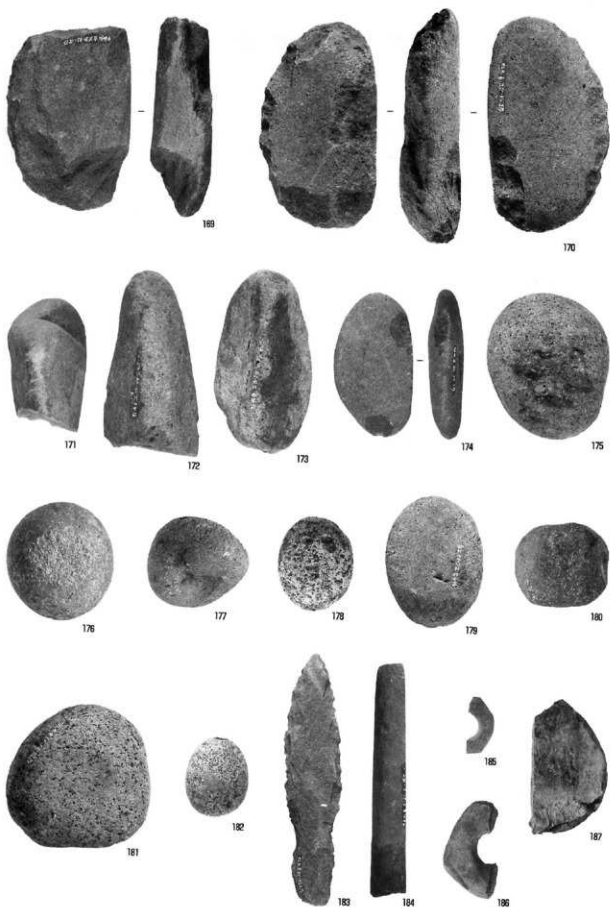




圖版102 遺構外出土遺物石器(5)



図版103 遺構外出土遺物石器(6)



図版104 遺構外出土遺物石器（7）

## 報 告 書 抄 録

ふりがな		みずよしせき						
書名		水吉遺跡						
副書名		八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）に伴う遺跡発掘調査						
巻次								
シリーズ名		青森県埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号		第245集						
編著者名		笹森 一朗・茅野 嘉雄						
編集機関		青森県埋蔵文化財調査センター						
所在地		〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15 TEL 0177-88-5701						
発行年月日		1998年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東緯 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みずよしせき 水吉遺跡	青森県三戸郡南郷村 大字島守字水吉	02448	65229	40°	141°	19960423	11,500	八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）に伴う遺跡発掘調査
				22°	28°	3		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
水吉遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡	3軒	縄文土器			
			土坑	32基				
			竪穴状遺構	1基				
			土器埋設遺構	3基				
			溝状土坑	2基				
			配石	2基				
			屋外炉	1基				
		弥生			弥生土器			
		平安	竪穴住居跡	1軒	土師器			
		近代	炭窯	1基				

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第245集

## 水吉遺跡発掘調査報告書

—八戸平原開拓建設事業（世増ダム建設）に伴う発掘調査報告—

発行年月日 平成10年3月31日  
発行 青森県教育委員会  
〒030-0801 青森市新町二丁目3-1  
編集 青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038-0043 青森市新城字天田内152-15  
TEL 0177-88-5701、FAX0177-88-5702  
印刷 長尾印刷株式会社  
〒030-0931 青森市平新田字森越17-1  
TEL 0177(26)7121、FAX0177-26-9237

---



